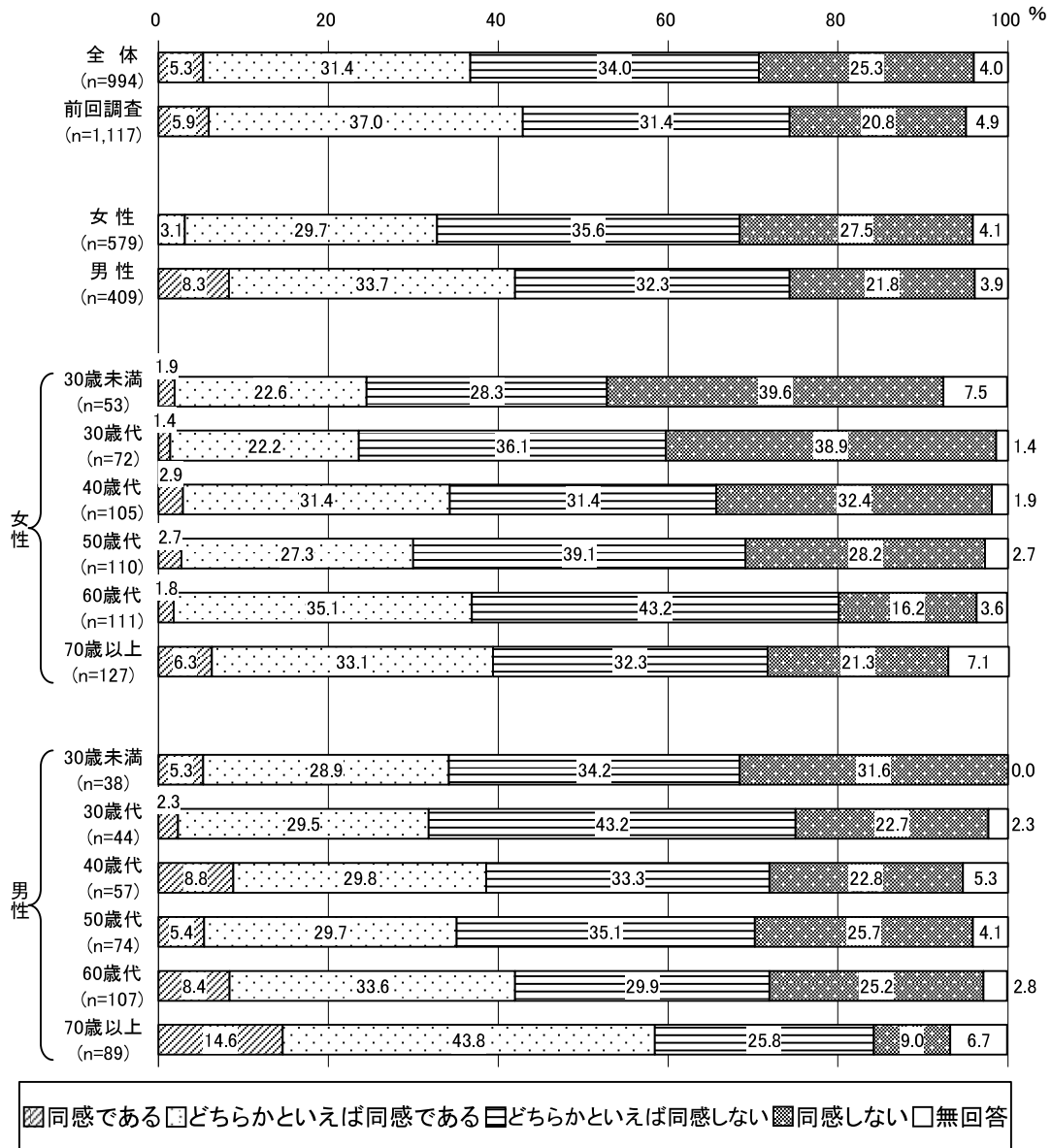


暮らしの悩みなどについて

問 22 「男は仕事、女は家庭」という男女で役割を固定した考え方について、あなたはどのように思いますか。〔〇は1つ〕

- 全体では、男女で役割を固定した考え方について、「同感である」(53%)、「どちらかといえば同感である」(31.4%)で、同感をあらわす意向は合計36.7%、一方「どちらかといえば同感しない」(34.0%)、「同感しない」(25.3%)で同感しない意向は合計59.3%です。
- 前回調査と比べると「同感である」「どちらかといえば同感である」の割合がともに減少し、「どちらかといえば同感しない」「同感しない」がともに増加しました。
- 性別でみると、「どちらかといえば同感しない」「同感しない」のどちらも女性の割合が男性の割合を上回っています。
- 性別・年齢別にみると、「どちらかといえば同感しない」「同感しない」の合計値は、女性30歳代が75.0%と最も高く、これに女性30歳未満・50歳代や男性30歳代・30歳未満などが続きます。

男女の役割を固定した考え方をどう思うか

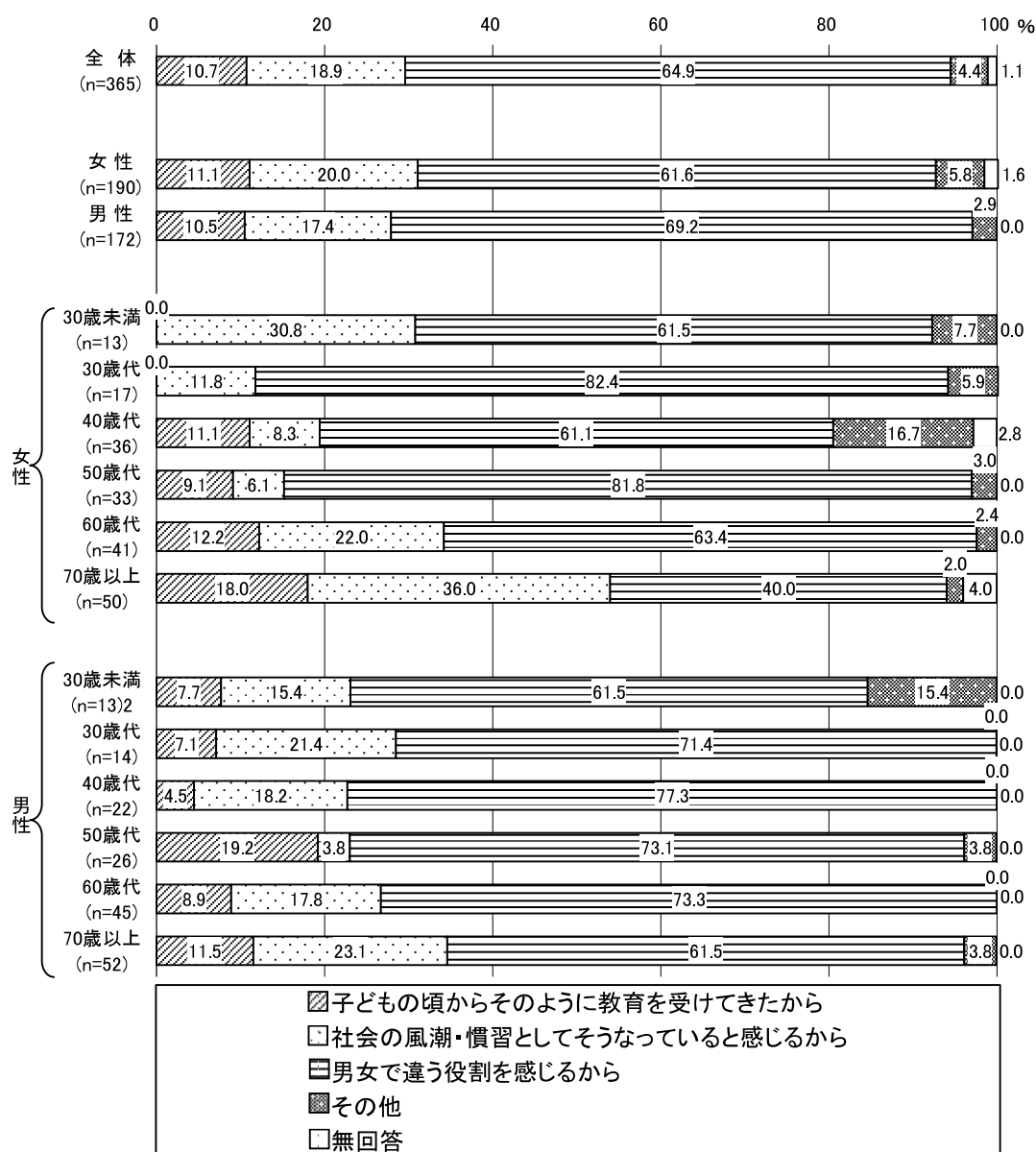


問 23 は、問 22 で「1. 同感である」「2. どちらかといえば同感である」のいずれかに答えた方におたずねします。

問 23 その理由は次のうちどれに近いですか。〔〇は1つ〕

- 全体では、同感意向を示す理由は「男女で違う役割を感じるから」が 64.9% で最も多いです。これに「社会の風潮・慣習としてそうなっていると感じるから」(18.9%)、「子どもの頃からそのように教育を受けてきたから」(10.7%)が続きます。
- 性別・年齢別にみると、女性 30 歳代と 50 歳代で「男女で違う役割を感じるから」が 80% を超えています。

男女の役割固定に同感する理由

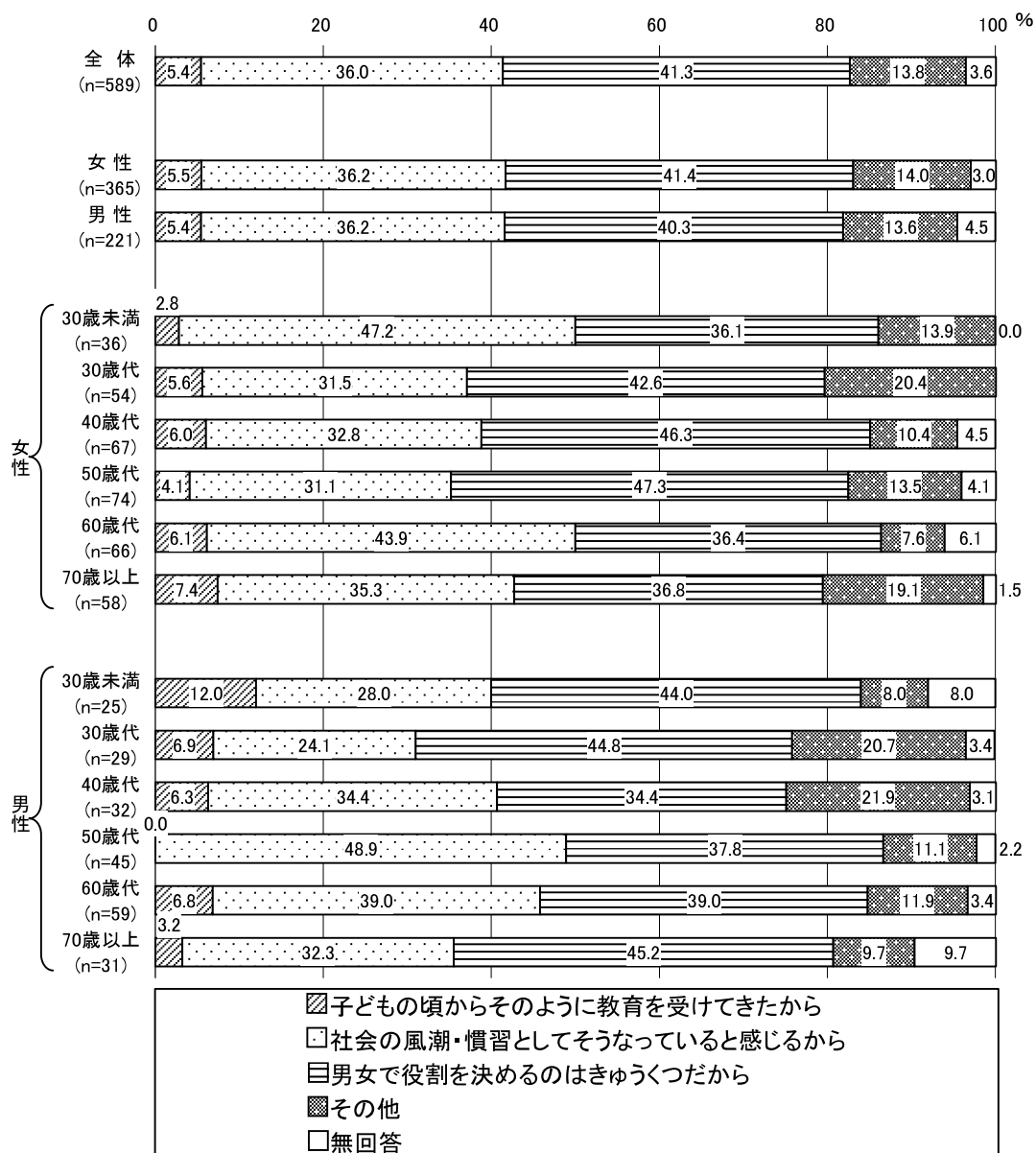


問 24 は、問 22 で「3. どちらかといえば同感しない」「4. 同感しない」のいずれかに答えた方におたずねします。

問 24 その理由は次のうちどれに近いですか。〔〇は1つ〕

- 全体では、同感しない意向を示す理由は「男女役割を決めるのはきゅうくつだから」が 41.3% で最も多いです。これに「社会の風潮・慣習としてそうなっていると感じるから」(36.0%)、「子どもの頃からそのように教育を受けてきたから」(5.4%)が続きます。
- 性別・年齢別にみると、「男女役割を決めるのはきゅうくつだから」の割合が高いのは女性 50 歳代、次いで女性 40 歳代などとなっています。

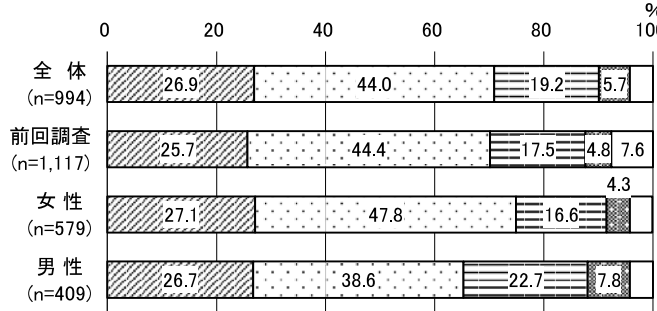
男女の役割固定に同感しない理由



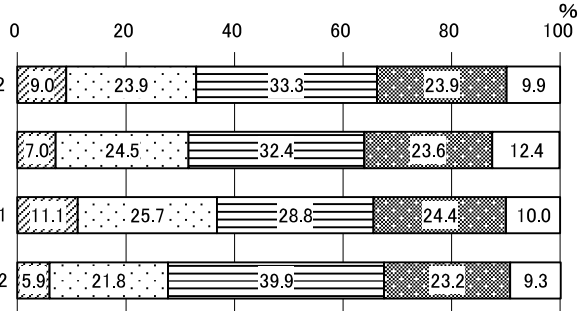
問 25 あなたは、生活の中でどのようなことでストレス（不安や悩み）を感じていますか。
〔(1)～(7)それぞれに○は1つ〕

- 全体では、生活の中において、「ストレスを強く感じる」とする割合は、『(1)老後の生活（経済や健康）(26.9%)』 > 『(4)経済的なことで(23.3%)』 > 『(6)親の介護や病気(10.3%)』 > 『(2)配偶者やパートナー、恋人のことで(9.0%)』 > 『(3)子どものことで(6.6%)』の順です。
- 前回調査とは、全体的に大きな差はみられません。
- 性別でみると、「ストレスを強く感じる」とする割合が性別によって高いのは、『(2)配偶者やパートナー、恋人のこと』『(5)家事の負担』『(6)親の介護や病気』の3項目で、いずれも女性の割合が男性より4ポイント以上高くなっています。
- 性別・年齢別に、ストレス強度係数でみると、『(1)老後の生活（経済や健康）』は、全体的に女性が高く、男女の同じ年代では必ず女性が高くなっています。『(4)経済的なことで』では男女の50歳代と男女の30歳代で高いです。
- 『(5)家事の負担』はストレス強度係数ベースでは3番目の高さになり、特に女性30歳代～50歳代で高いです。

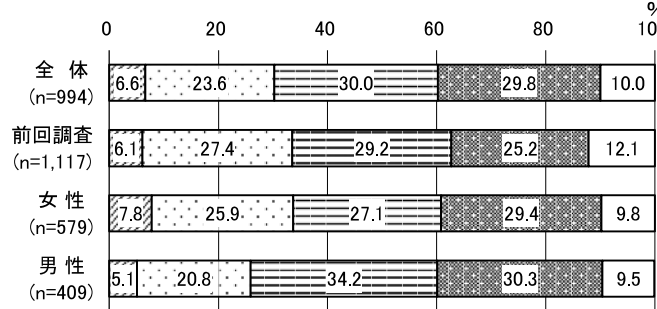
(1) 老後の生活（経済や健康）



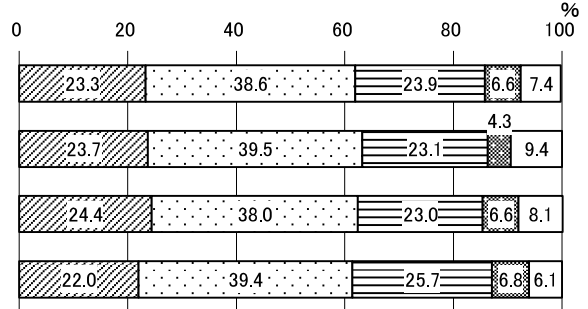
(2) 配偶者やパートナー、恋人のことで



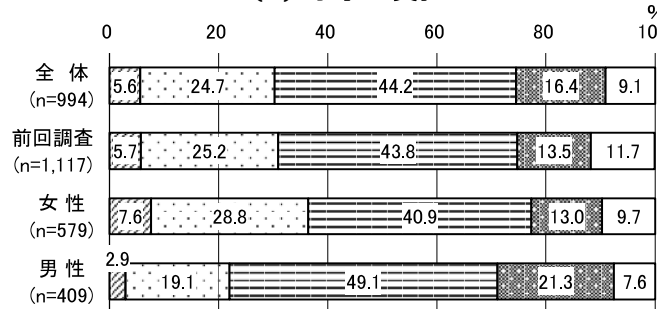
(3) 子どものことで



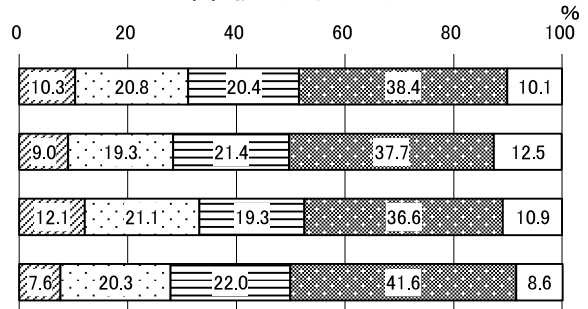
(4) 経済的なことで



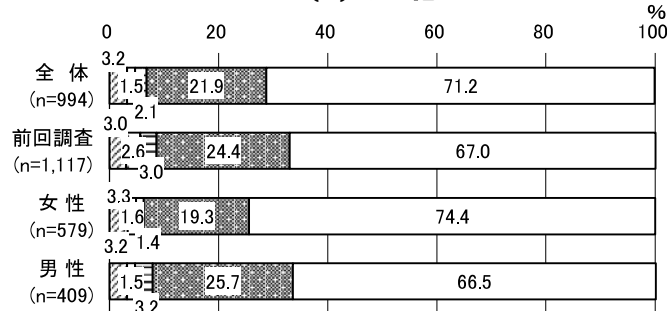
(5) 家事の負担



(6) 親の介護や病気



(7) その他

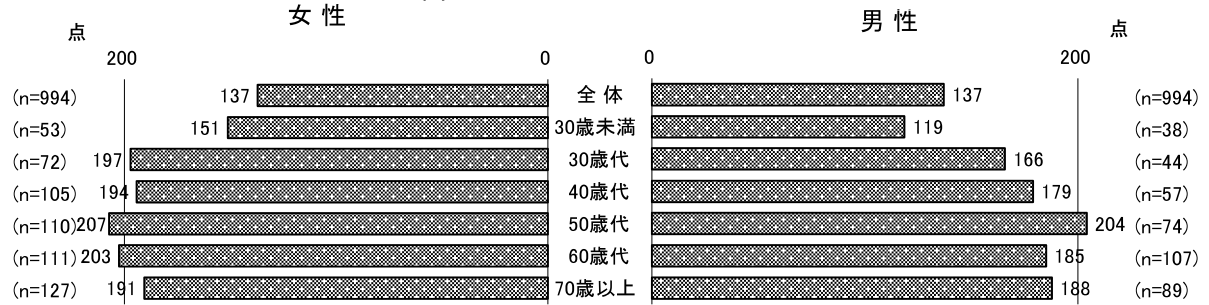


■ ストレスを強く感じる □ ストレスを感じる
 ■ ストレスを・ほとんど感じない ■ 当てはまらない
 □ 無回答

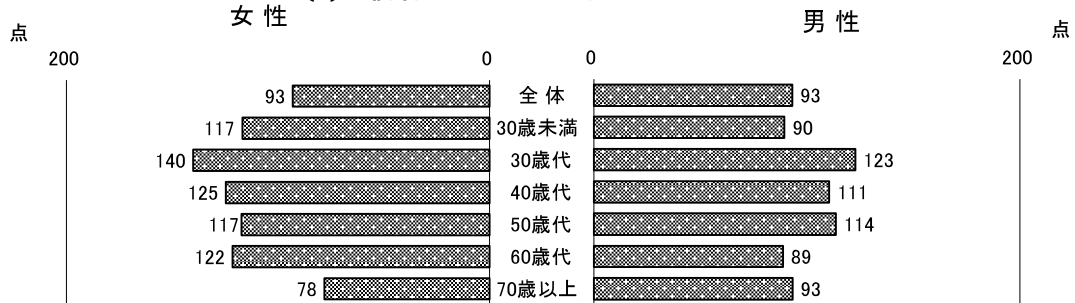
ストレス強度係数(性×年齢別)

「ストレスを強く感じる」「ストレスを感じる」「ストレスはほとんど感じない」への回答1%あたりにそれぞれ、3点、2点、1点を与え、これらを合計したものをグラフ化しました。数値が高いほどストレスを強く感じているとみることができます。

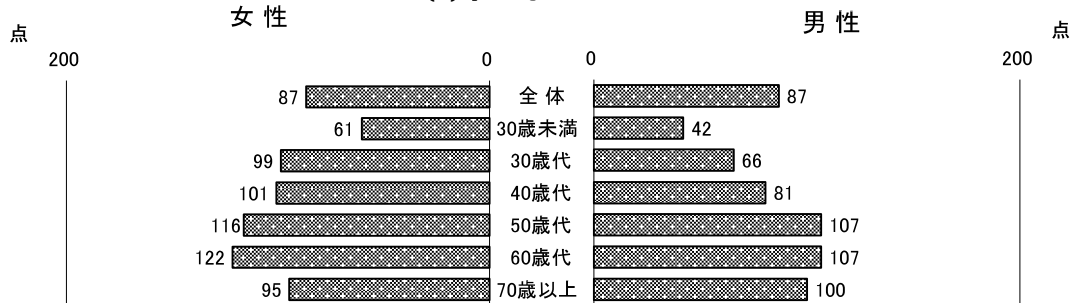
(1)老後の生活（経済や健康）



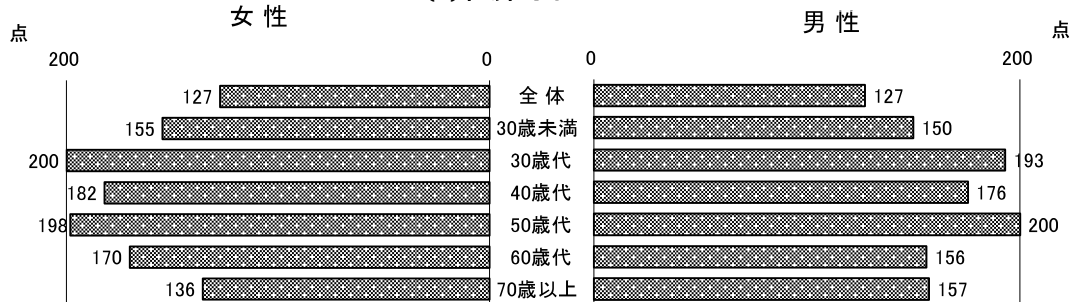
(2)配偶者やパートナー、恋人のことで

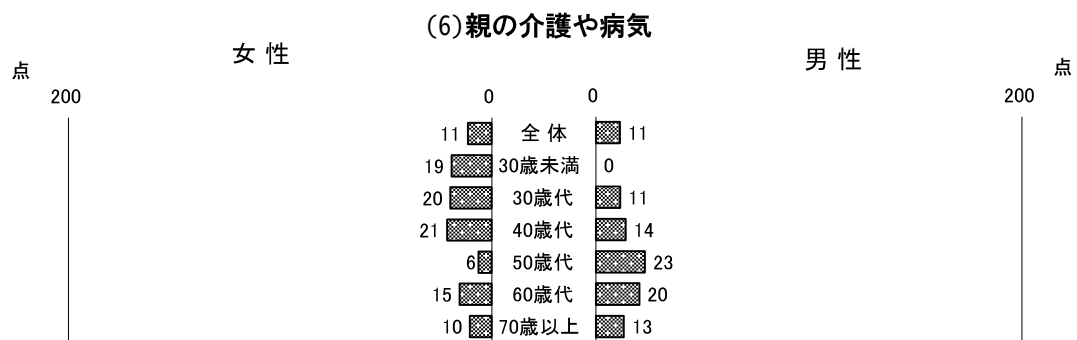
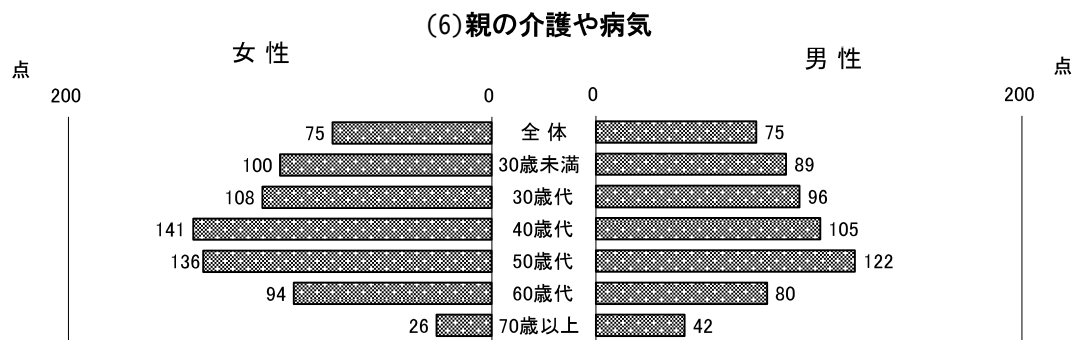
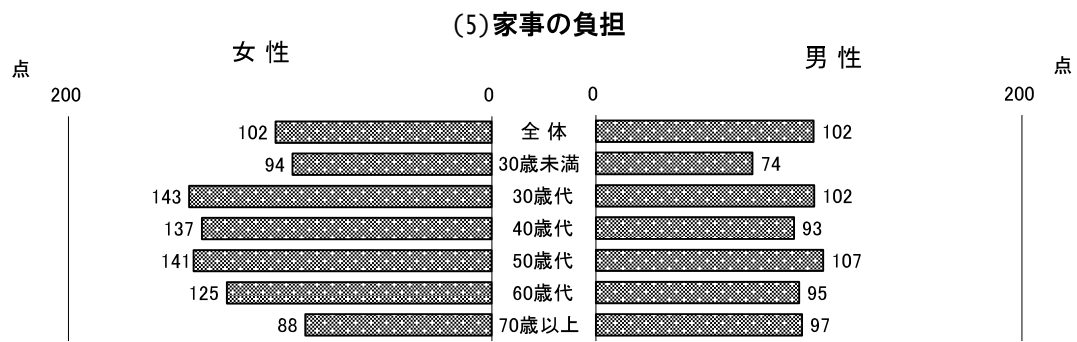


(3)子どものことで



(4)経済的なことで



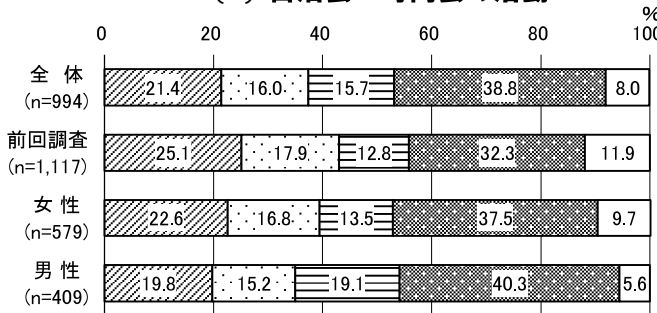


問 26 次の地域活動について、あなたの参加状況に近いものに○をつけてください。

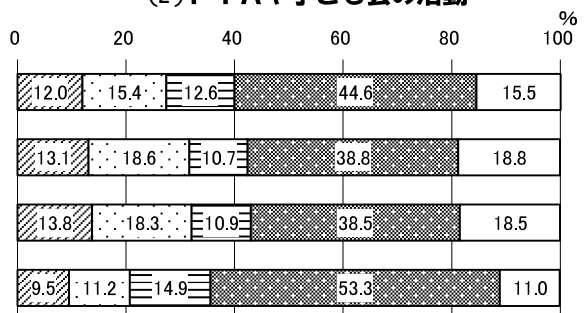
〔(1)～(5)それぞれに○は1つ〕

- ・全体では、地域活動への参加状況について、「(参加した、しており) 今後も参加したい」の割合が最も高いのは、『(1)自治会・町内会の活動』の21.4%で、これに『(3)地域における趣味・スポーツ・学習の活動(16.7%)』『(2)PTAや子ども会の活動(12.0%)』などが続きます。
- ・「今後も参加したい」と「(参加したことがないが) 今後は参加したい」の割合を合計すると、『(3)地域における趣味・スポーツ・学習の活動』が40.9%、『(1)自治会・町内会の活動』の37.1%などが高く、これらにはおよそ40%内外の人の参加が望める可能性があります。
- ・前回調査との比較では、(1)～(5)を通じて「今後も参加したい」の割合が低下しています。
- ・性別・年齢別にみると、30歳代以下の若い層では全体的に「今後は参加したい」の割合が高く、関心が強いです。その一方、『(1)自治会・町内会の活動』『(2)PTAや子ども会の活動』については、女性40歳代～60歳代で「今後は参加したくない」の割合が高いです。

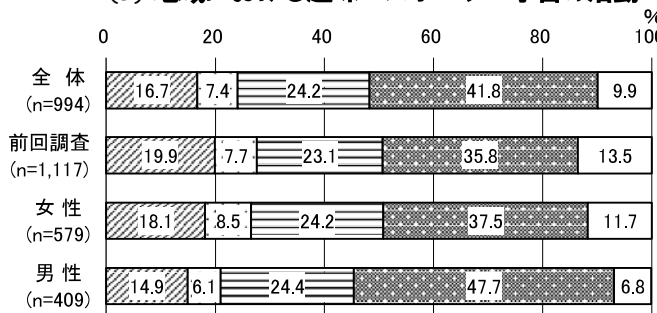
(1) 自治会・町内会の活動



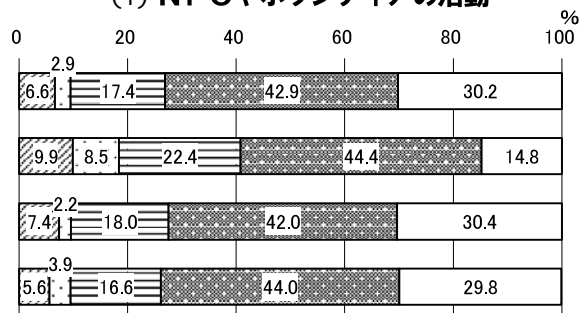
(2) PTAや子ども会の活動



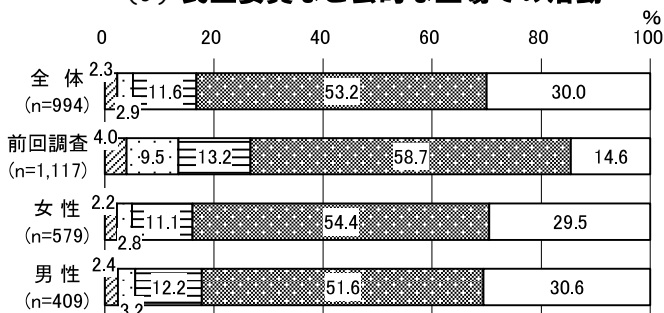
(3) 地域における趣味・スポーツ・学習の活動



(4) NPOやボランティアの活動

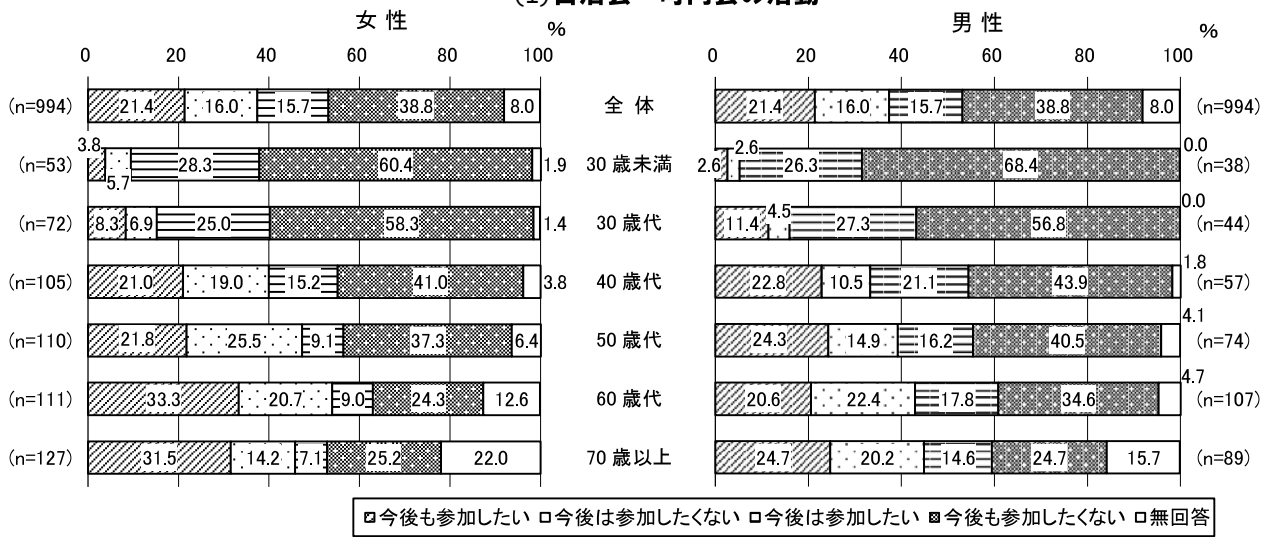


(5) 民生委員など公的な立場での活動

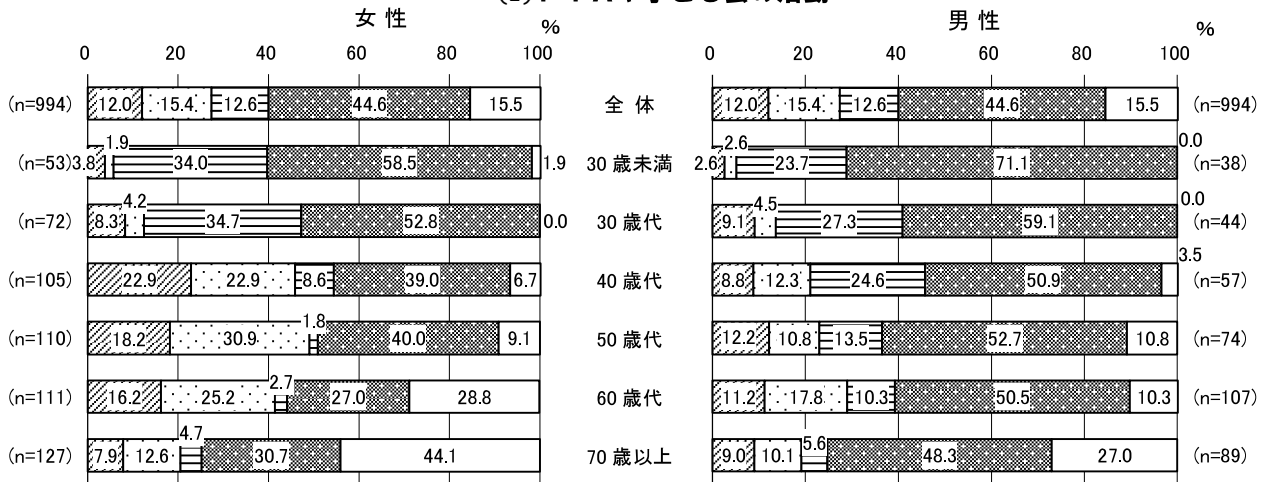


☒ 今後参加したい ☐ 今後は参加したくない
☐ 今後は参加したい ☒ 今後参加したくない
☐ 無回答

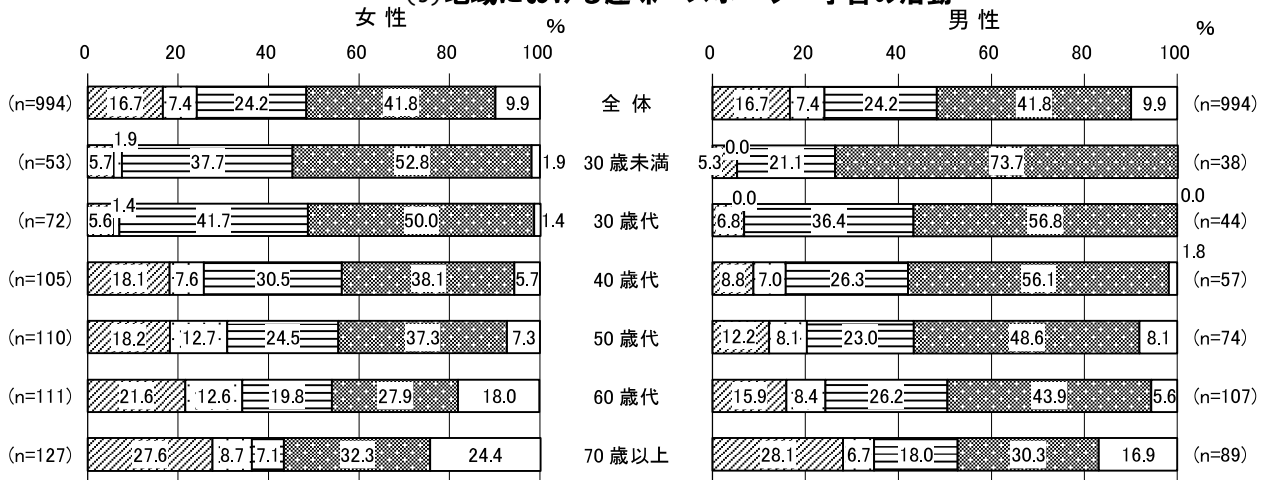
(1) 自治会・町内会の活動



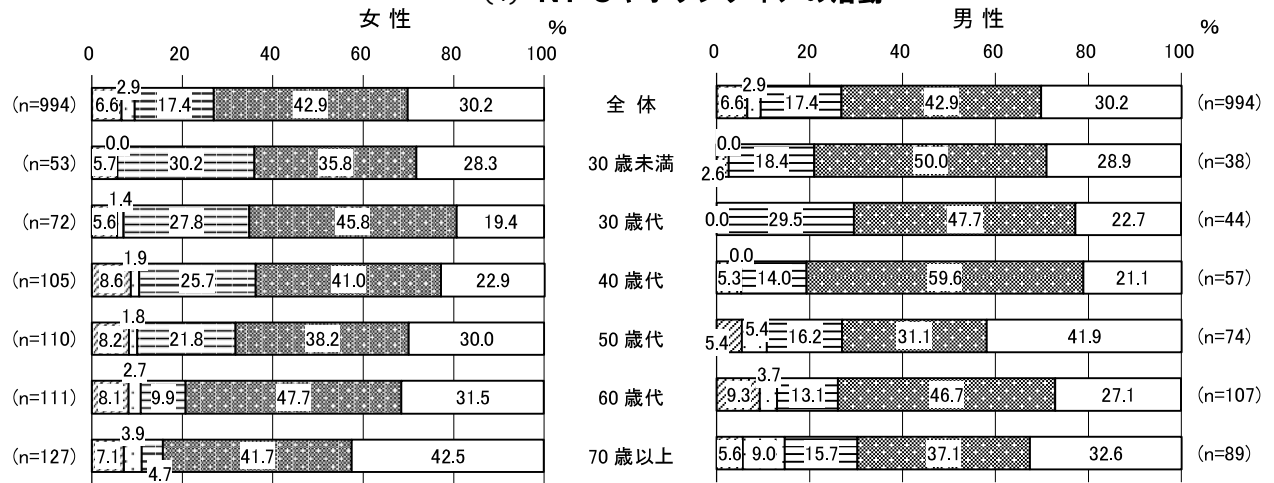
(2) PTAや子ども会の活動



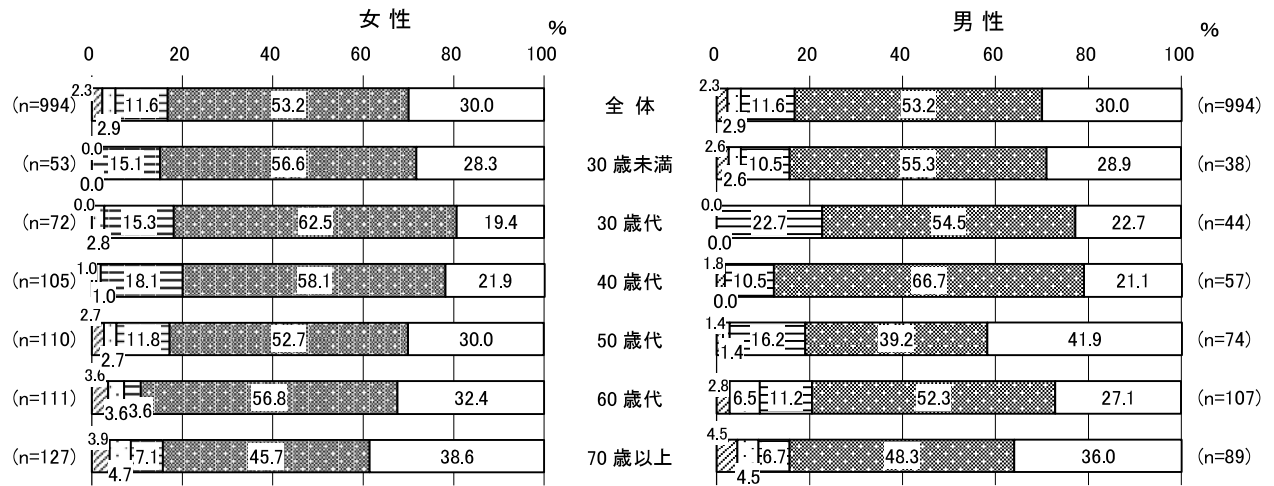
(3) 地域における趣味・スポーツ・学習の活動



(4) NPOやボランティアの活動



(5) 民生委員・市政協力委員など公的な立場での活動

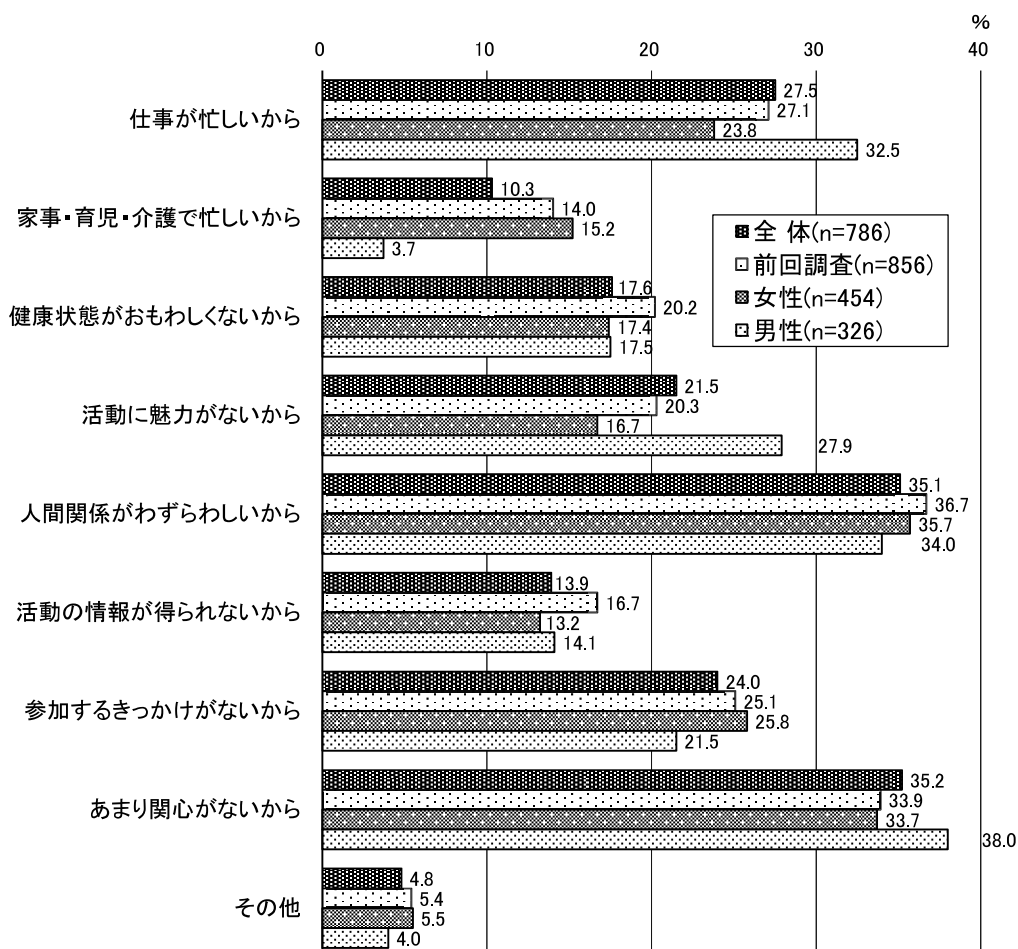


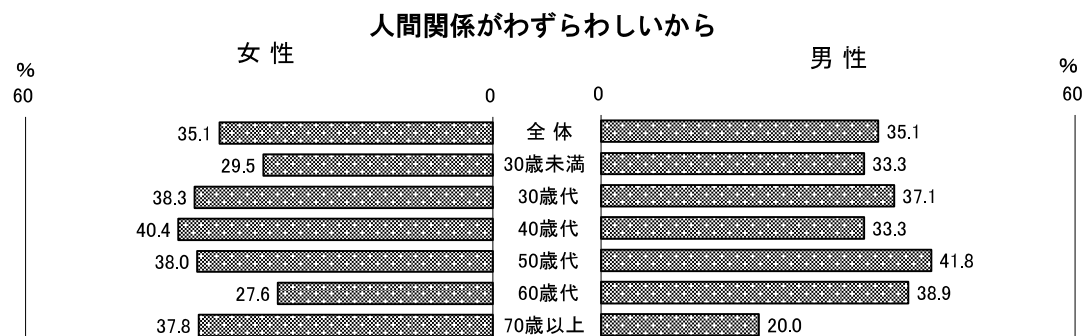
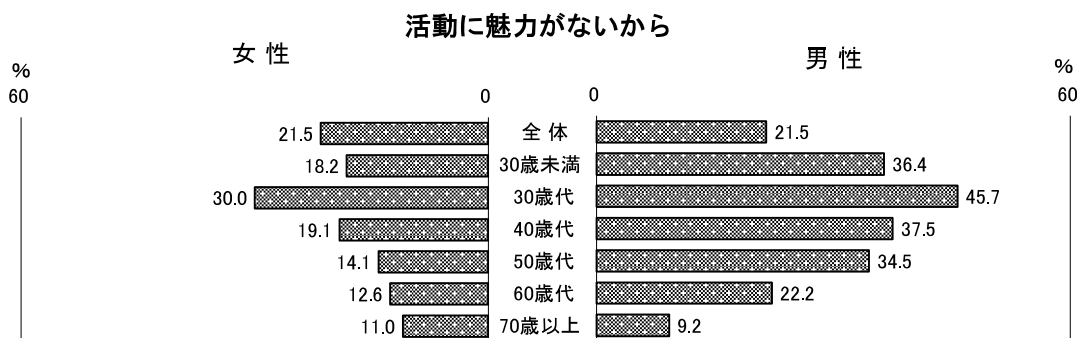
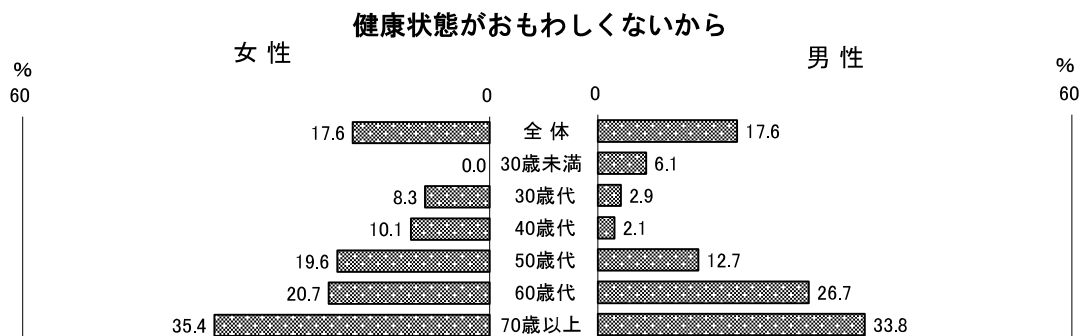
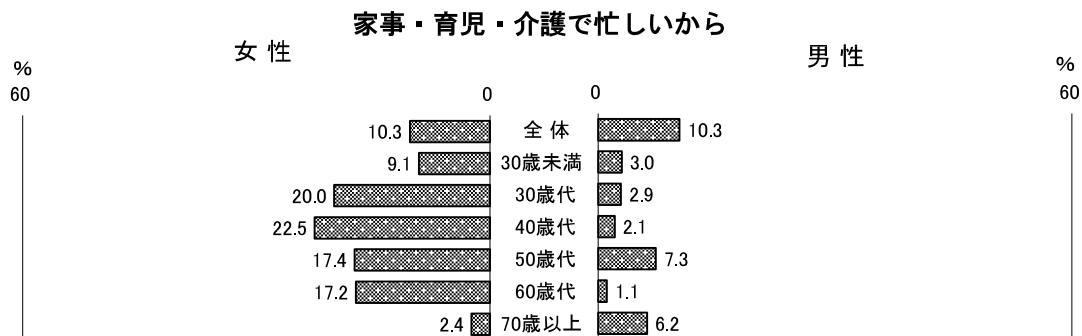
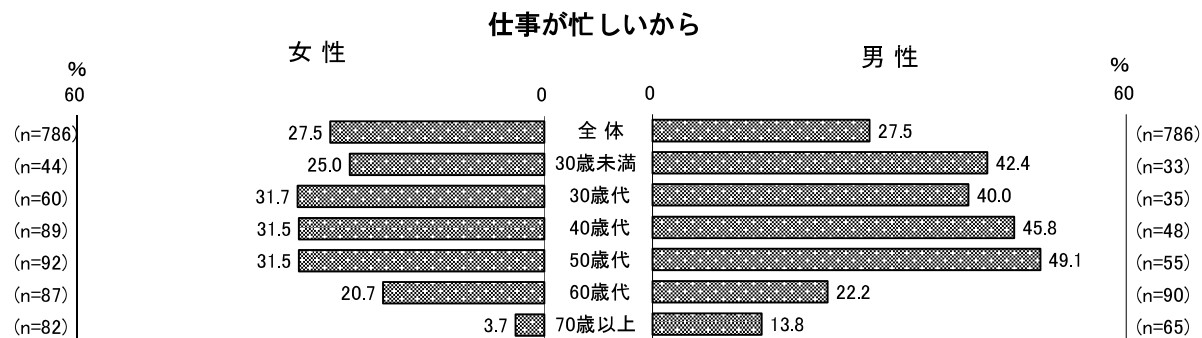
問 27 は、問 26 の(1)～(5)で「2. (参加した、している) 今後は参加したくない」もしくは「4. (参加したことがない) 今後も参加したくない」に1つ以上答えた方におたずねします。

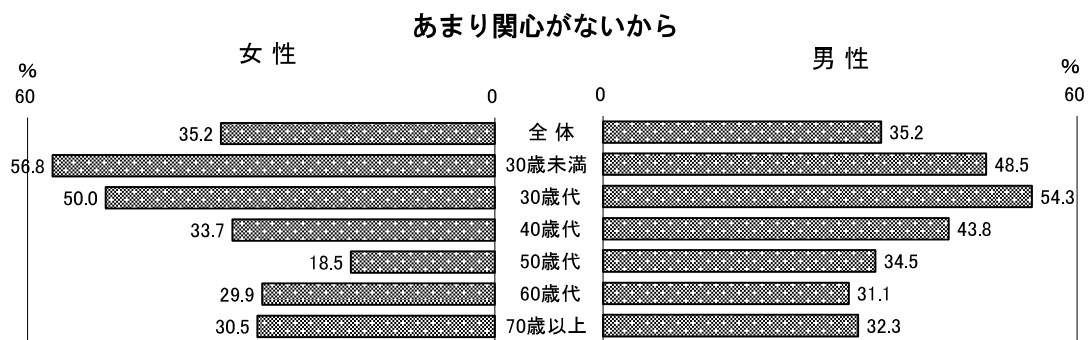
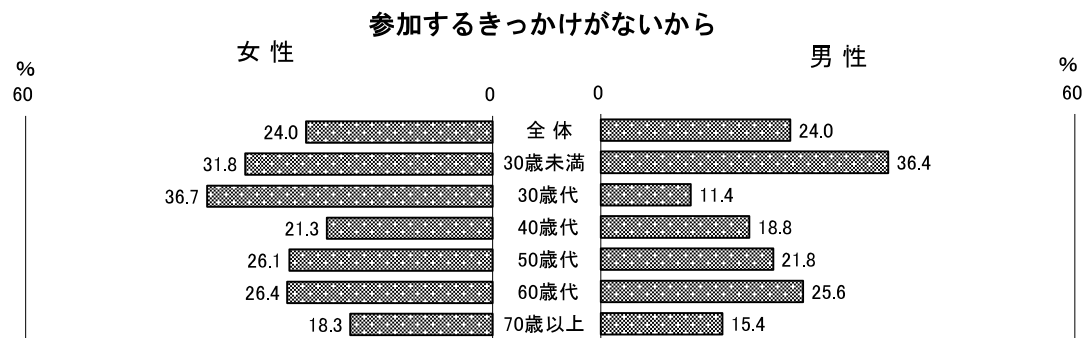
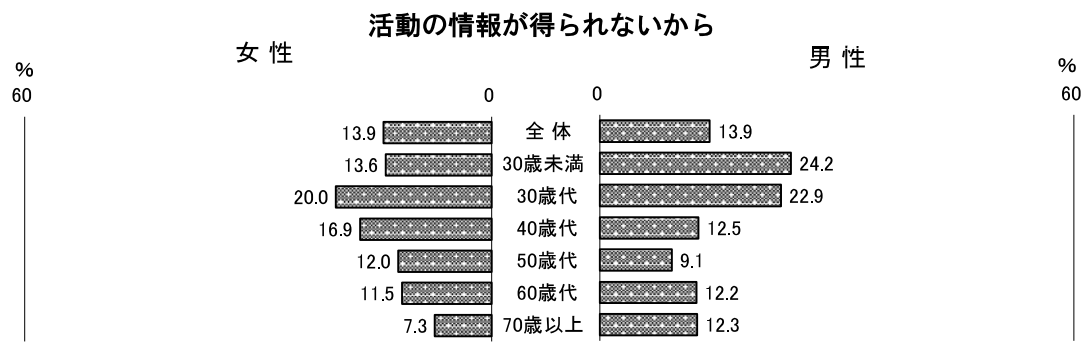
問 27 それはどうしてですか。〔〇はいくつでも〕

- 全体では、地域活動へ参加しない理由として、「あまり関心がないから」(35.2%)、「人間関係がわずらわしいから」(35.1%)が高く、これに「仕事が忙しいから」(27.5%)、「参加するきっかけがないから」(24.0%)などが続きます。
- 性別でみると、女性では「家事・育児・介護で忙しいから」「参加するきっかけがないから」の割合が高く、男性では「仕事が忙しいから」「活動に魅力がないから」が高いです。
- 性別・年齢別では、男女の30歳代以下で「あまり関心がないから」の割合が高いです。「参加するきっかけがないから」は女性30歳代以下や男性30歳未満で高いです。「家事・育児・介護で忙しいから」は女性の30歳代と40歳代で20%以上です。

地域活動に参加したくない理由

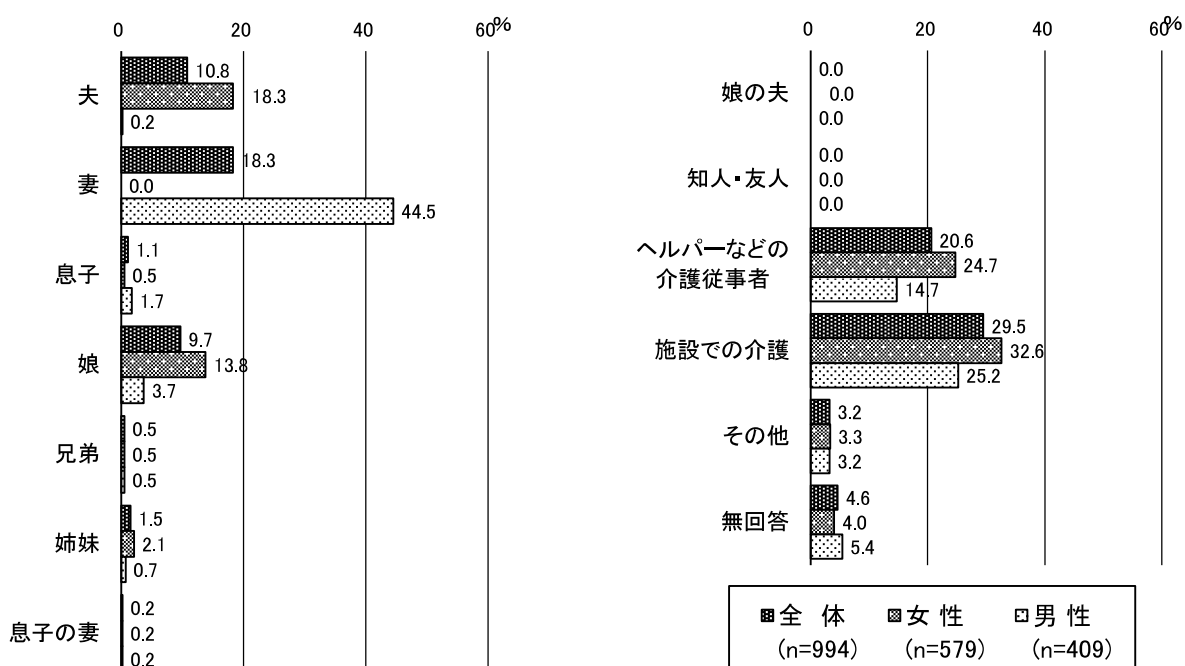






問 28 あなた自身に介護が必要となった場合、主に誰に介護をしてもらいたいと思いますか。
〔〇は1つ〕

- 性別でみると、主に介護をしてもらいたい相手として、女性では「施設での介護」＞「ヘルパーなどの介護従事者」＞「夫」の順、男性では「妻」＞「施設での介護」＞「ヘルパーなどの介護従事者」の順であり、女性では施設や外部の従事者を優先し、男性では配偶者の介護を優先しています。また、前回調査から大きな変化はみられませんでした。
- この傾向は、男女とも年齢層を通じて共通しています。

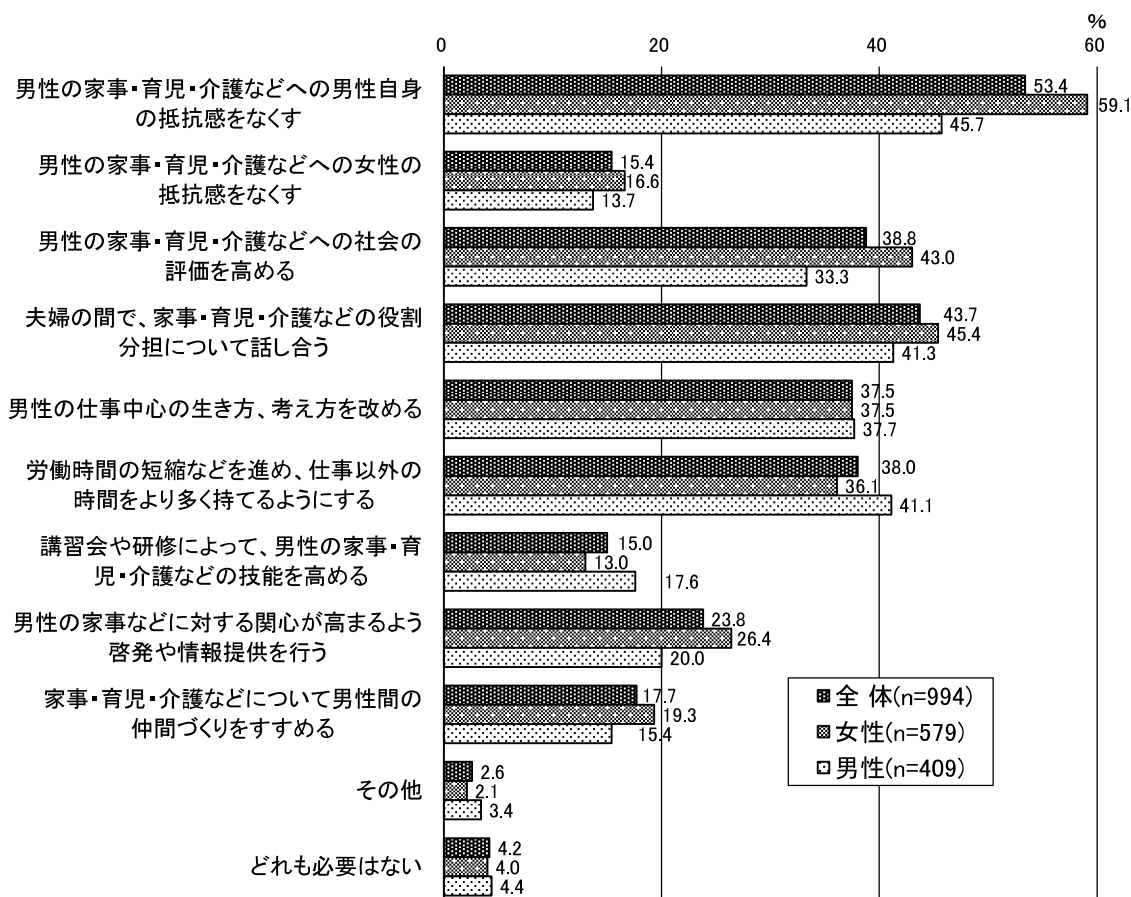


		第 1 位	第 2 位	第 3 位
全 体(n=994)		施設での介護	ヘルパーなどの介護従事者	妻
女性	30 歳未満(n=53)	施設での介護	ヘルパーなどの介護従事者 娘	夫
	30 歳代(n=72)	施設での介護	ヘルパーなどの介護従事者	
	40 歳代(n=105)	ヘルパーなどの介護従事者	施設での介護	
	50 歳代(n=110)	施設での介護	ヘルパーなどの介護従事者	
	60 歳代(n=111)			
	70 歳以上(n=127)			
男性	30 歳未満(n=38)	妻	施設での介護	ヘルパーなどの介護従事者
	30 歳代(n=44)			
	40 歳代(n=57)			
	50 歳代(n=74)			
	60 歳代(n=107)			
	70 歳以上(n=89)			

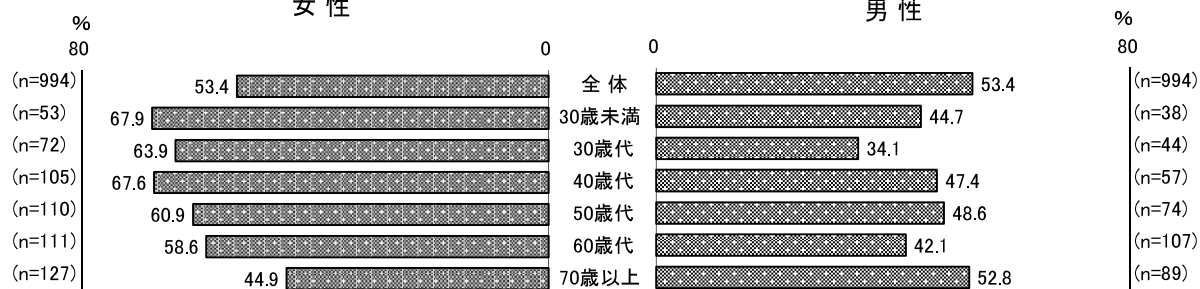
問 29 あなたは、今後、男性が家事・育児・介護、地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが特に必要だと思いますか。[○はいくつでも]

- ・全体では、男性の積極的参加に必要なこととして、「男性の家事・育児・介護などへの男性自身の抵抗感をなくす」(53.4%)、「夫婦の間で、家事・育児・介護などの役割分担について話し合う」(43.7%)、「男性の家事・育児・介護などへの社会の評価を高める」(38.8%)などが上位です。
- ・性別でみると、女性の割合が高いのは「男性の家事・育児・介護などへの男性自身の抵抗感をなくす」「男性の家事・育児・介護などへの社会の評価を高める」「男性の家事などに対する関心が高まるよう啓発や情報提供を行う」などで、男性の自覚・関心の向上や社会的な価値観の転換を求めています。また男性の割合が高いのは「労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」「講習会や研修によって、男性の家事・育児・介護などの技能を高める」などで、ワーク・ライフ・バランスの確保や、家事などの技能の習得が求められています。
- ・性別・年齢別にみると、「男性の家事・育児・介護などへの男性自身の抵抗感をなくす」に対しては女性の50歳代以下の層で60%を超えています。「労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」は全体的には男性の支持が高いですが、性別・年齢別で最も高いのは女性30歳代で、女性30歳未満の層においても過半数の支持を得ています。

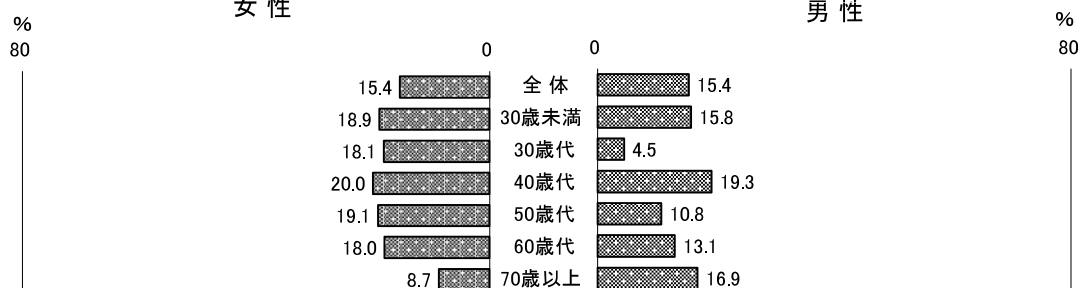
男性が家事などに参加するために特に必要なこと



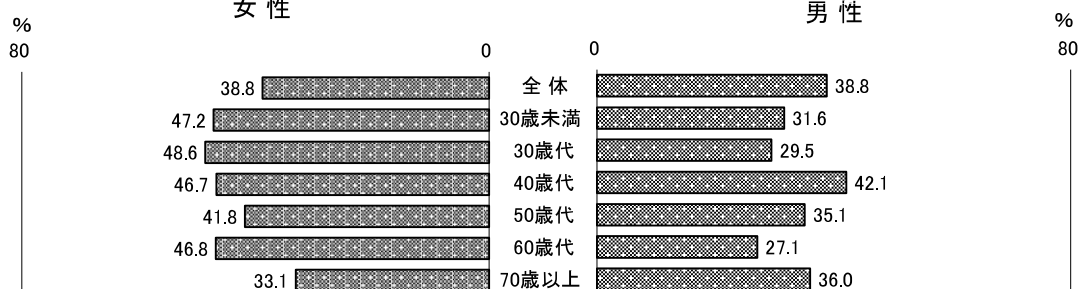
男性の家事・育児・介護などへの男性自身の抵抗感をなくす



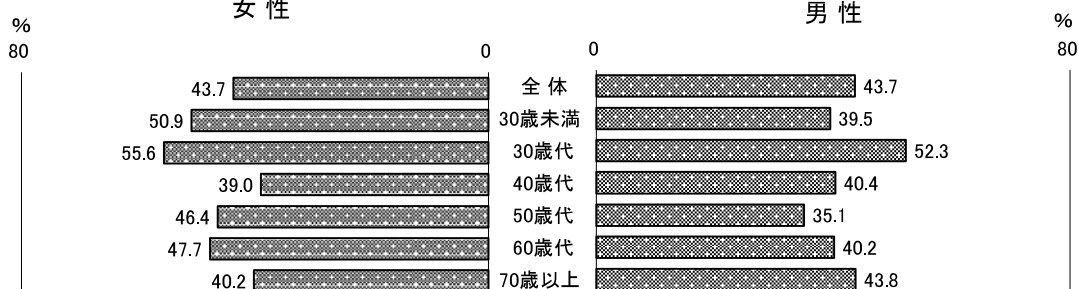
男性の家事・育児・介護などへの女性の抵抗感をなくす



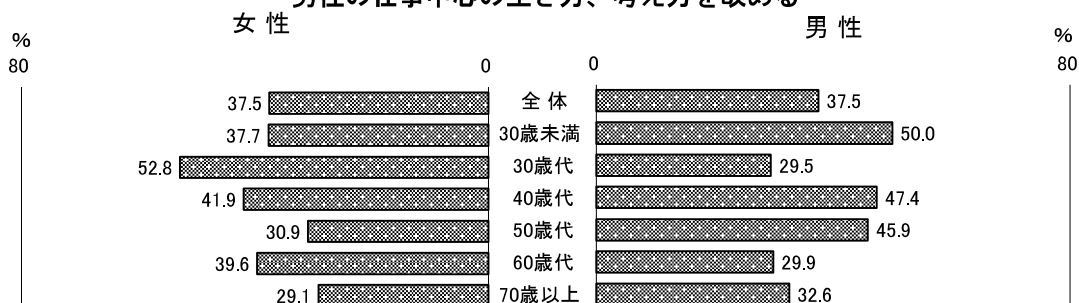
男性の家事・育児・介護などへの社会の評価を高める



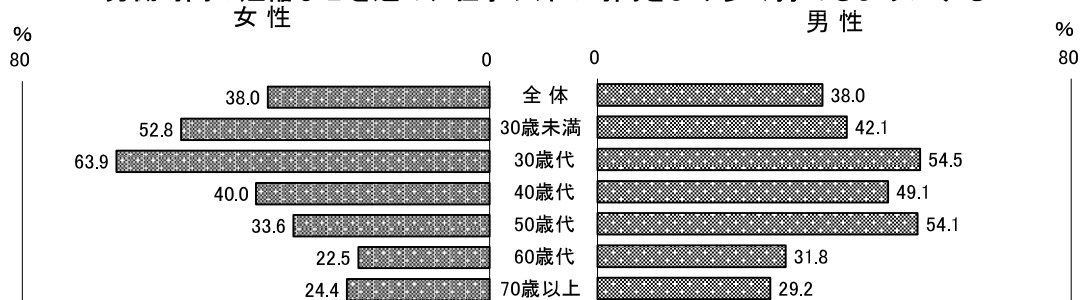
夫婦の間で、家事・育児・介護などの役割分担について話し合う



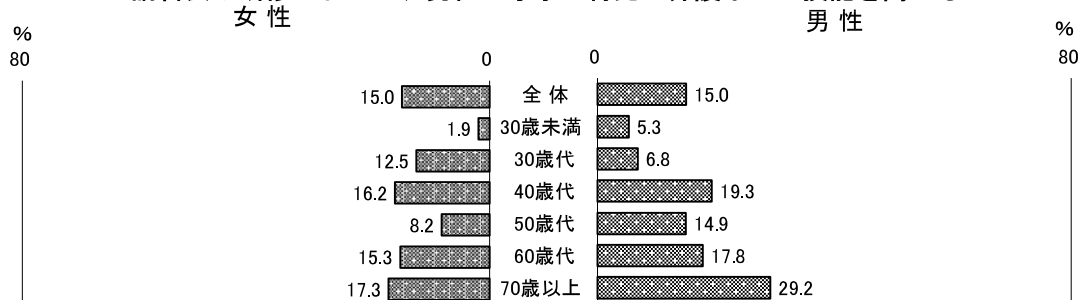
男性の仕事中心の生き方、考え方を改める



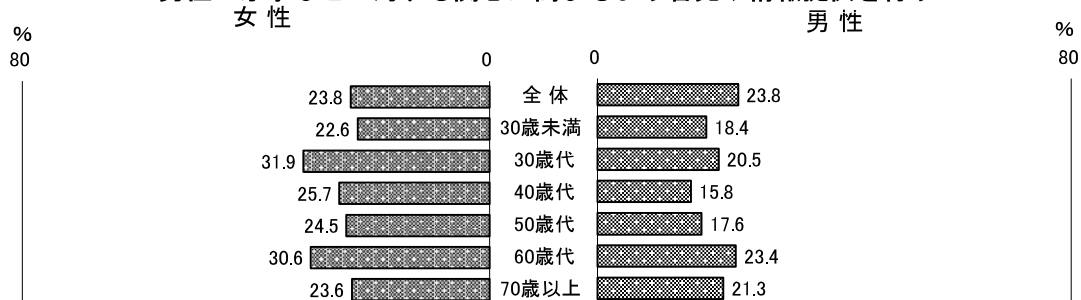
労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにする



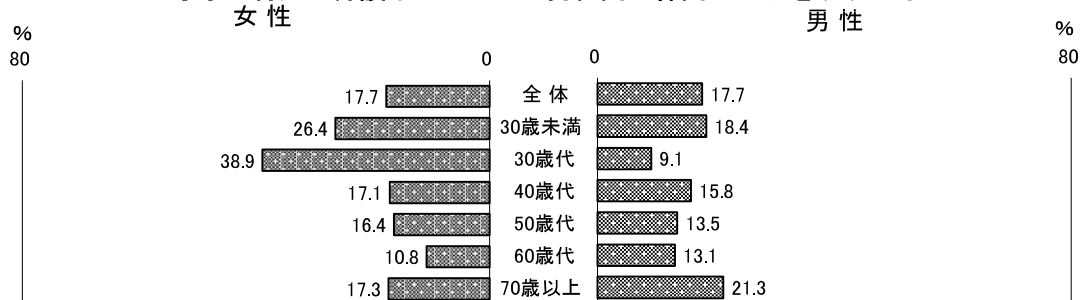
講習会や研修によって、男性の家事・育児・介護などの技能を高める



男性の家事などに対する関心が高まるよう啓発や情報提供を行う



家事・育児・介護などについて男性間の仲間づくりをすすめる



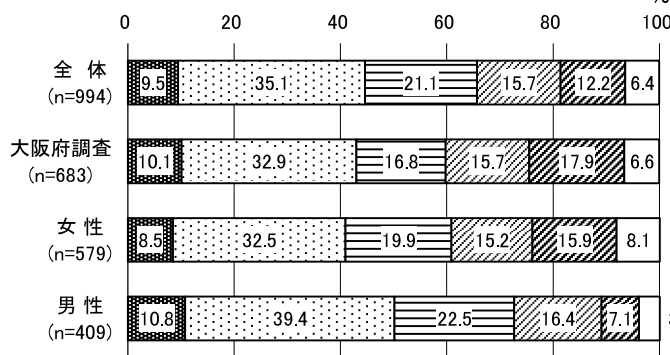
メディアの表現などについて

問 30 テレビ、新聞、雑誌、インターネット、コンピュータゲームなどメディアにおける表現について、あなたはどのように思いますか。〔(1)～(5)それぞれに○は1つ〕

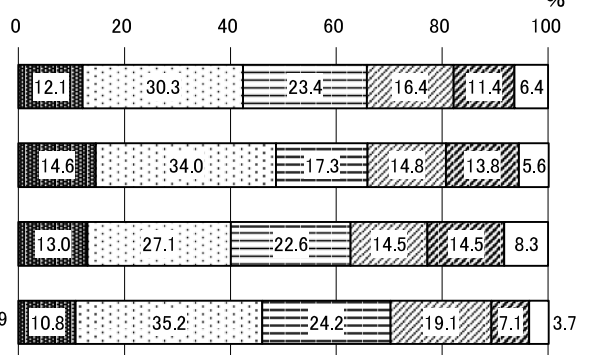
- 全体では、メディアにおける表現について、「その通りだと思う」とする割合が最も高いのは、『(5)子どもの目に触れないような配慮が足りない』の20.5%です。その他の(1)～(4)での「その通りだと思う」とする割合はいずれも10%内外で大差はありません。
- 大阪府調査と比較すると、(1)～(4)全体にわたって「その通りだと思う」の割合が低いです。
- 性別・年齢別にみると、(1)～(5)について「その通りだと思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合の合計でみると、女性では40歳代～60歳代、男性では60歳以上や30歳未満の層が上位に位置し、メディアの表現に対して厳しい見かたをしています。

「その通りだと思う」+ 「どちらかといえばそう思う」	第1位	第2位	第3位
(1)女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている	男性 30 歳未満 60.5%	男性 40 歳代 54.3%	女性 40 歳代 53.3%
(2)性的側面を過度に強調するなどの表現が目立つ	男性 60 歳代 52.4%	女性 50 歳代 51.0%	男性 30 歳未満 47.3%
(3)社会全体の性に関する道徳感・倫理観を損なうおそれがある	男性 60 歳代 53.2%	女性 50 歳代 51.0%	男性 70 歳以上 46.1%
(4)女性に対する犯罪を助長するおそれがある	女性 50 歳代 58.2%	女性 40 歳代 47.6%	男性 60 歳代 46.7%
(5)子どもの目に触れないような配慮が足りない	女性 50 歳代 64.5%	女性 40 歳代 62.9%	女性 60 歳代 60.3%

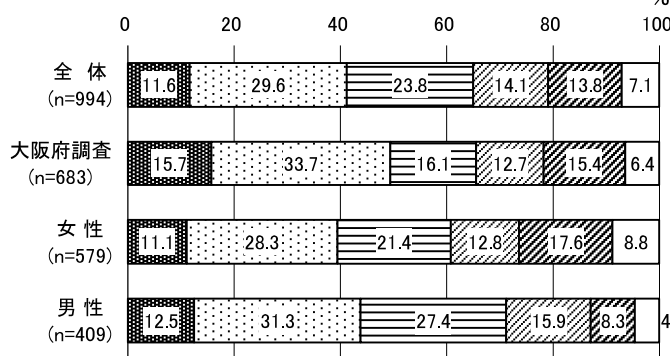
(1) 女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている



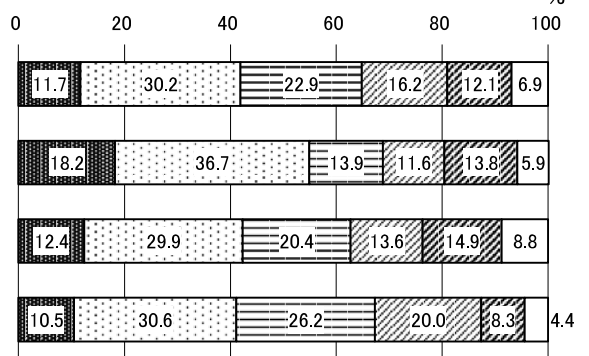
(2) 性的側面を過度に強調するなどの表現が目立つ



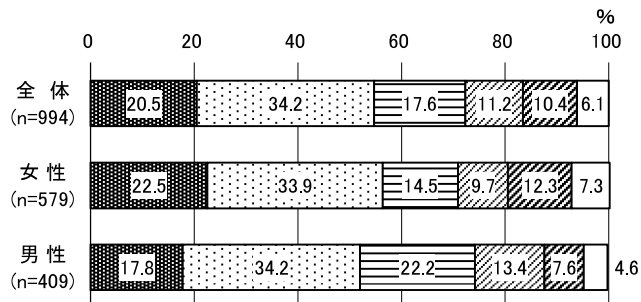
(3) 社会全体の性に関する道德感・倫理観を損なうおそれがある



(4) 女性に対する犯罪を助長するおそれがある

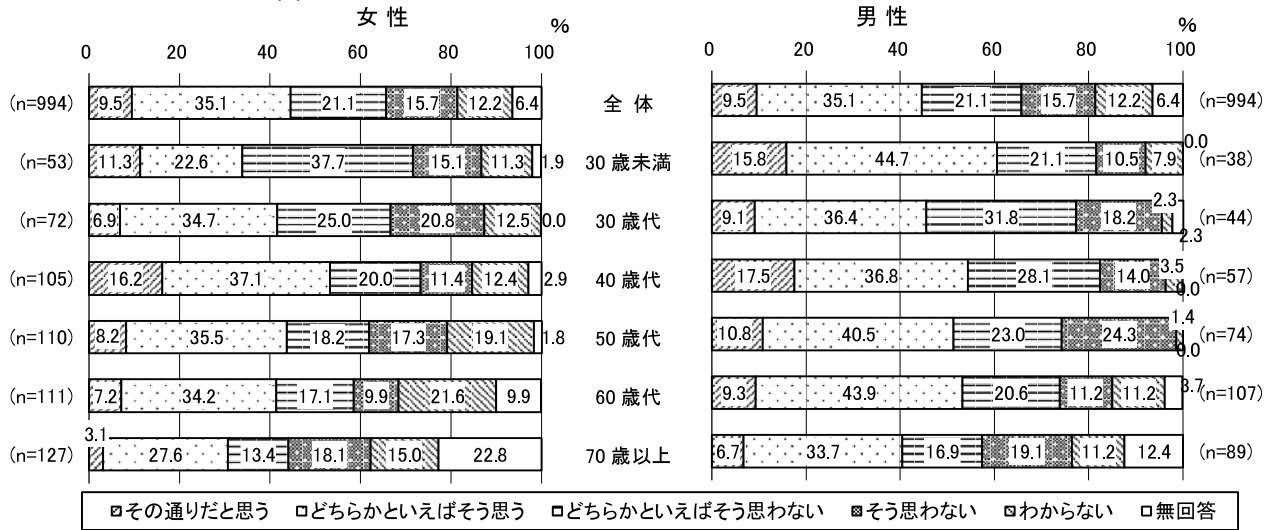


(5) 子どもの目に触れないような配慮が足りない

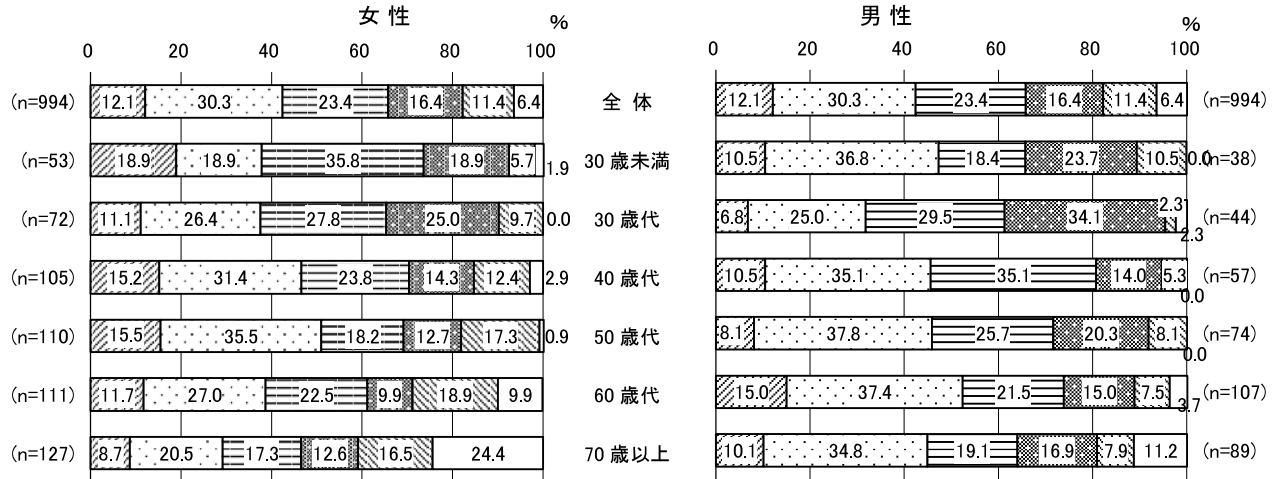


- その通りだと思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない
- わからない
- 無回答

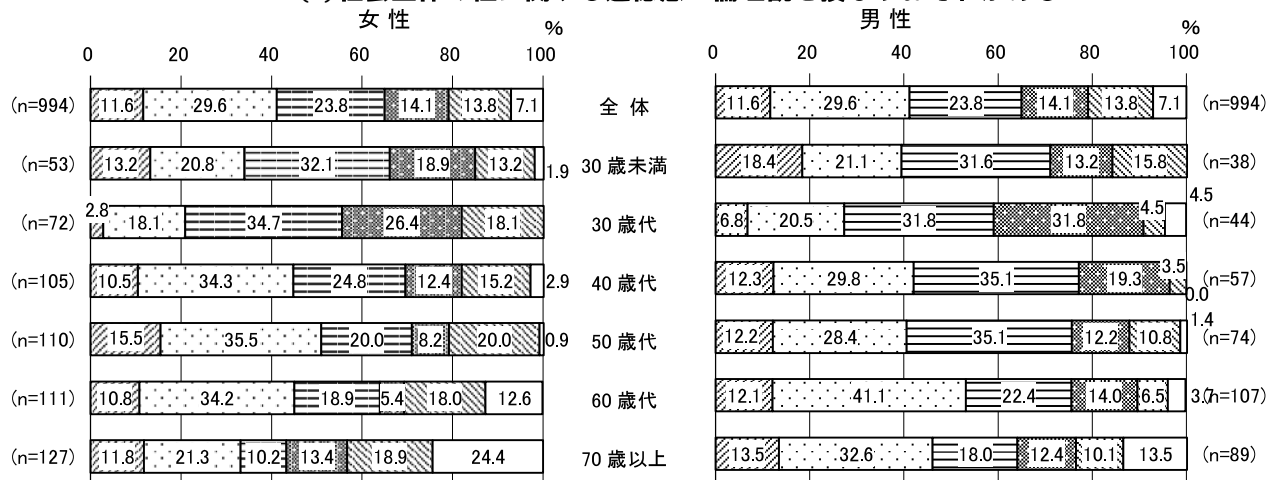
(1) 女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている



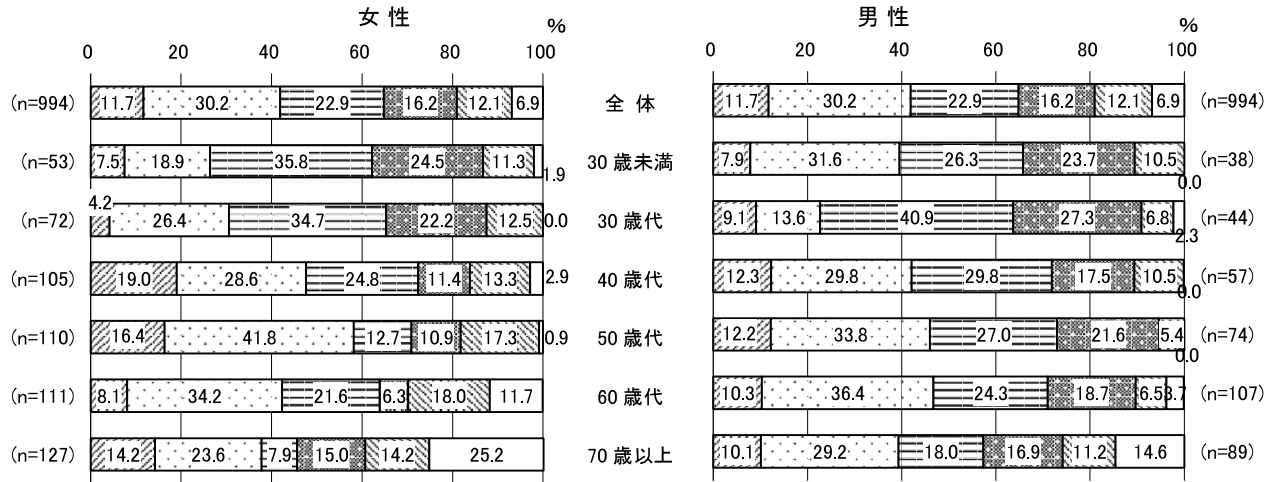
(2) 性的側面を過度に強調するなどの表現が目立つ



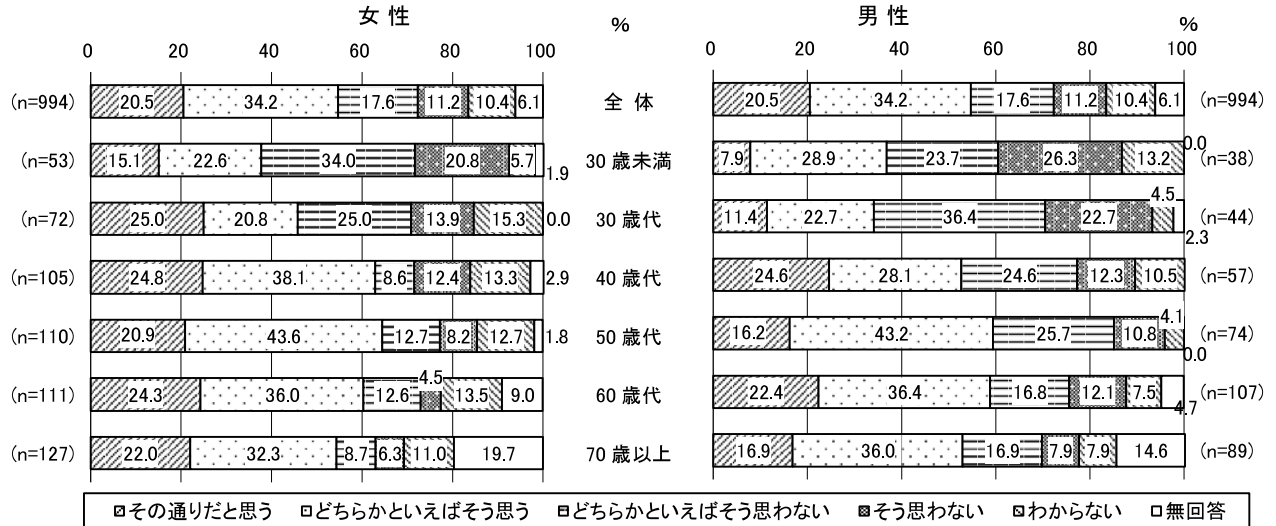
(3) 社会全体の性に関する道徳感・倫理観を損なうおそれがある



(4)女性に対する犯罪を助長するおそれがある

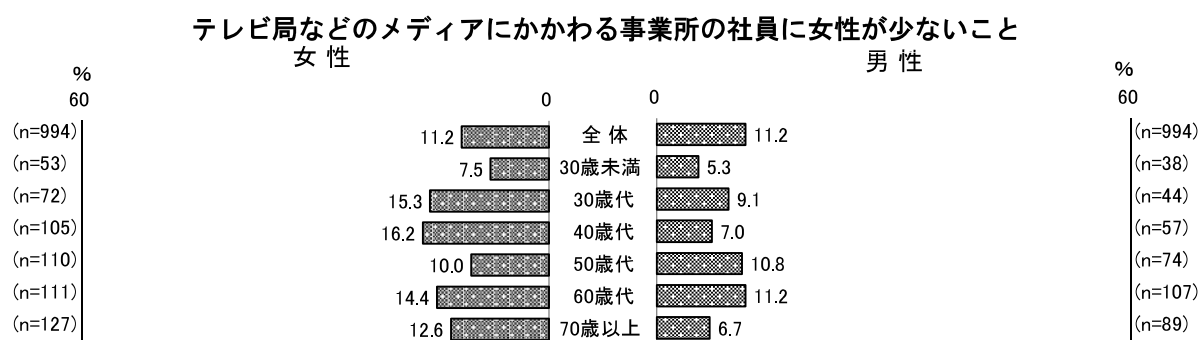
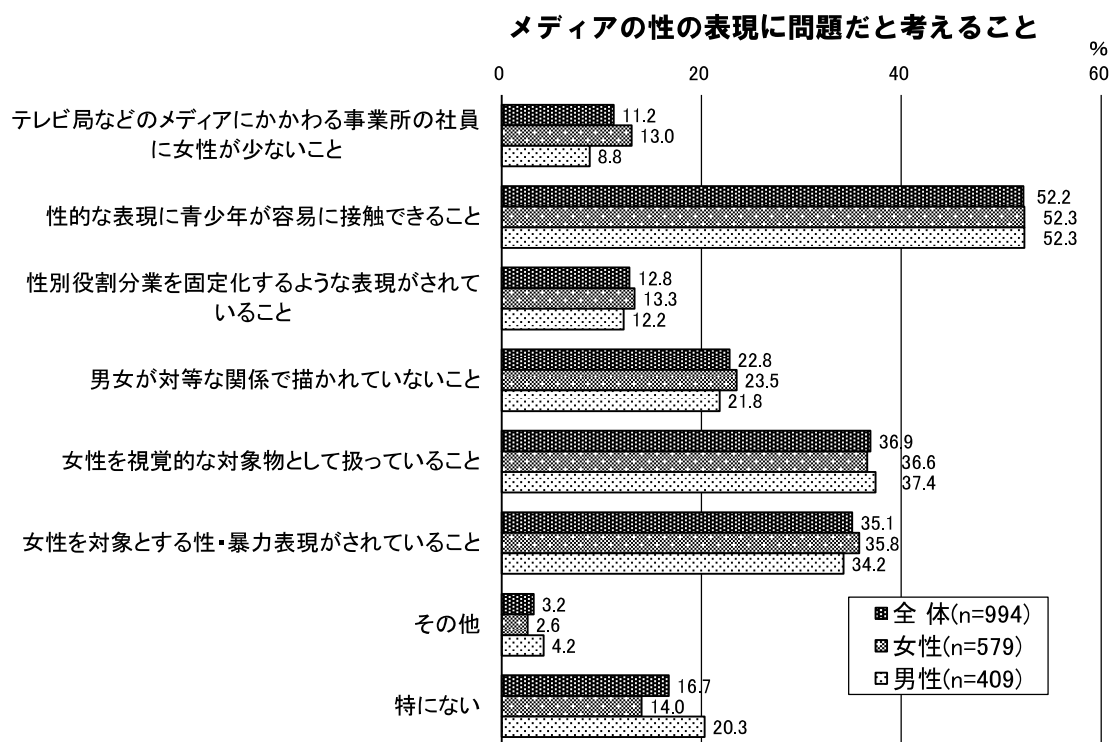


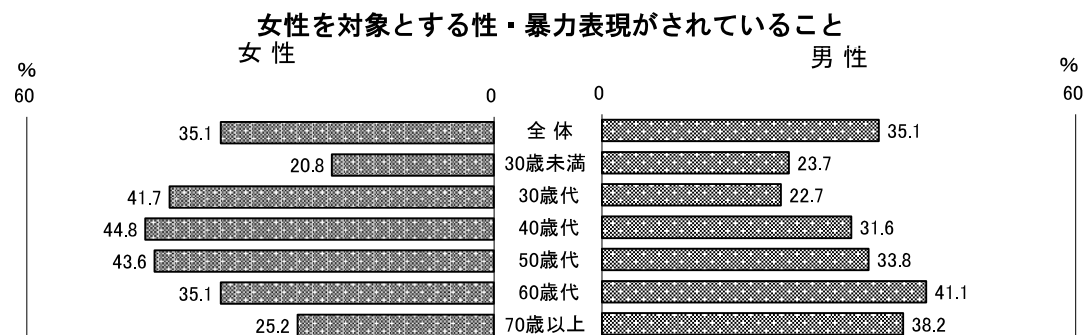
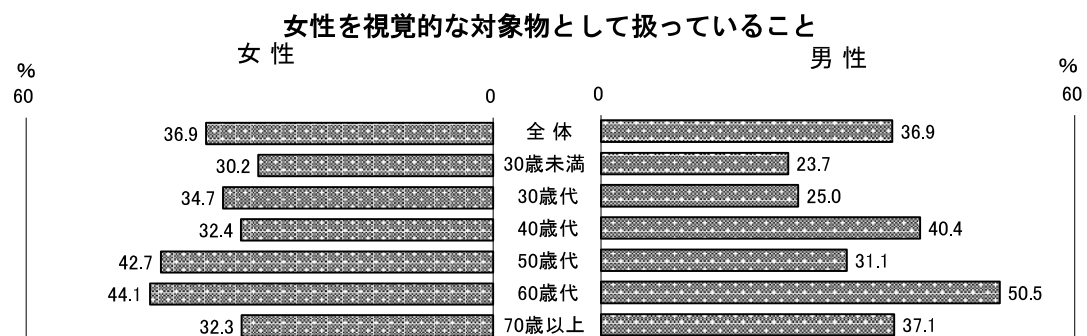
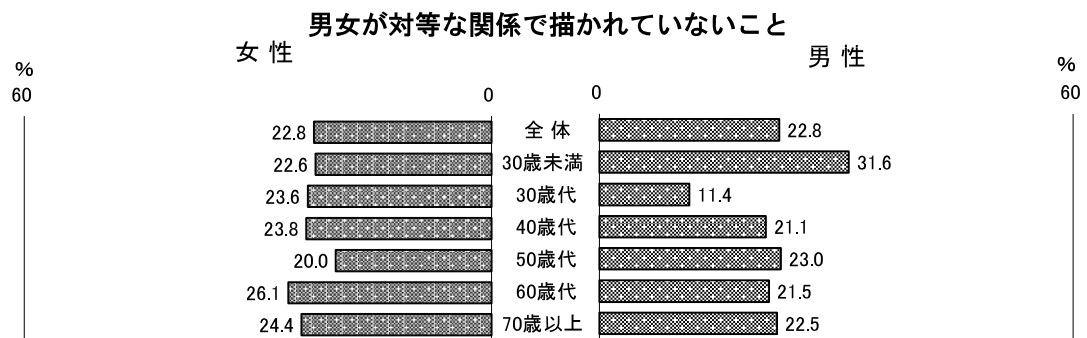
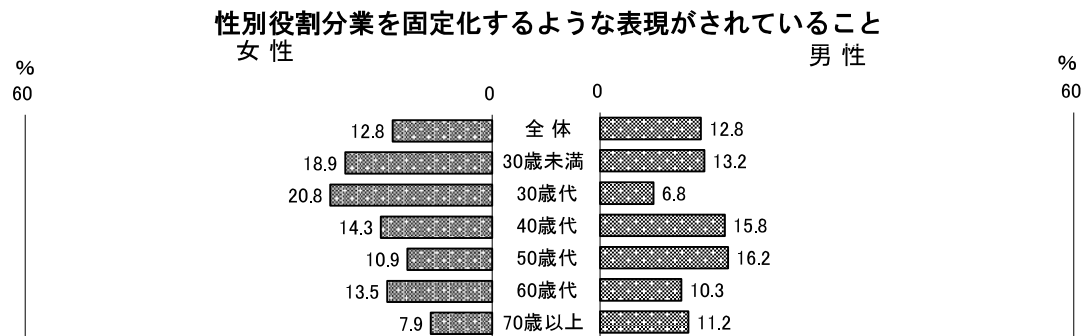
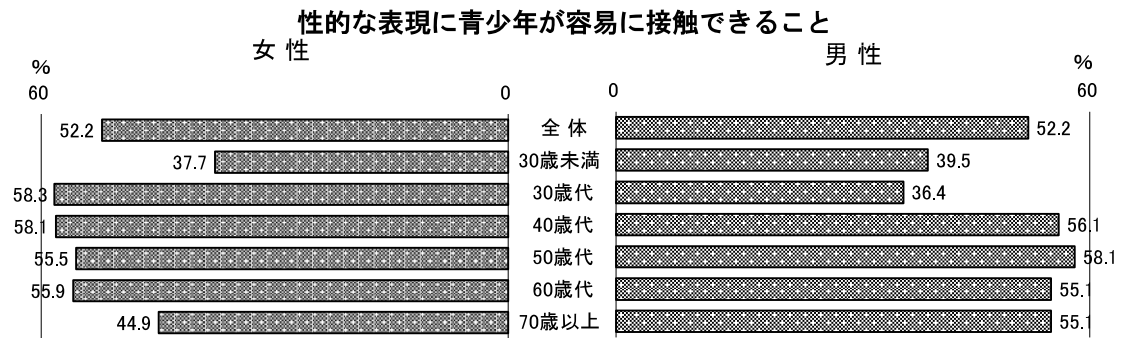
(5)子どもの目に触れないような配慮が足りない



問 31 テレビ局、新聞、雑誌、インターネット、コンピュータゲームなどメディアにおける性の表現において、問題だと考えられるのはどの点ですか。[○はいくつでも]

- 全体では、メディアの性表現において問題だと思うことについて、「性的な表現に青少年が容易に接触できること」(52.2%)が過半数で、これに続く「女性を視覚的な対象物として扱っていること」(36.9%)、「女性を対象とする性・暴力表現がされていること」(35.1%)が30%以上の支持を得ています。これらの割合に男女間の大きな差はみられません。
- 性別・年齢別にみると、「性的な表現に青少年が容易に接触できること」に対しては、女性は30歳代～60歳代、男性は40歳代以上の層で支持が高いです。「女性を視覚的な対象物として扱っていること」に対しては、男性60歳代や女性60歳代～50歳代の割合が高いです。

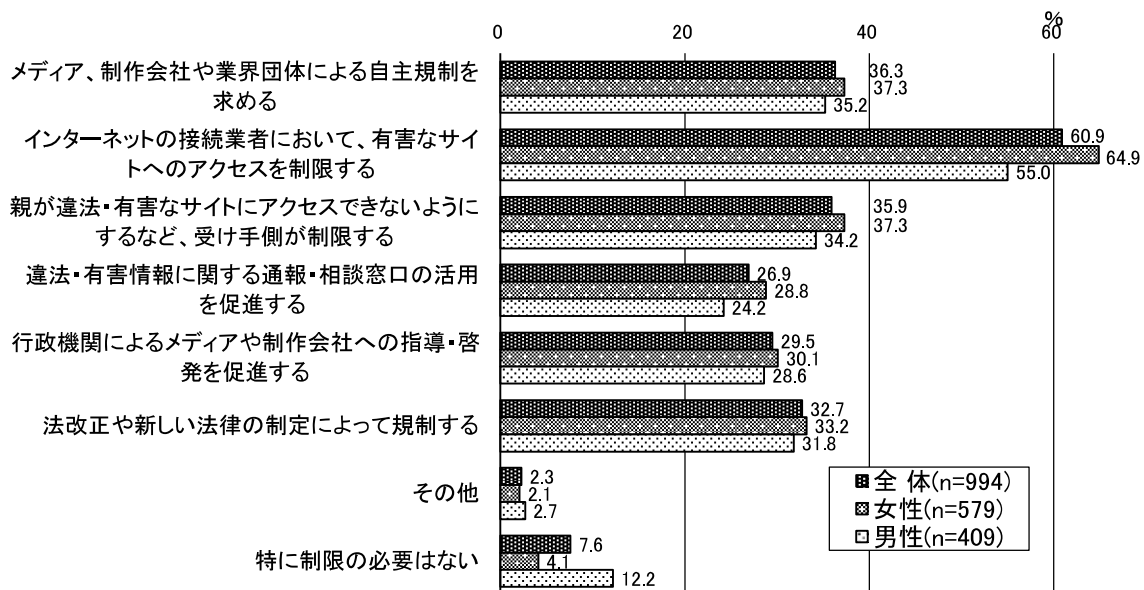




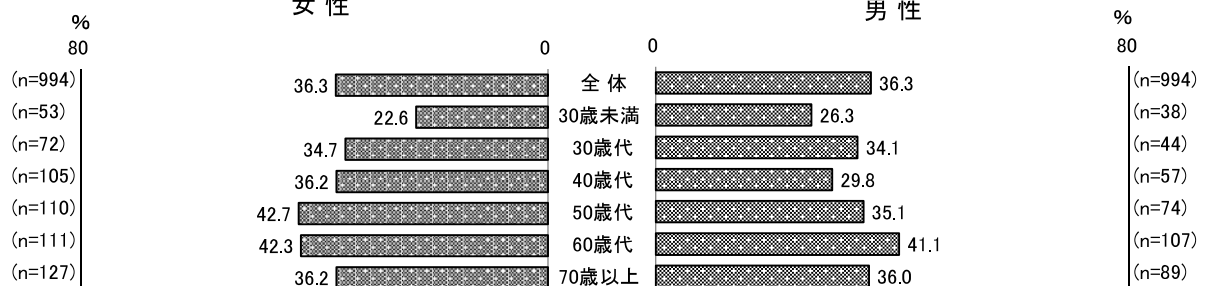
問 32 テレビ、新聞、雑誌、インターネット、コンピュータゲームなどメディアにおける性表現について制限をする場合、どのような方法がよいと思いますか。[○はいくつでも]

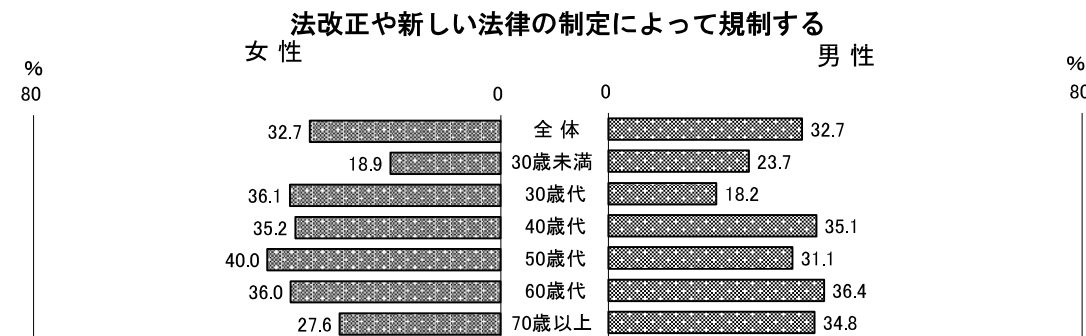
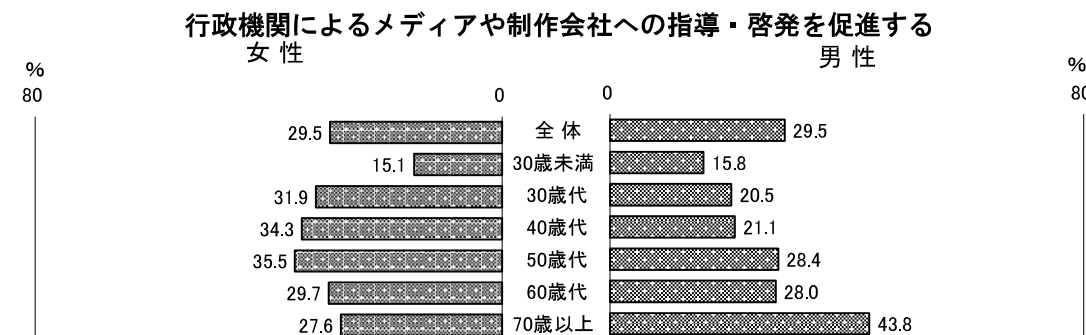
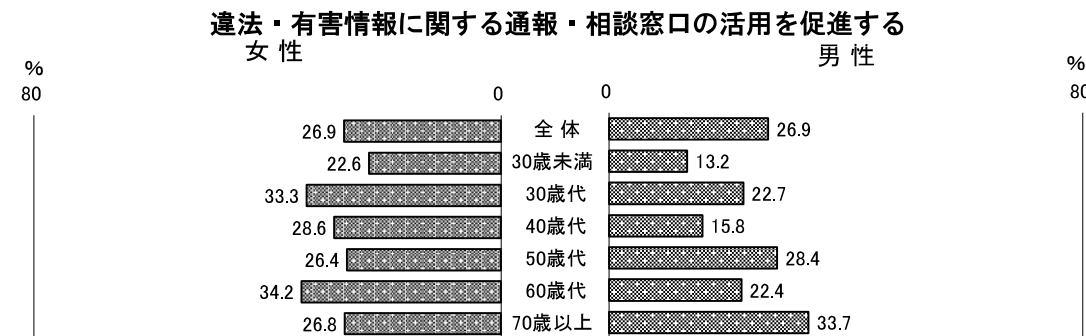
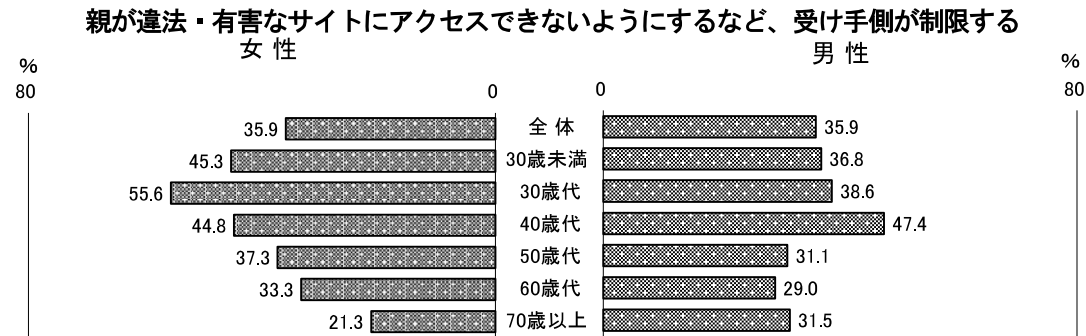
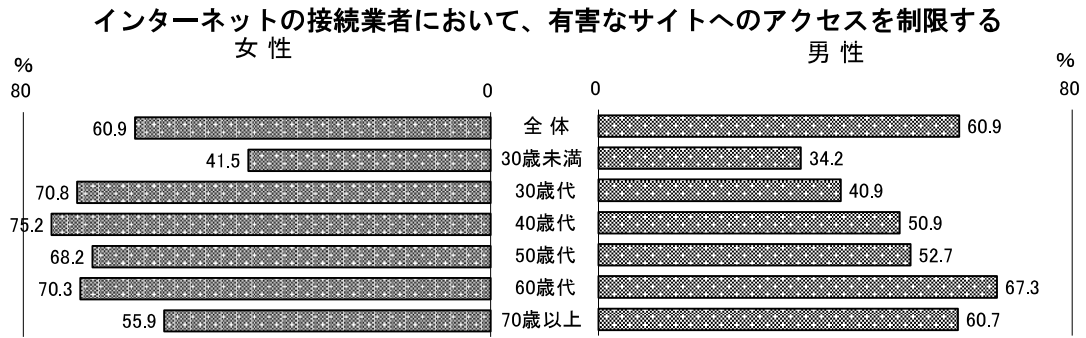
- 全体では、メディアにおける性表現の制限方法について、「インターネットにアクセスするためのサービスを提供している接続業者において、有害なサイトへのアクセスを制限する」が過半数の60.9%です。これに「メディア、制作会社や業界団体による自主規制を求める」(36.3%)、「親がインターネット上の違法・有害なサイトにアクセスできないようにするなど、受け手側が制限する」(35.9%)、「法改正や新しい法律の制定によって規制する」(32.7%)が続きます。
- 性別でみると、「インターネットにアクセスするためのサービスを提供している接続業者において、有害なサイトへのアクセスを制限する」に対しては女性の支持が高いです。「特に制限の必要はない」は全体では7.6%ですが、男性では12.2%と高いです。
- 性別・年齢別では「インターネットにアクセスするためのサービスを提供している接続業者において、有害なサイトへのアクセスを制限する」は女性の30歳代~60歳代で高いほか、「メディア、制作会社や業界団体による自主規制を求める」では女性50歳代が、また「親がインターネット上の違法・有害なサイトにアクセスできないようにするなど、受け手側が制限する」では女性30歳代が最も高いなど、概して女性において厳しい対応を求める意見が強いです。

メディアの性表現を制限するのによいと思う方法



メディア、制作会社や業界団体による自主規制を求める





性のあり方について

問 33 あなたは、ダイバーシティという言葉を知っていましたか。〔〇は1つ〕

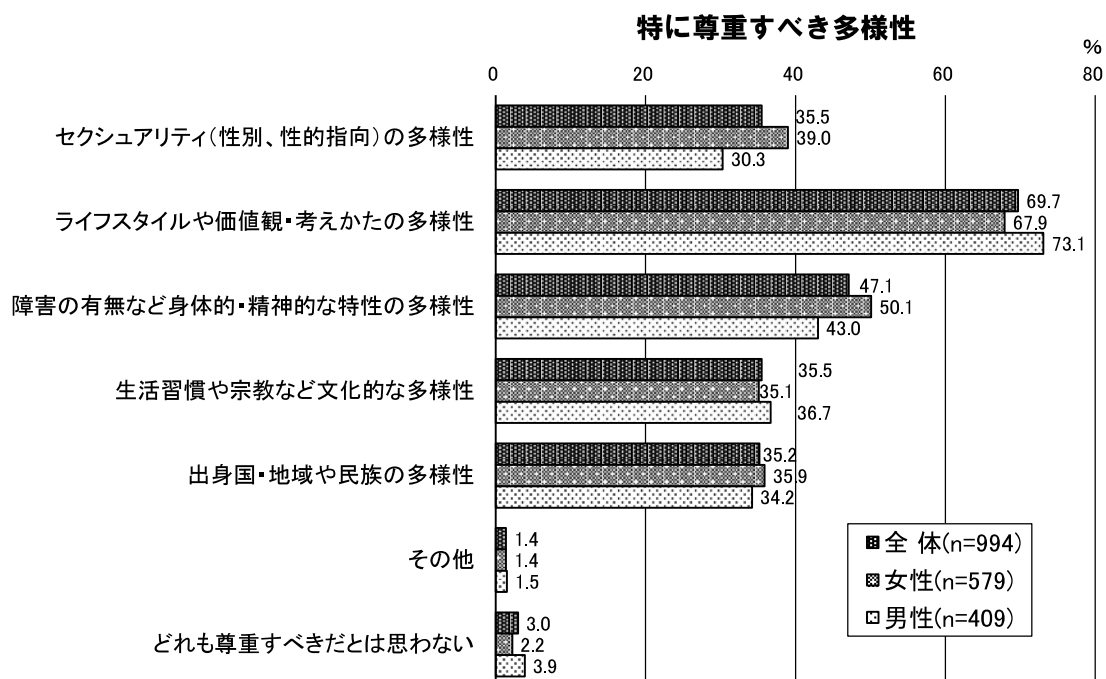
- 全体では、ダイバーシティという言葉について、「言葉もその意味も知っていた」とする割合は 11.4 % ですが、性別では男性が 15.6 % と女性より高いです。
- 性別・年齢別では、男性 40 歳代が最も高く、これに男性の 30 歳未満、女性 30 歳未満が続きます。「まったく知らなかった」とするのは、男女ともに 60 歳以上の高齢層で高いです。

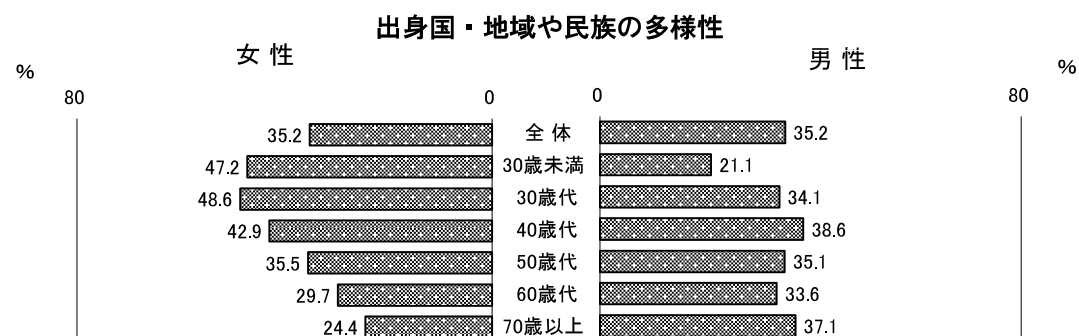
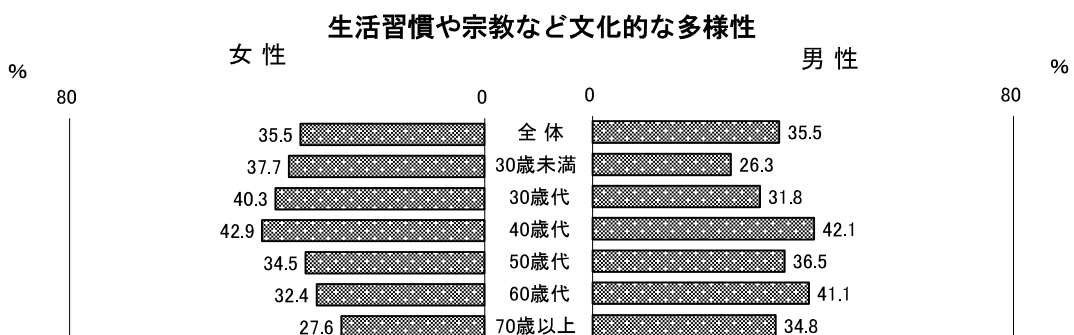
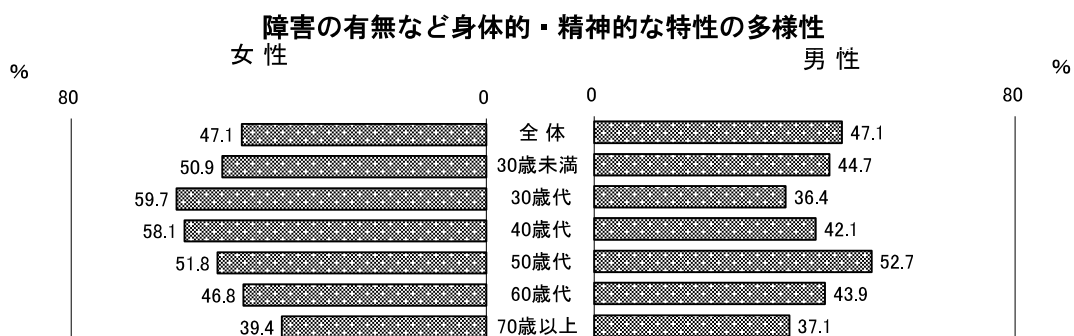
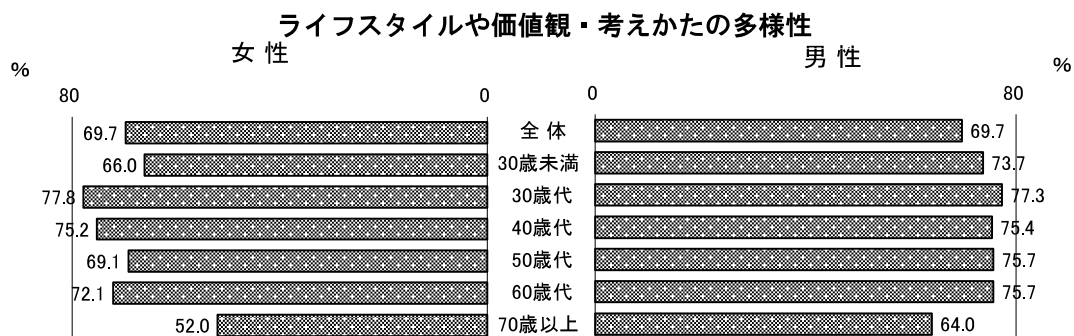
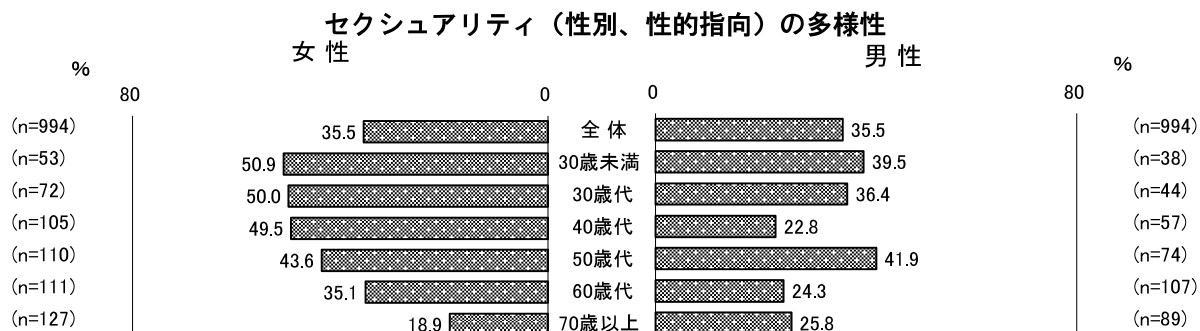
ダイバーシティを知っていたか



問 34 人が互いの違いを受け入れあって社会の活力を増進するために、特に尊重すべき多様性は何だとお考えでしょうか。[○はいくつでも]

- 全体では、尊重すべき多様性としては、「ライフスタイルや価値観・考えかたの多様性」(69.7%)が最も高く、以下「障害の有無など身体的・精神的な特性の多様性」(47.1%)、「セクシュアリティ(性別、性的指向)の多様性」(35.5%)「生活習慣や宗教など文化的な多様性」(35.5%)、「出身国・地域や民族の多様性」(35.2%)などと続きます。
- 性別でみると、「ライフスタイルや価値観・考えかたの多様性」は男性の支持が高いです。また「障害の有無など身体的・精神的な特性の多様性」と「セクシュアリティ(性別、性的指向)の多様性」については女性の支持が高いです。
- 性別・年齢別では、概して女性の各層で支持が高く、たとえば「セクシュアリティ(性別、性的指向)の多様性」「出身国・地域や民族の多様性」については、女性の30歳未満・30歳代・40歳代が第1位～第3位の割合を占めています。逆に、支持の低い割合では女性70歳以上では5つの選択肢すべてで、低い方からの3位以内に位置するほか、男性30歳未満や男性30歳代・40歳代においても低い支持割合の選択肢がみられます。



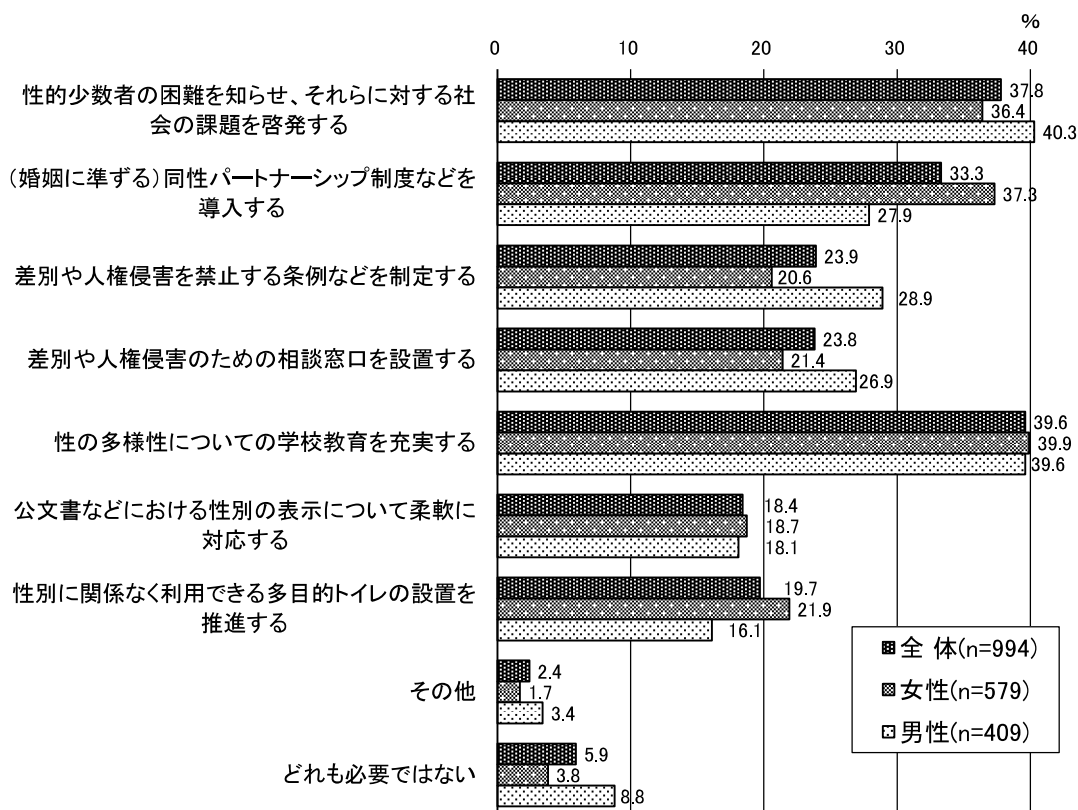


問 35 性的少数者（LGBT）*は人口の8%程度を占めるといわれ、偏見や差別、また日常生活の不便に苦しめられていることも少なくありません。

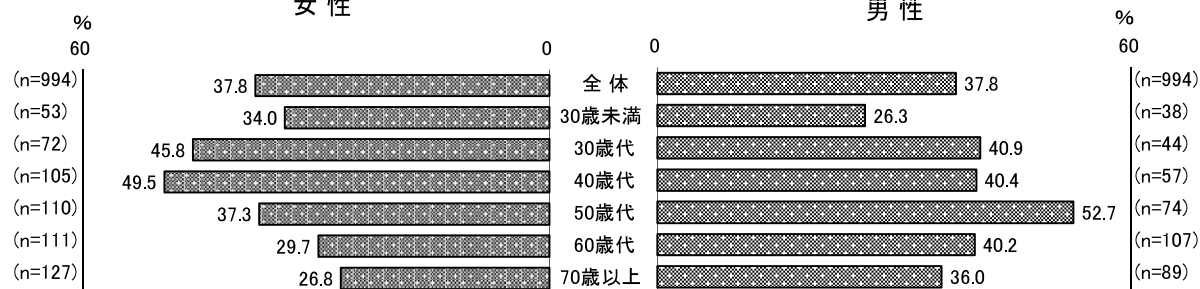
これらの性的少数者の困難を解決するためには何が必要だとお考えでしょうか。〔〇は3つまで〕

- 全体では、性的少数者の困難を解決するために必要だと思うことは、「性の多様性についての学校教育を充実する」(39.6%)、「性的少数者の困難の実態を知らせ、それらに対する社会の課題を啓発する」(37.8%)、「(婚姻に準ずる)同性パートナーシップ制度などを導入する」(33.3%)、「差別や人権侵害を禁止する条例などを制定する」(23.9%)などと続き、まず教育と啓発の推進、これに次いで制度や法令の整備と考えられています。
- 性別でみると、「(婚姻に準ずる)同性パートナーシップ制度などを導入する」「性別に関係なく利用できる多目的トイレの設置を推進する」が女性で高く、「性的少数者の困難の実態を知らせ、それらに対する社会の課題を啓発する」「差別や人権侵害を禁止する条例などを制定する」「差別や人権侵害のための相談窓口を設置する」では男性の支持が高くなっています。「どれも必要ではない」は全体では5.9%ですが、男性では8.8%です。
- 性別・年齢別にみると「(婚姻に準ずる)同性パートナーシップ制度などを導入する」は女性の30歳未満と女性30歳代で過半数の支持を得ているだけでなく、この2つの層では「(婚姻に準ずる)同性パートナーシップ制度などを導入する」は、9つの選択肢の中で最も高い割合になっています。

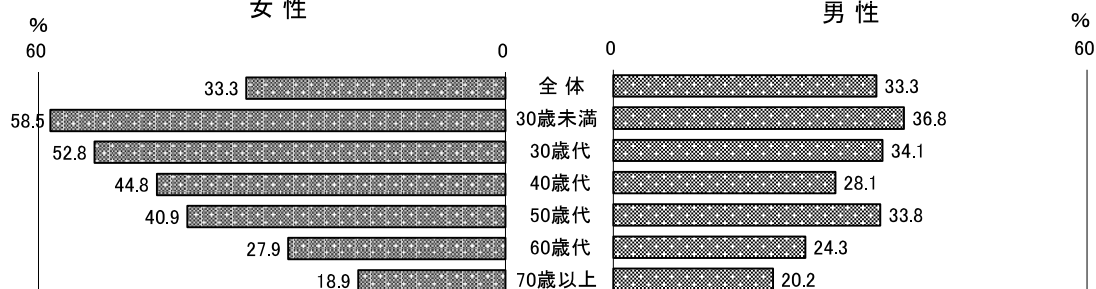
性的少数者の困難を解決するために必要なこと



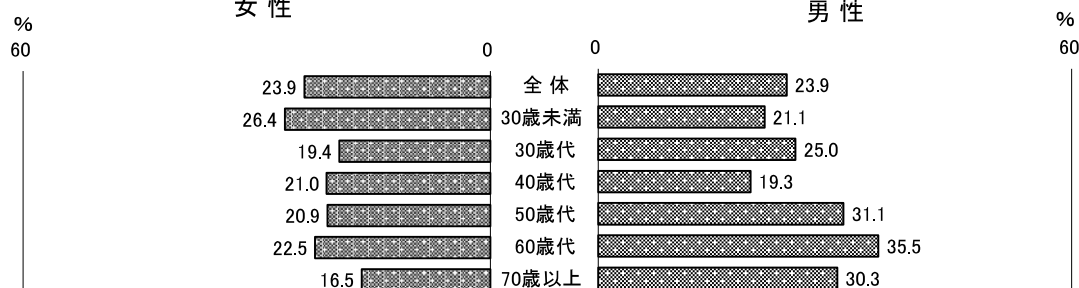
性的少数者の困難を知らせ、それらに対する社会の課題を啓発する
女性 男性



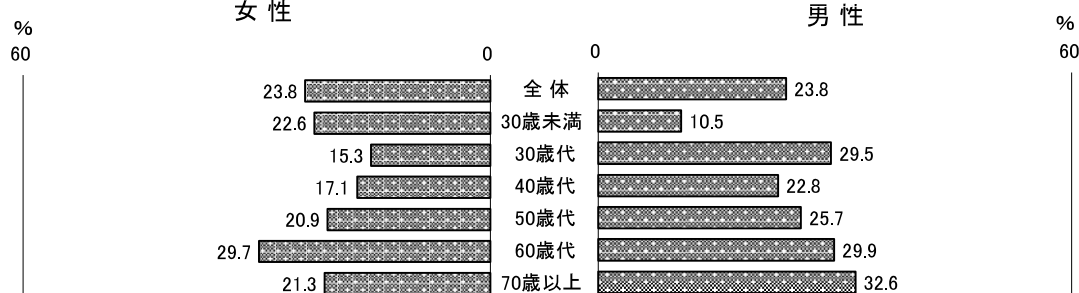
(婚姻に準ずる) 同性パートナーシップ制度などを導入する
女性 男性



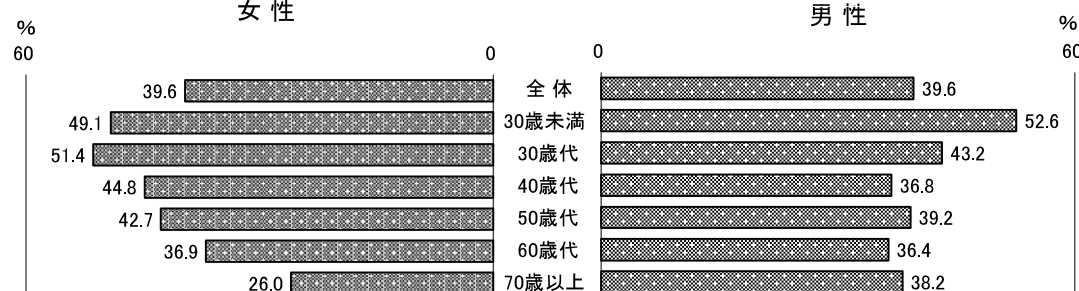
差別や人権侵害を禁止する条例などを制定する
女性 男性



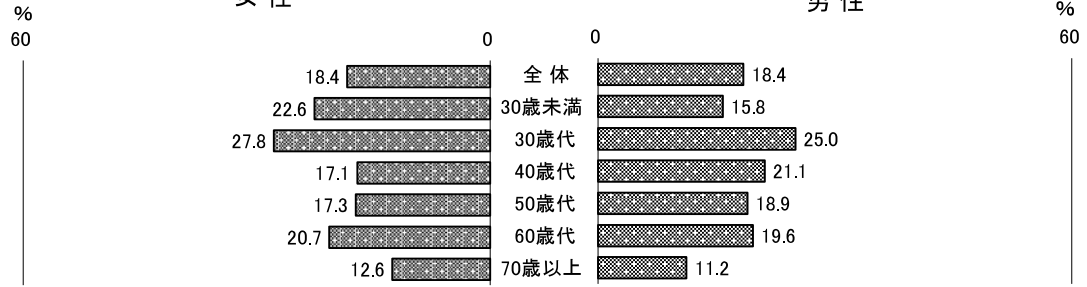
差別や人権侵害のための相談窓口を設置する
女性 男性



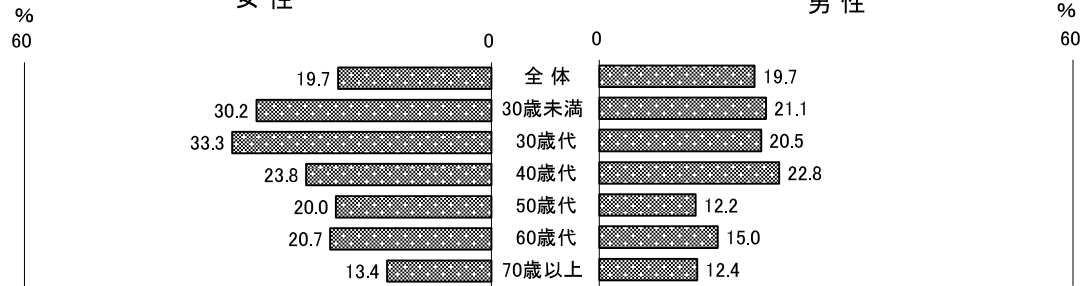
性の多様性についての学校教育を充実する
女性 男性



公文書などにおける性別の表示について柔軟に対応する



性別に関係なく利用できる多目的トイレの設置を推進する

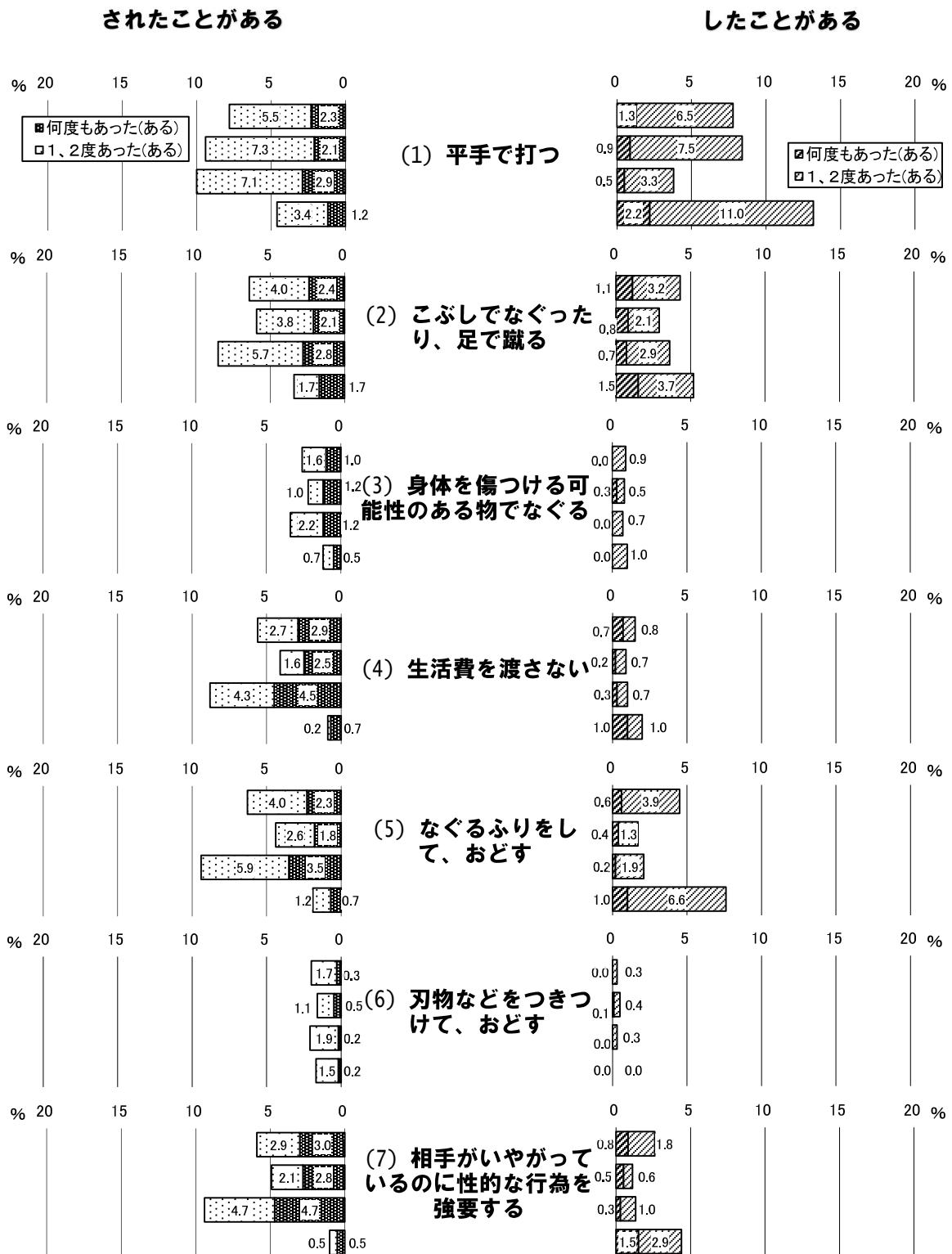


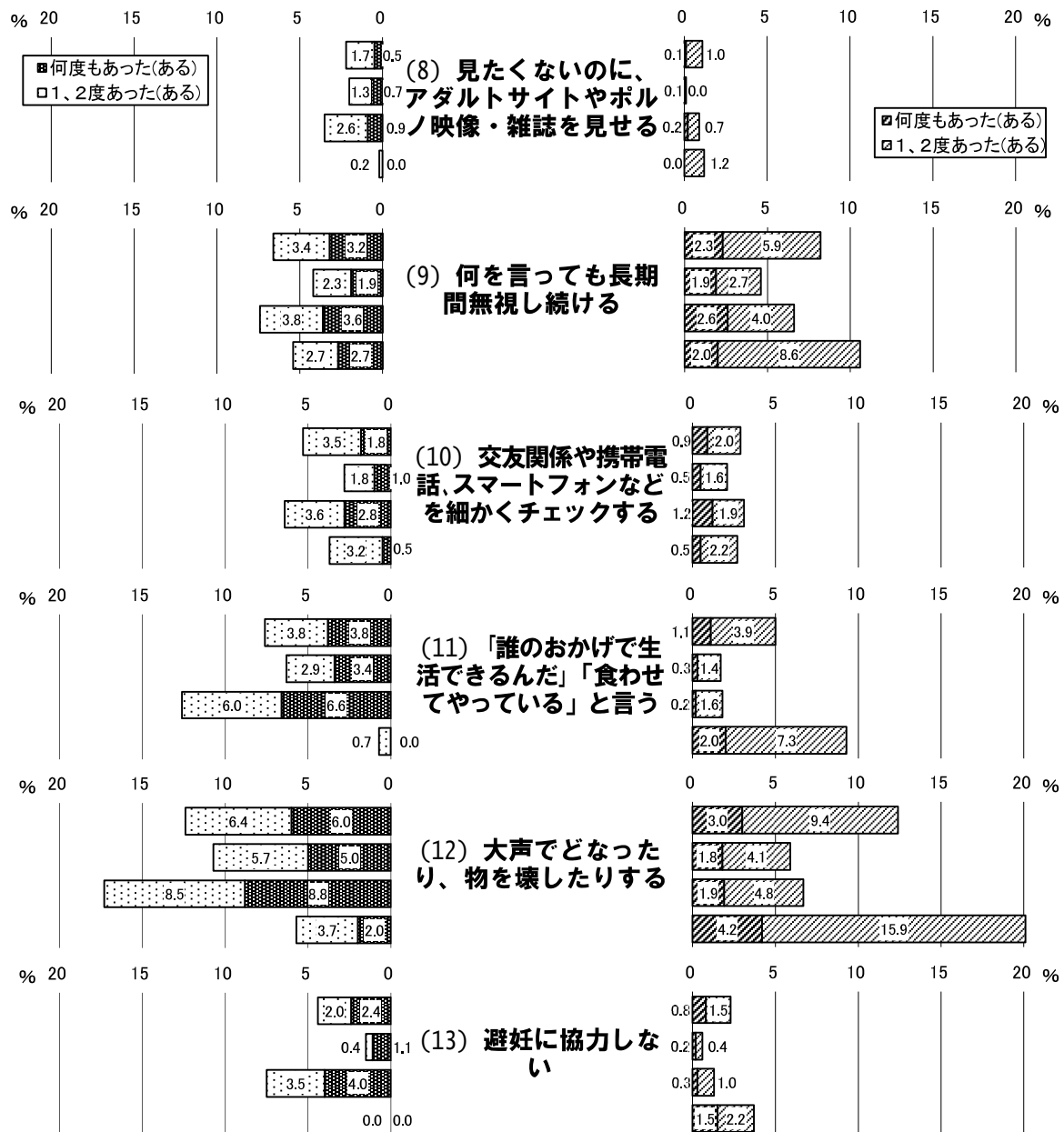
配偶者や恋人間の暴力について

問 36 あなたは配偶者や恋人に、次のようなことをされたり、したことがありますか。
〔(1)～(13)の項目ごとにあてはまるものすべてに○〕

- 全体では、「何度もあった（ある）」と「1、2度ある（あった）」の合計値を〈されたことがある〉〈したことがある〉の両面でみると、〈されたことがある〉の割合が高い場合は〈したことがある〉の割合も高いなど、ほぼ比例しています。ただ、おおむね〈されたことがある〉の割合の方が〈したことがある〉割合よりも高いです。また、全体的に、女性において〈されたことがある〉とする割合が高く、男性において〈したことがある〉とする割合が高いです。
- 〈されたことがある〉について、「何度もあった（ある）」と「1、2度ある（あった）」の合計値の高い項目はいずれも女性が受けたDVで、『(12)大声でどなったり、物を壊したりする』が17.3%と最も多く、これに、『(11)「誰のおかげで生活できるんだ」「食わせてやっている」と言う』の12.6%が続きます。これらに続く高い項目としては、『(1)平手で打つ(10.0%)』『(5)なぐるふりをして、おどす(9.4%)』『(7)相手がいやがっているのに性的な行為を強要する(9.4%)』『(4)生活費を渡さない(8.8%)』などがあります。精神的暴力(12)、(11)、(5)が中心で、これに身体的暴力(1)、性的暴力(7)、経済的暴力(4)が加わります。
- 前回調査との比較では、配偶者や恋人間の暴力について、〈されたことがある〉について「何度もあった（ある）」と「1、2度ある（あった）」の合計値は、(1)を除く(2)～(13)のすべてにおいて、前回よりも上昇しています。〈したことがある〉についても、13項目中の11項目において上昇しています。

棒グラフ	
最上段	全 体 (n=994)
2 段目	前回調査 (n=1, 117)
3 段目	女 性 (n=579)
最下段	男 性 (n=409)

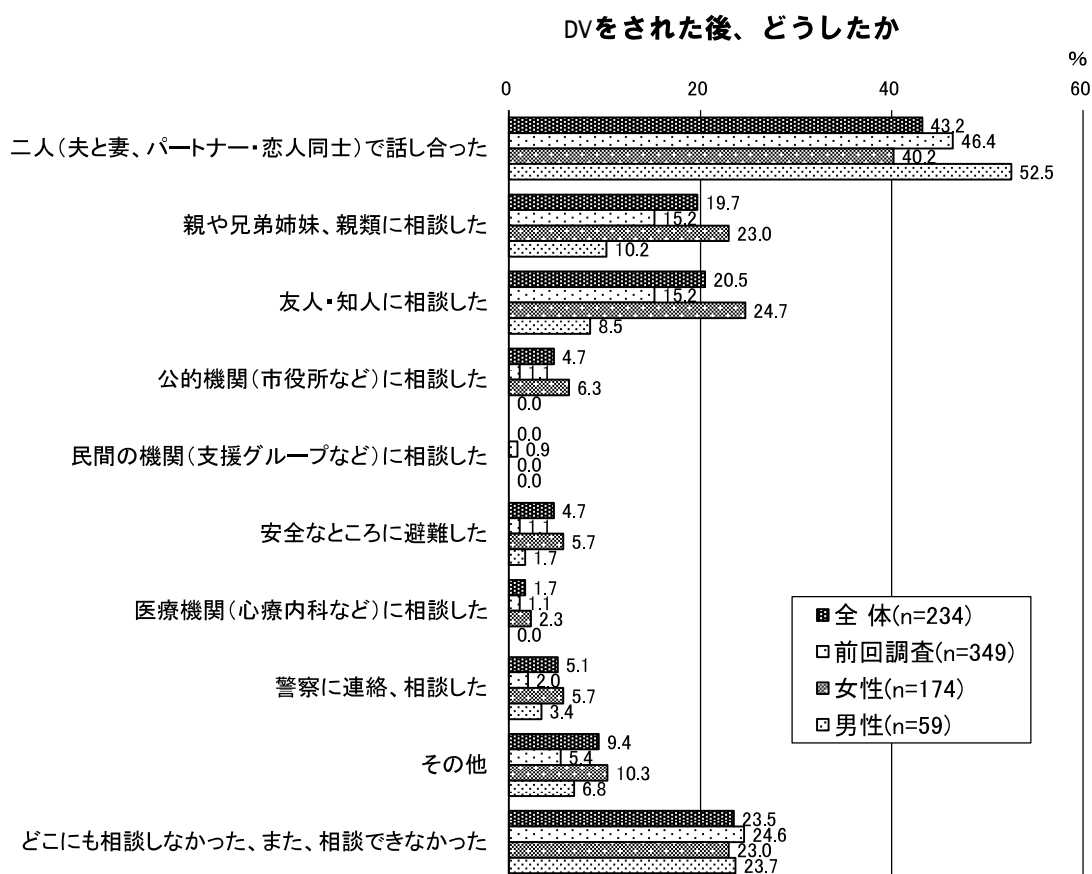




問 37 は、問 36(1)～(13)の「1」または「2」に1つ以上○をした方におたずねします。

問 37 問 36 のようなことをされたとき、その後どうしましたか。[○はいくつでも]

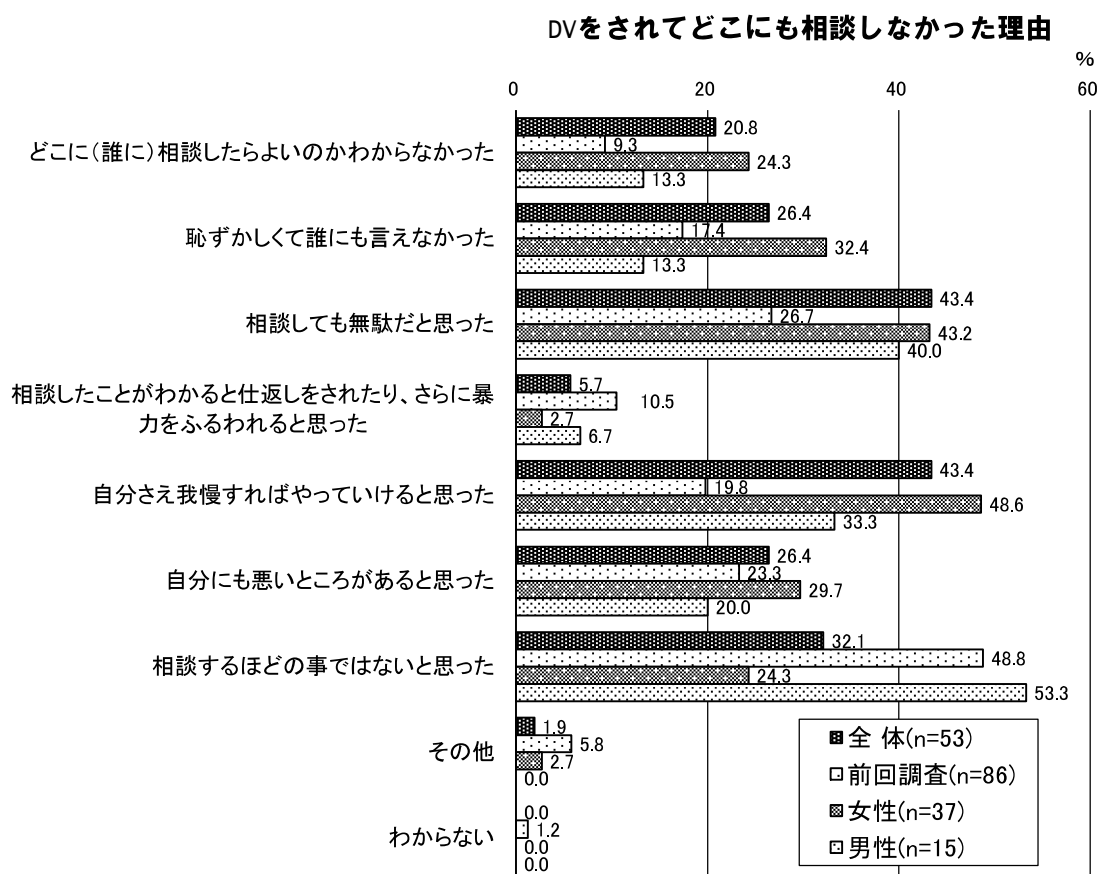
- 全体では、暴力を受けた際に、「二人（夫と妻、パートナー・恋人同士）で話し合った」（43.2%）、「友人・知人に相談した」（20.5%）、「親や兄弟姉妹、親類に相談した」（19.7%）がおもな対応です。このほかに「どこにも相談しなかった、また、相談できなかった」が23.5%で高いです。
- 前回調査との比較では、このうち「友人・知人に相談した」と「親や兄弟姉妹、親類に相談した」は、前回調査より5ポイント高くなりました。
- 性別でみると、「友人・知人に相談した」と「親や兄弟姉妹、親類に相談した」は女性で高く、「二人（夫と妻、パートナー・恋人同士）で話し合った」は男性で高いです。



問 38 は、問 37 で「10.どこにも相談しなかった、また、相談できなかった」と答えた方におたずねします。

問 38 どこにも相談しなかった、また、相談できなかったのはなぜですか。[○はいくつでも]

- 全体では、相談しなかった理由として、上位は「相談しても無駄だと思った」(43.4%)、「自分さえ我慢すればやっていけると思った」(43.4%)、「相談するほどの事ではないと思った」(32.1%)などです。
- 前回調査との比較では、多くの選択肢で、前回調査より上昇していますが、「相談するほどの事ではないと思った」は17ポイント下落しました。
- 性別でみると、女性が男性より高い選択肢は「自分さえ我慢すればやっていけると思った」のほか「恥ずかしくて誰にも言えなかった」があげられます。また男性が女性よりも高い選択肢は「相談するほどの事ではないと思った」です。

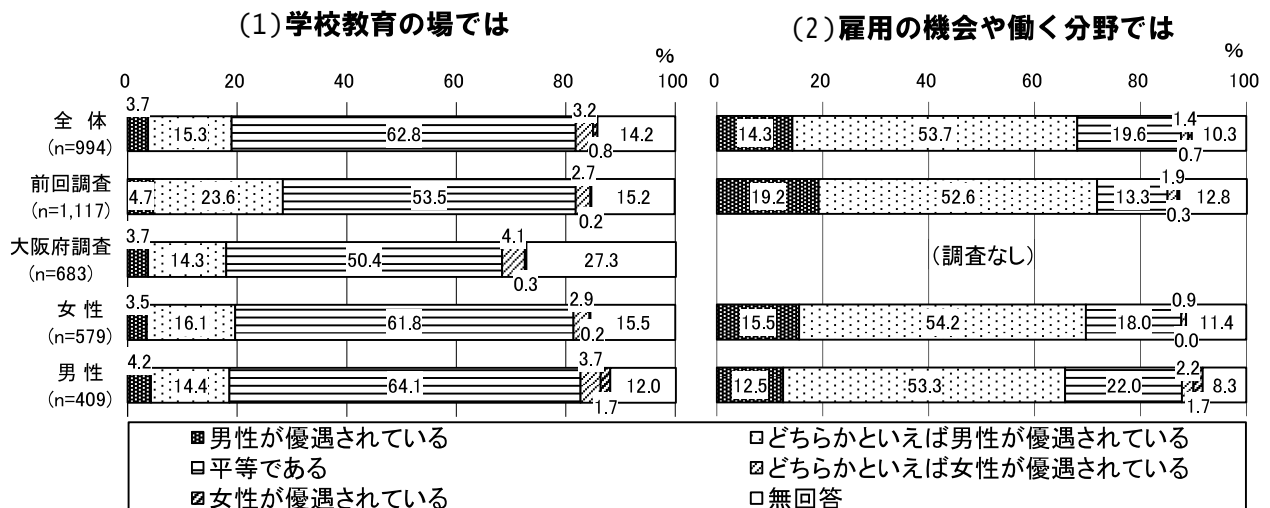


男女共同参画社会の形成について

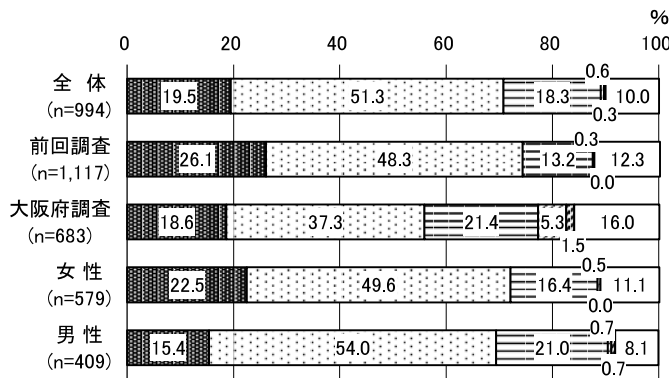
問 39 あなたは、社会における次の分野において、男女が平等になっていると思いますか。
〔(1)～(9)それぞれに○は1つ〕

- 全体では、男女の立場として、(1)～(9)のすべてで「男性が優遇されている」の割合が「女性が優遇されている」の割合を上回っており、「男性が優遇されている」とする割合の順序は、『(3)職場（賃金や待遇など）では(19.5%)』＞『(8)政治・経済活動への参加では(17.3%)』＞『(9)社会全体からみて(15.7%)』＞『(2)雇用の機会や働く分野では(14.3%)』＞『(6)社会通念・慣習やしきたり（冠婚葬祭など）では(11.5%)』などで、社会・経済や就労の場における不平等感が上位になっています。
- 「男性が優遇されている」の割合を前回調査と比べると、(1)～(9)のすべてで低くなっています。大阪府調査との比較でもおおむね同様の傾向で、特に『(6)社会通念・慣習やしきたり（冠婚葬祭など）では』では15ポイントも低いです。
- 性別でみると、『(1)学校教育の場では』を除く8分野すべてで、女性の方が「男性が優遇されている」の割合が高いです。
- 性別・年齢別にみると、全体で「男性が優遇されている」の割合上位3位をみると、『(3)職場（賃金や待遇など）では』については、女性40歳代で30.5%と高く、これに女性30歳代・60歳代が続きます。『(8)政治・経済活動への参加では』については女性40歳代・30歳代に次いで男性30歳未満が第3位の割合です。『(9)社会全体からみて』では、(3)と同様に女性40歳代・30歳代・60歳代の順で高いです。
- おおむね「男性優遇」の見かたが強い中で、男性30歳未満の層では「女性優遇」の割合が比較的高く、たとえば『(4)家庭生活の場では』においては「女性が優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」の合計値が26.3%であり、「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計値26.3%と拮抗しています。

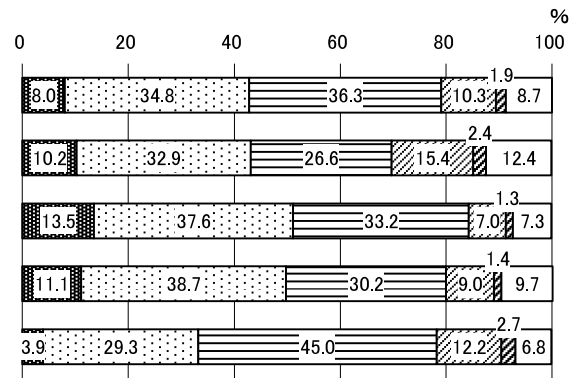
大阪府調査には、「わからない」の選択肢があり、ここでは「無回答」の割合と合わせたものを「無回答」としました。



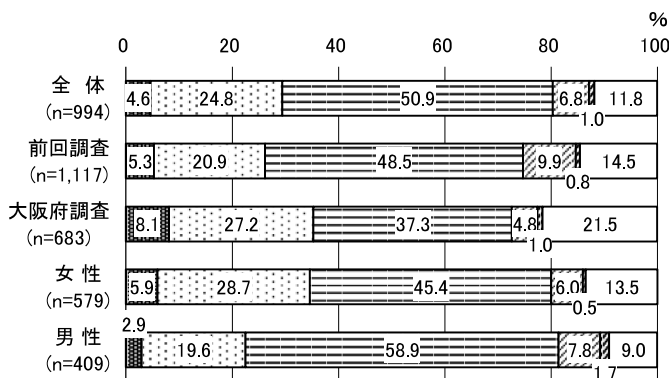
(3) 職場（賃金や待遇など）では



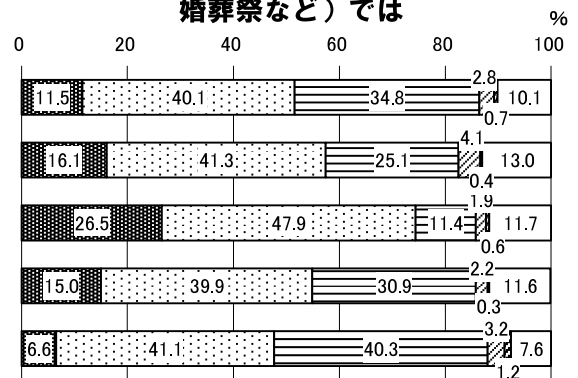
(4) 家庭生活の場では



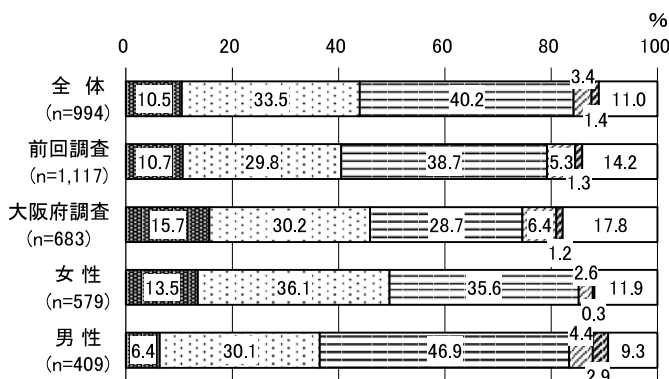
(5) 地域活動、社会活動への参加では



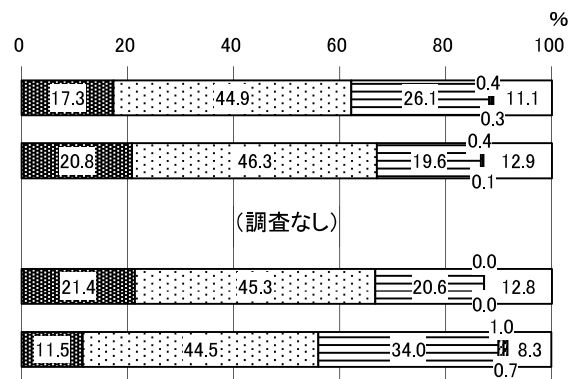
(6) 社会通念・慣習やしきたり（冠婚葬祭など）では



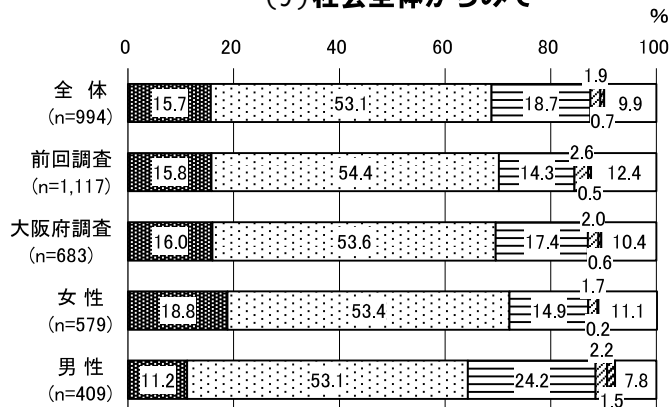
(7) 法律や制度では



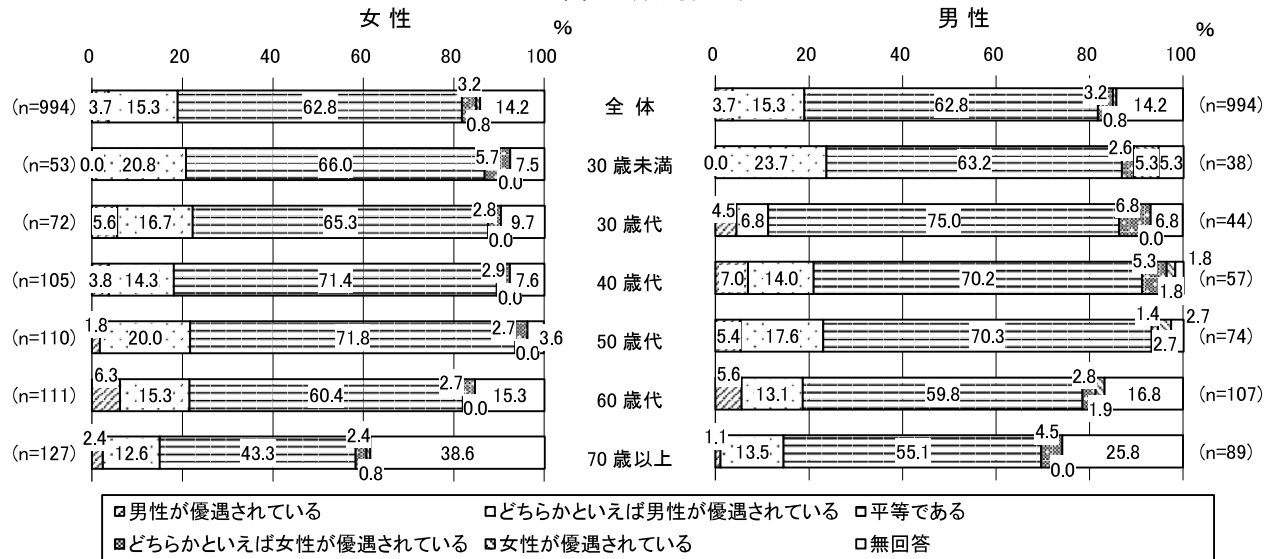
(8) 政治・経済活動への参加では



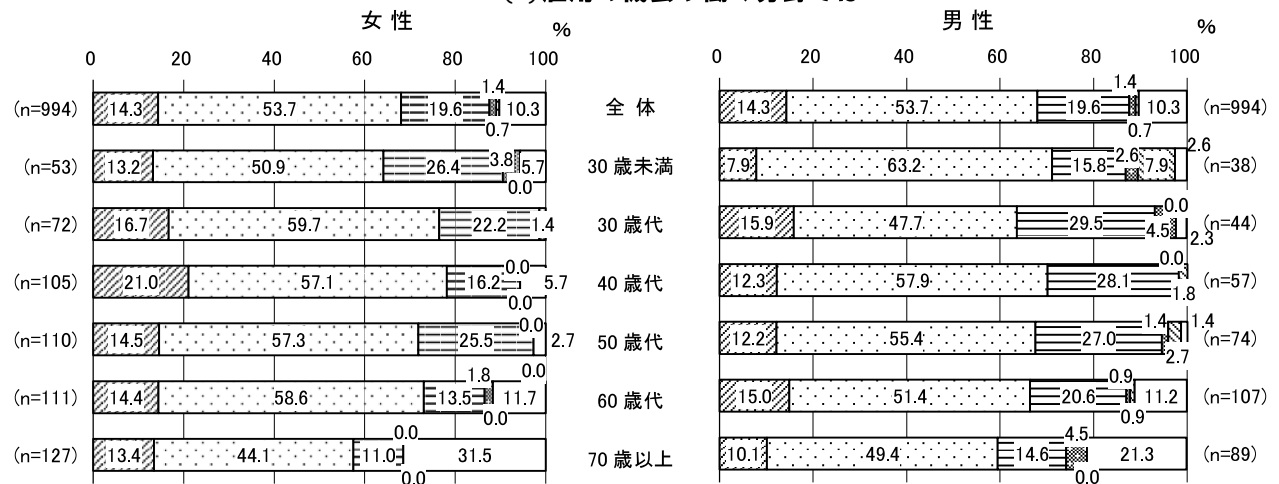
(9) 社会全体からみて



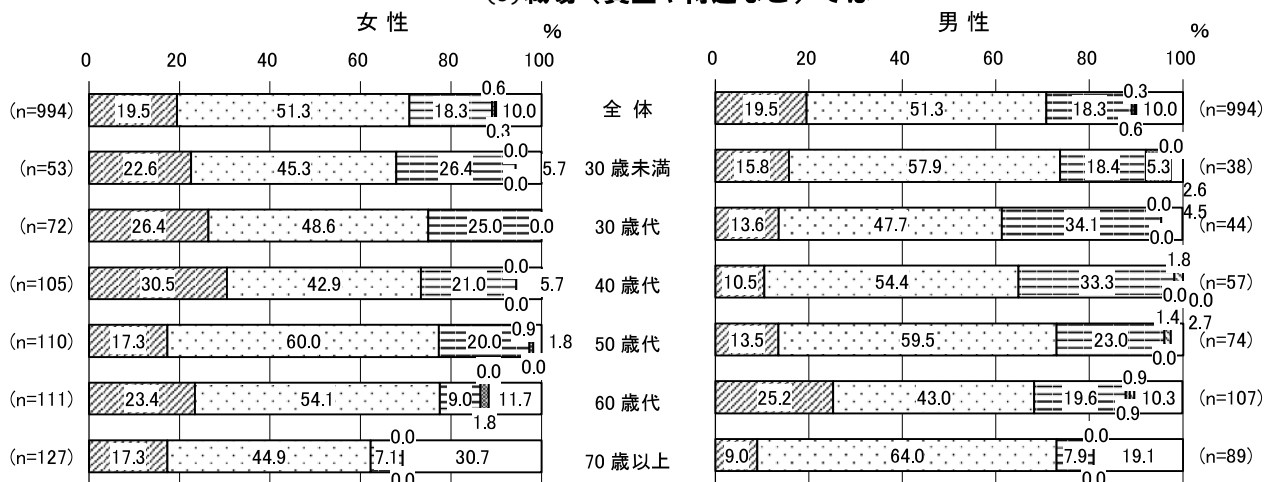
(1) 学校教育の場では



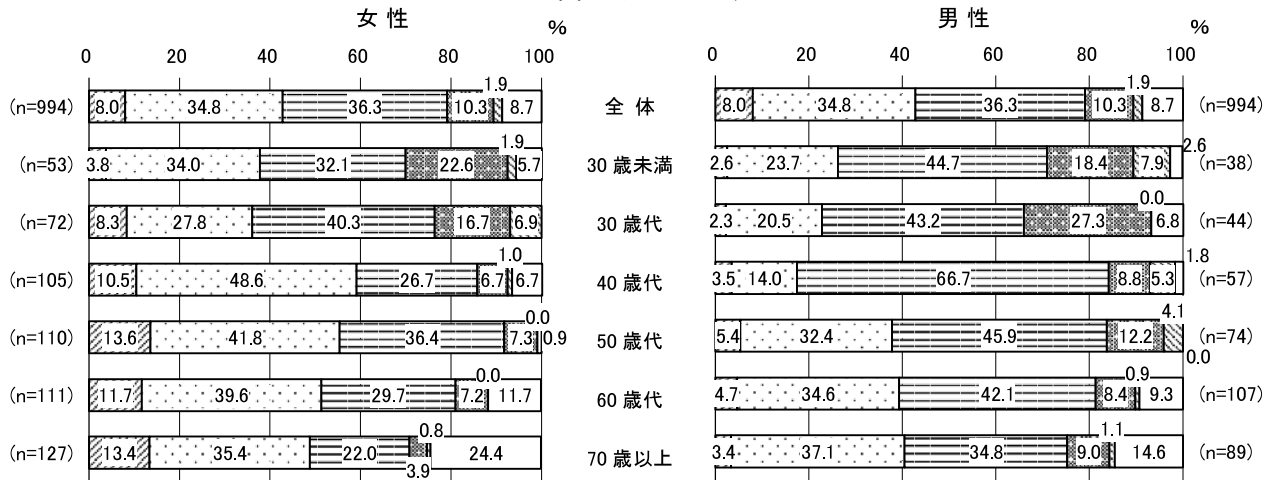
(2) 雇用の機会や働く分野では



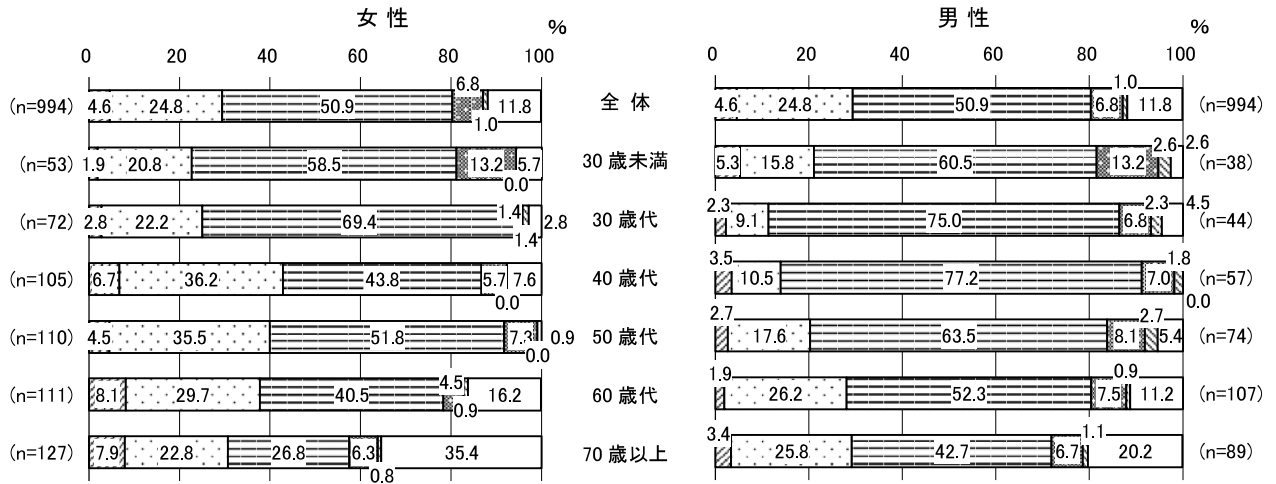
(3) 職場（賃金や待遇など）では



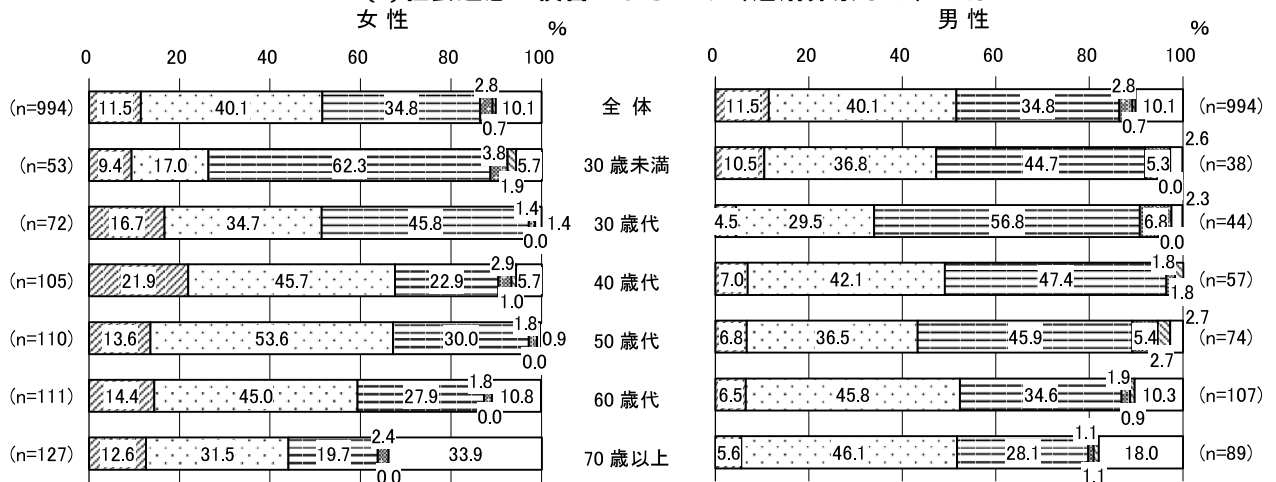
(4)家庭生活の場では



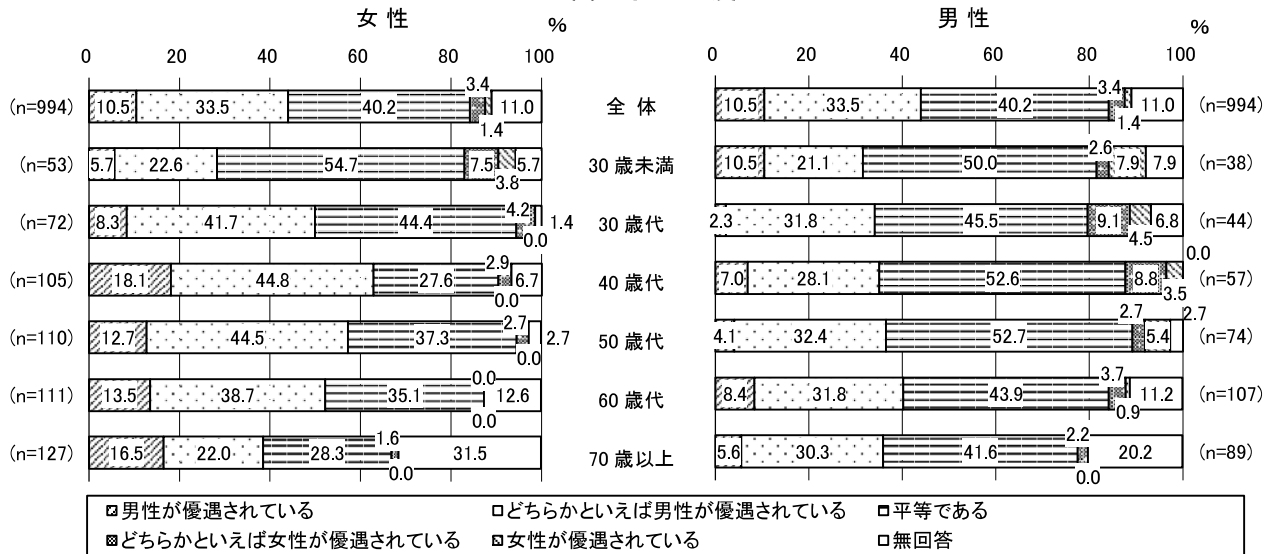
(5)地域活動、社会活動への参加では



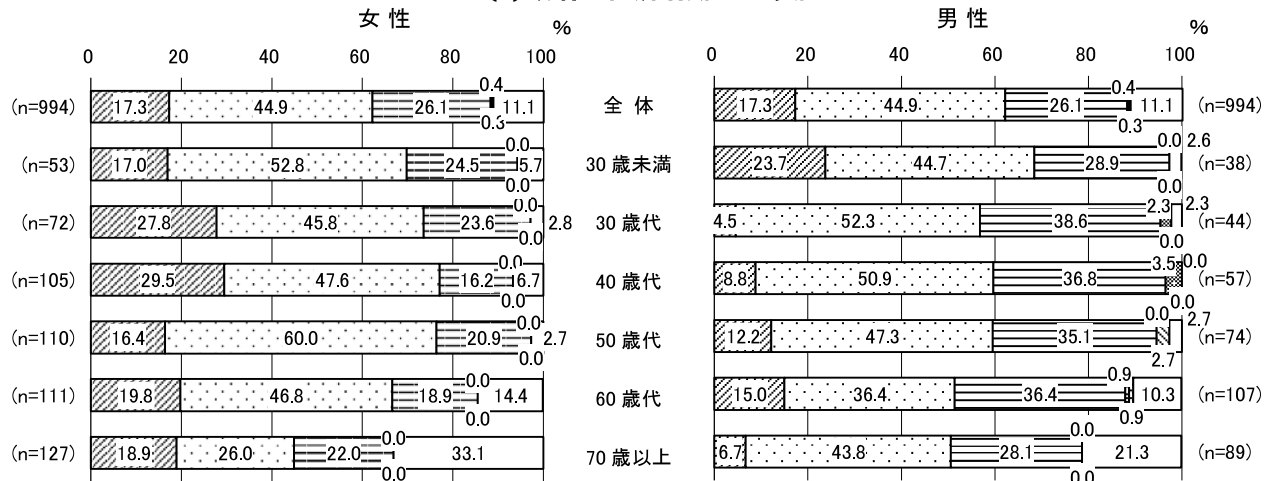
(6)社会通念・慣習やしきたり（冠婚葬祭など）では



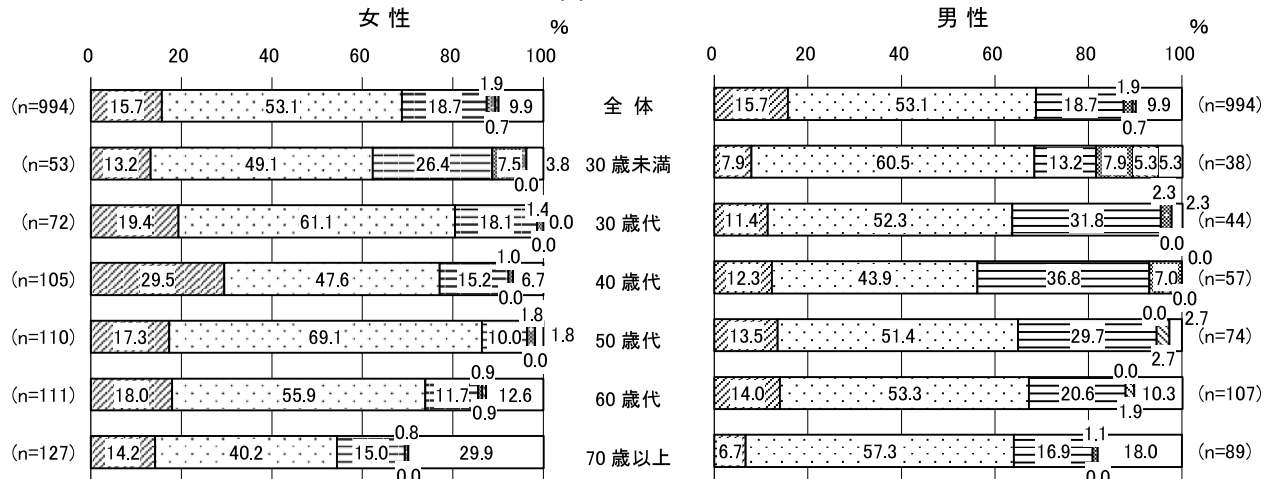
(7) 法律や制度では



(8) 政治・経済活動への参加では

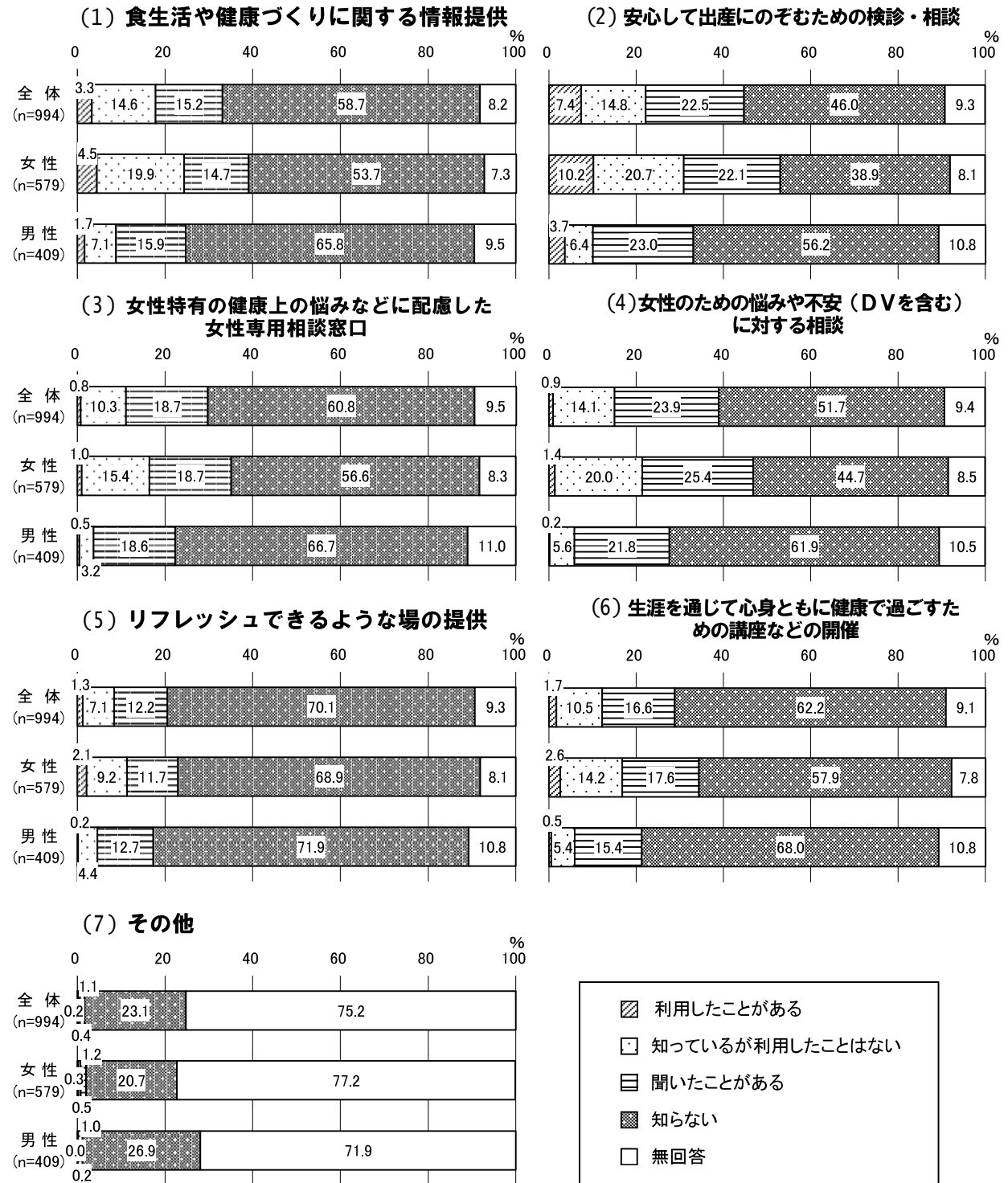


(9) 社会全体からみて

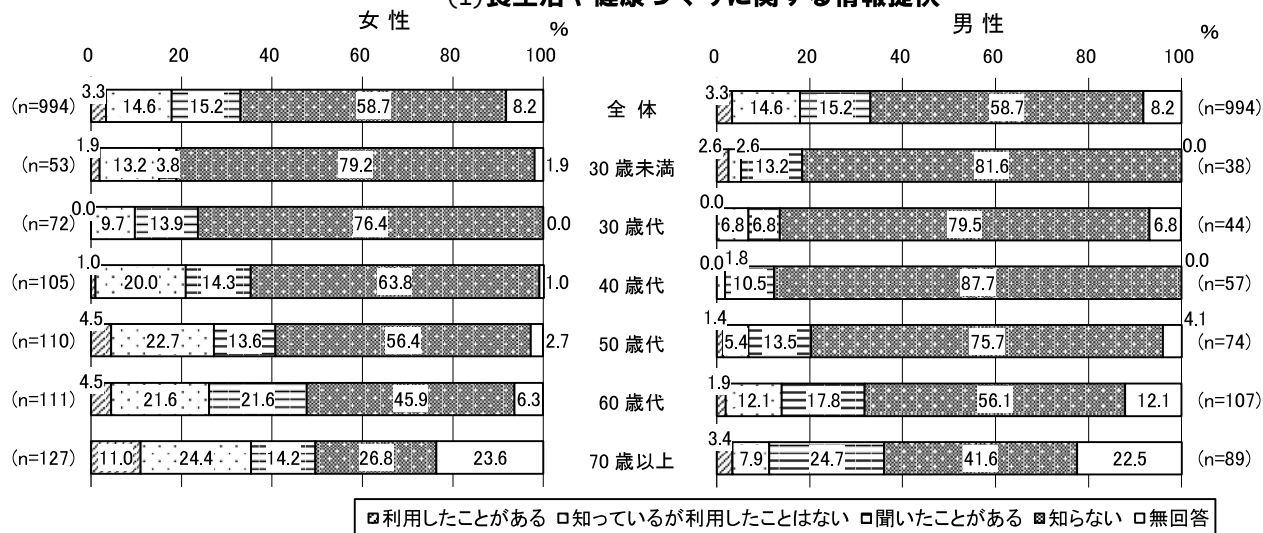


**問 40 東大阪市では、女性の心とからだの健康を保つために以下の取り組みを行っています
が、ご存じですか。(1)～(7) それぞれに○は1つ)**

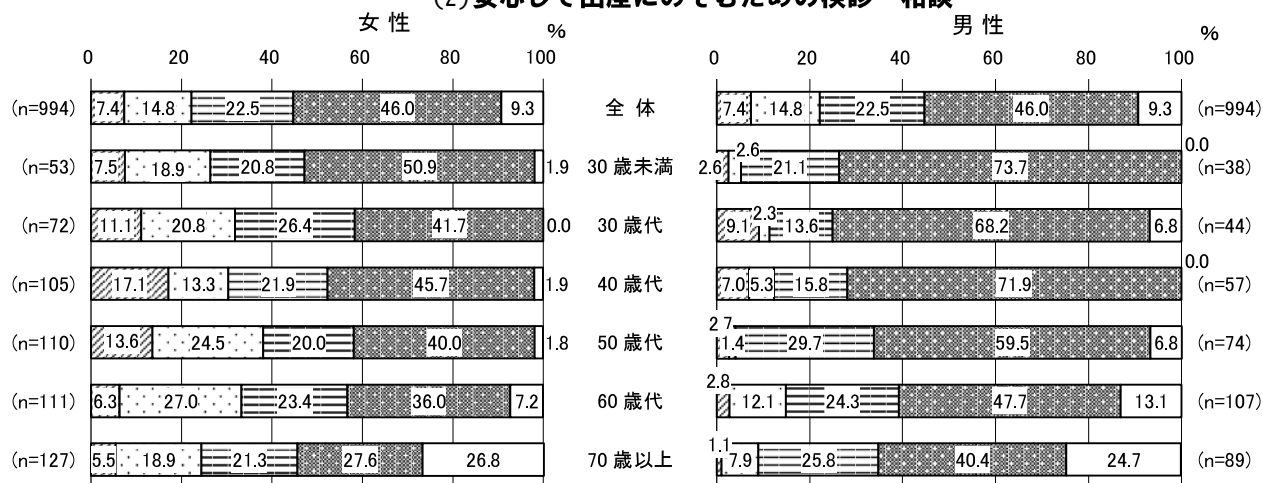
- 全体では、東大阪市の取り組みについて、「利用したことがある」の割合は、『(2)安心して出産にのぞむための検診・相談(7.4%)』『(1)食生活や健康づくりに関する情報提供(3.3%)』が比較的高く、これら以外の項目はいずれも2%未満の割合です。
- 「利用したことがある」「知っているが利用したことはない」「聞いたことがある」の合計値では、『(2)安心して出産にのぞむための検診・相談(44.7%)』『(4)女性のための悩みや不安に対する相談(38.9%)』『(1)食生活や健康づくりに関する情報提供(33.1%)』『(3)女性特有の健康上の悩みなどに配慮した女性専用相談窓口(29.8%)』『(6)生涯を通じて心身ともに健康で過ごすための講座などの開催(28.8%)』などとなります。
- 上記の3つの選択肢の合計割合を性別・年齢別にみると、『(2)安心して出産にのぞむための検診・相談』は女性30歳代～50歳代で高く、女性40歳代では17.1%が「利用したことがある」としています。『(1)食生活や健康づくりに関する情報提供』は女性で高く、また高齢になるほどにその割合が高くなっています。『(3)女性特有の健康上の悩みなどに配慮した女性専用相談窓口』は女性60歳代でもっとも高いです。『(4)女性のための悩みや不安(DVを含む)に対する相談』は女性50歳代・40歳代などで比較的高く、いずれも「利用したことがある」が約3%の割合です。



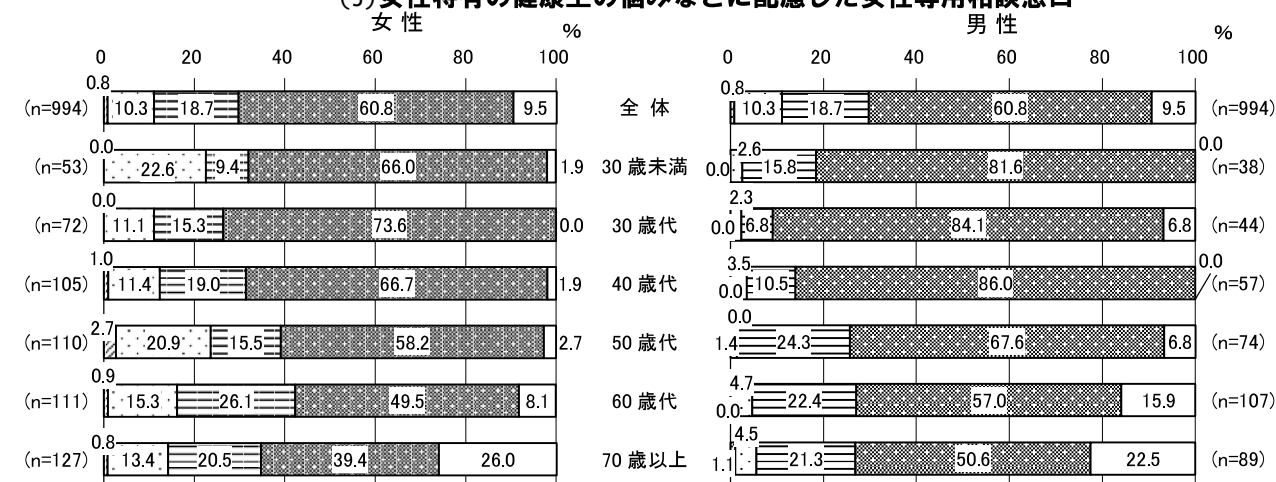
(1) 食生活や健康づくりに関する情報提供



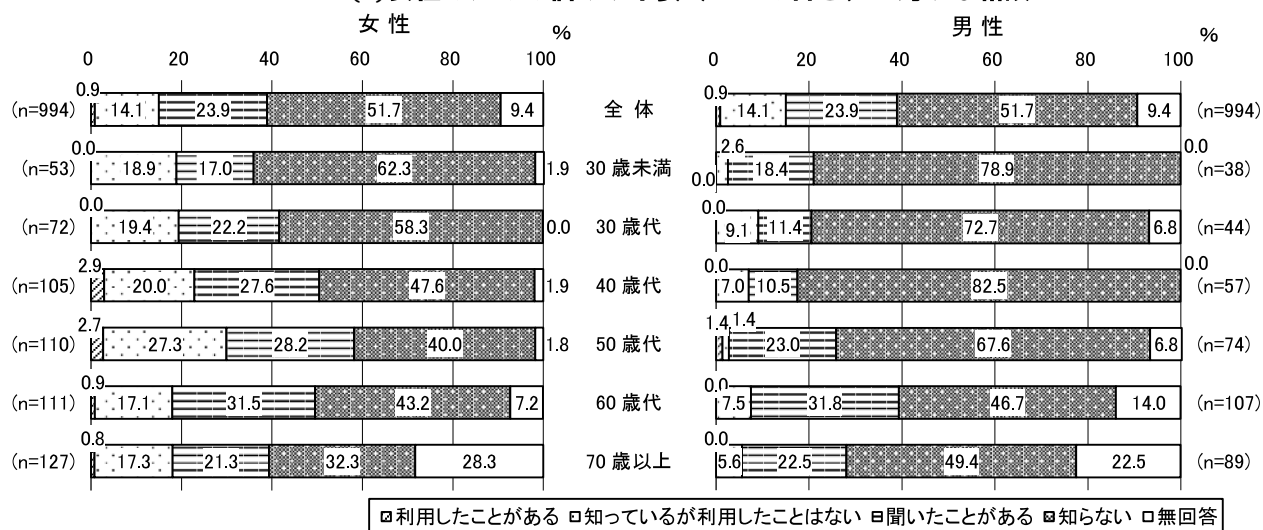
(2) 安心して出産にのぞむための検診・相談



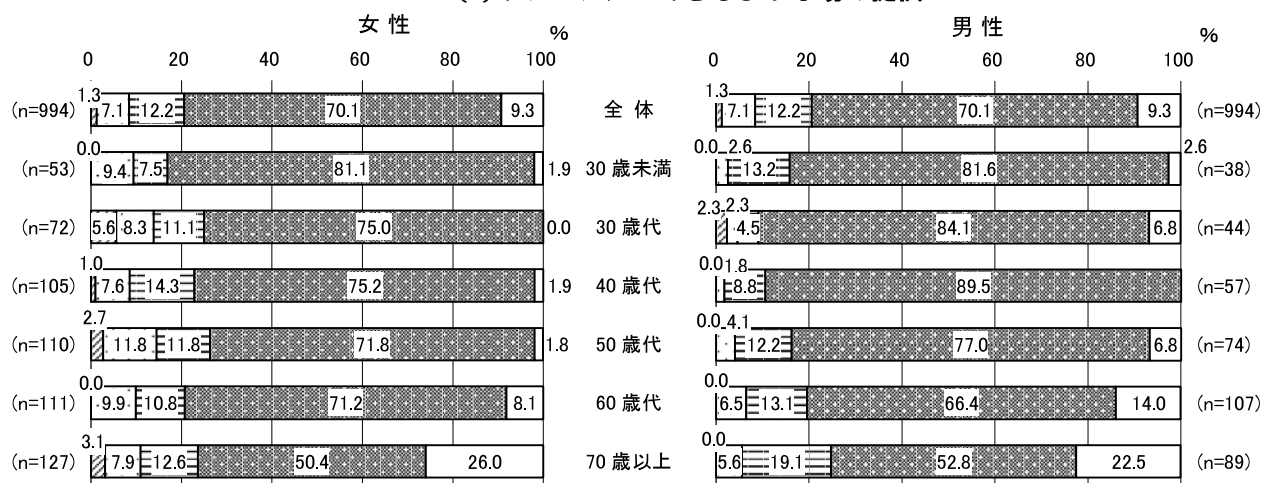
(3) 女性特有の健康上の悩みなどに配慮した女性専用相談窓口



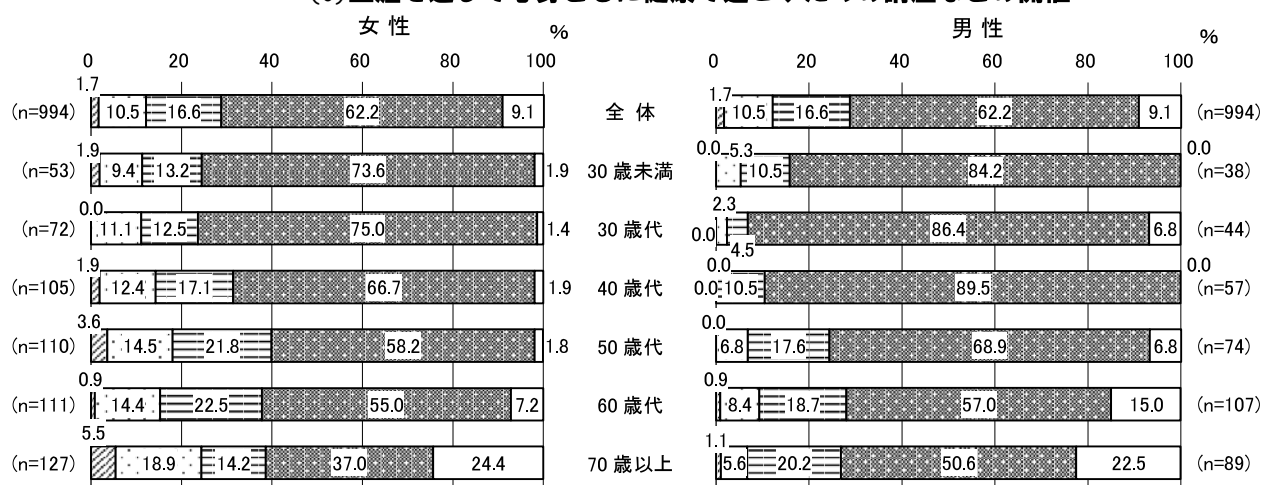
(4) 女性のための悩みや不安（DVを含む）に対する相談



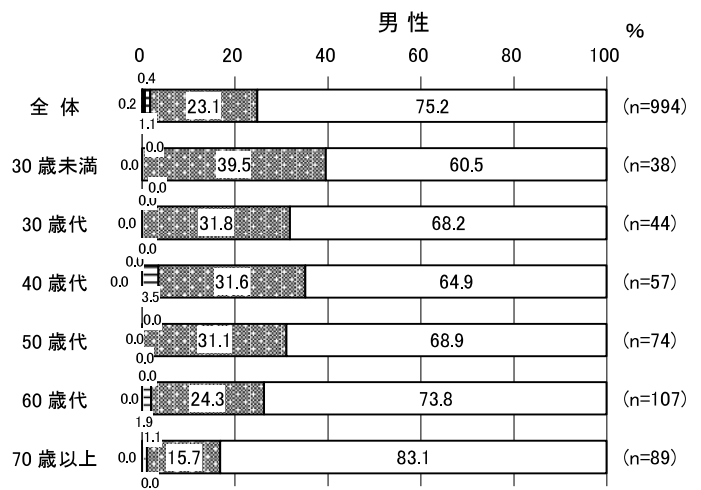
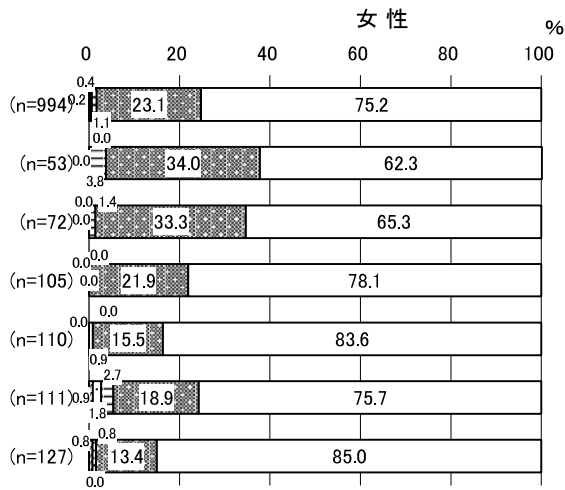
(5) リフレッシュできるような場の提供



(6) 生涯を通じて心身ともに健康で過ごすための講座などの開催



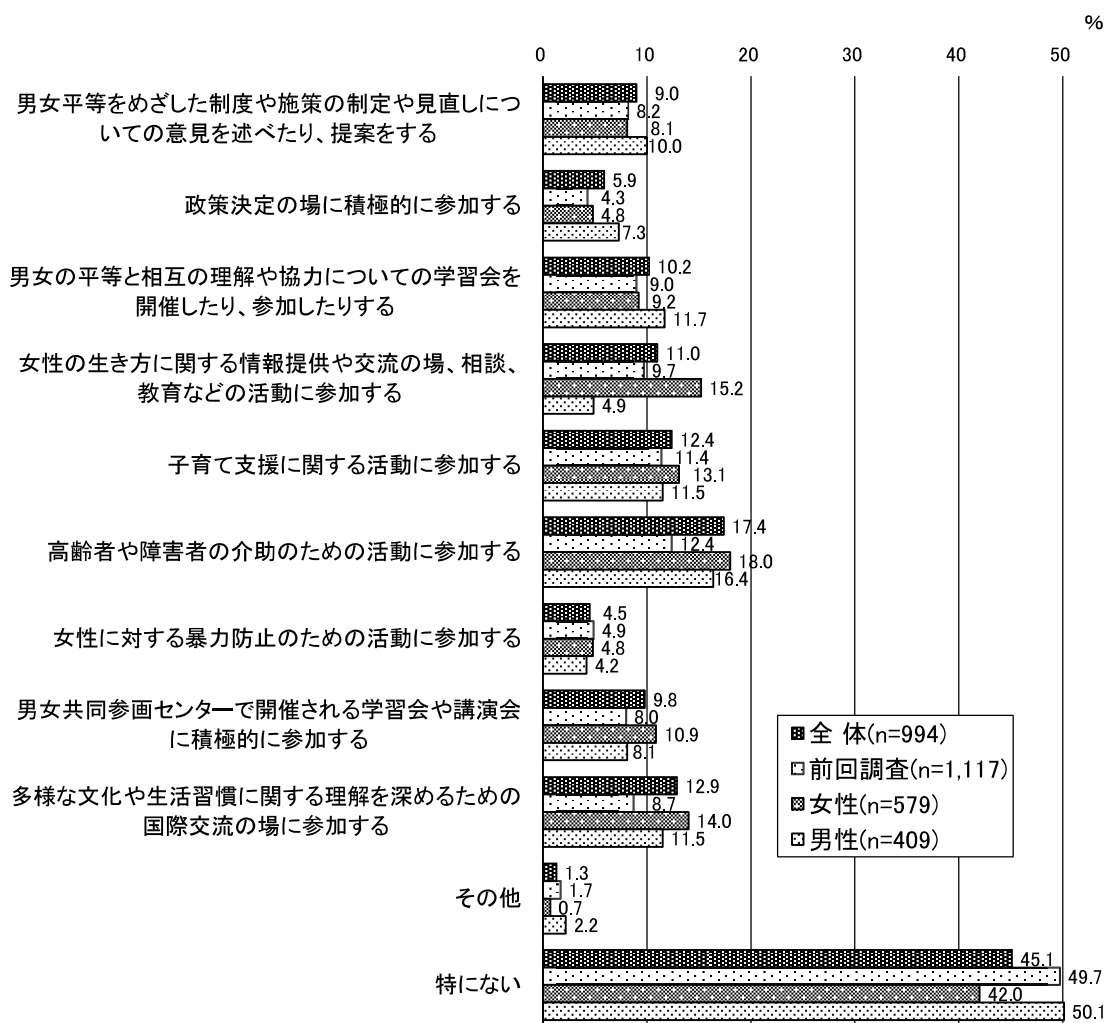
(7) その他



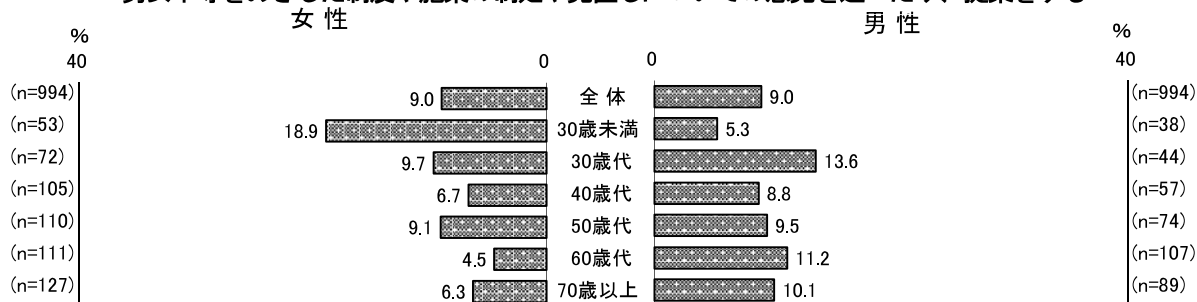
問 41 あなたは、「男女共同参画社会」を推進するために、どのような活動に参加したいと思いますか。(〇はいくつでも)

- 全体では、参加したい活動については「特にない」を除くと、20%以上の支持を得ている選択肢はなく、「高齢者や障害者の介助のための活動に参加する」(17.4%)、「多様な文化や生活習慣に関する理解を深めるための国際交流の場に参加する」(12.9%)、「子育て支援に関する活動に参加する」(12.4%)、「女性の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、教育などの活動に参加する」(11.0%)、「男女の平等と相互の理解や協力についての学習会を開催したり、参加したりする」(10.2%)が10%台です。
- 性別・年齢別にみると、「高齢者や障害者の介助のための活動に参加する」「多様な文化や生活習慣に関する理解を深めるための国際交流の場に参加する」では女性30歳未満で高く、「子育て支援に関する活動に参加する」では女性30歳未満や女性30歳代で高い意欲がみられます。このほか「高齢者や障害者の介助のための活動に参加する」の女性70歳以上や、「子育て支援に関する活動に参加する」の男性30歳代でも比較的高いです。

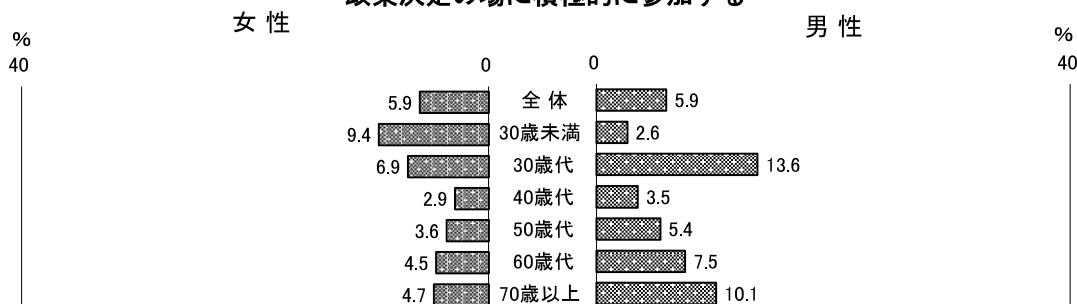
男女共同参画社会推進のために参加したい活動



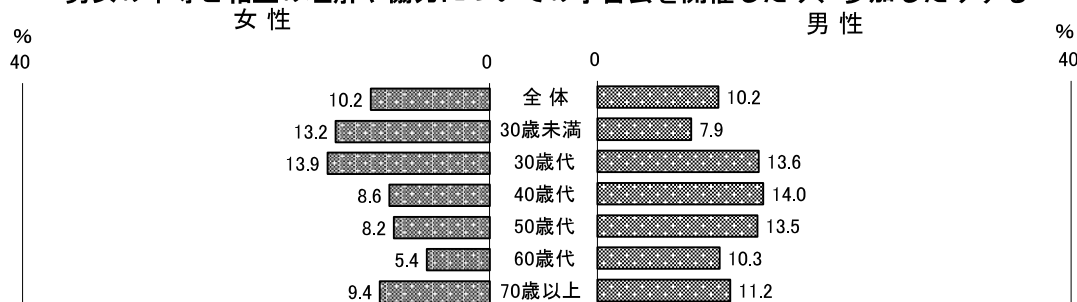
男女平等をめざした制度や施策の制定や見直しについての意見を述べたり、提案をする



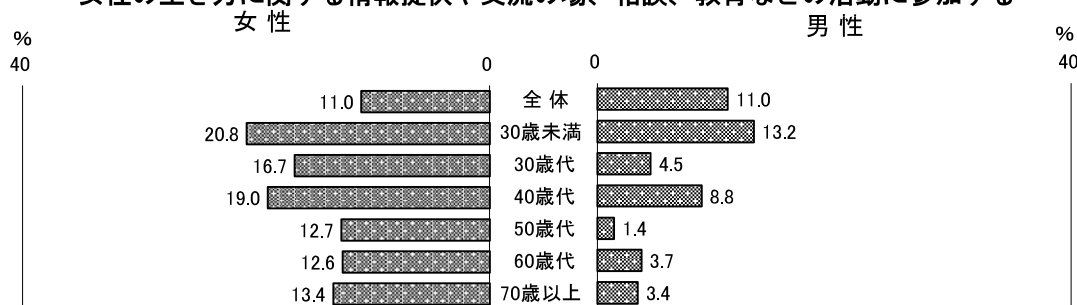
政策決定の場に積極的に参加する



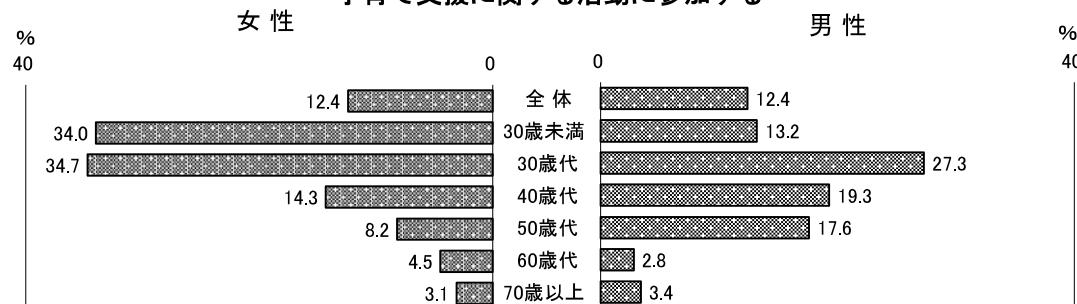
男女の平等と相互の理解や協力についての学習会を開催したり、参加したりする

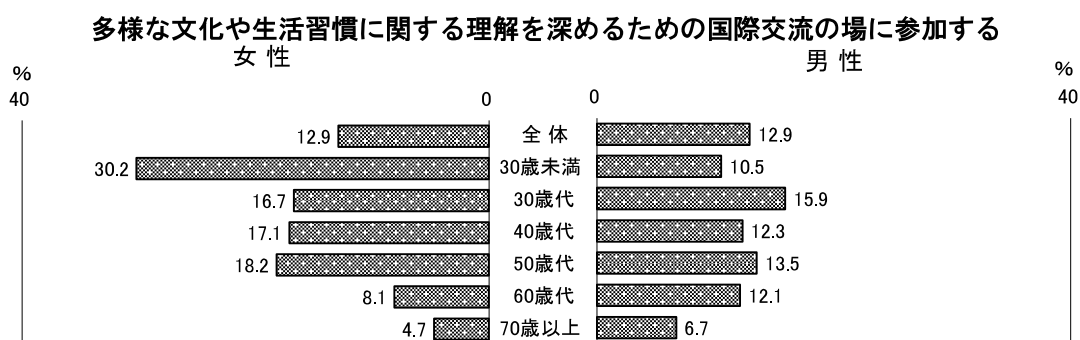
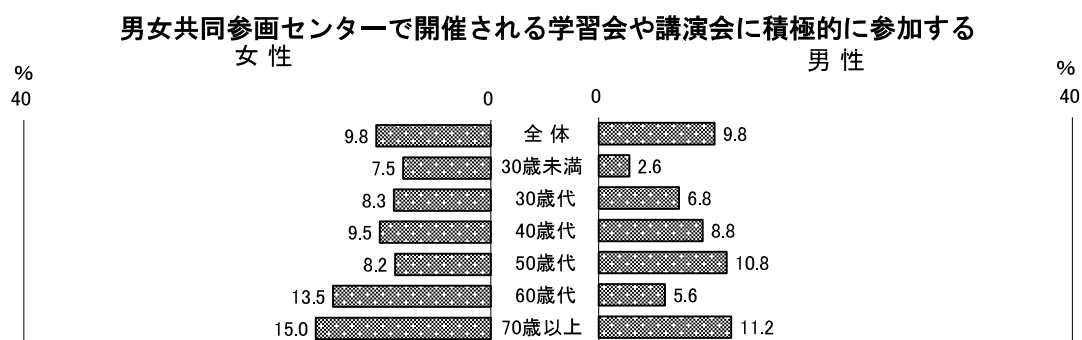
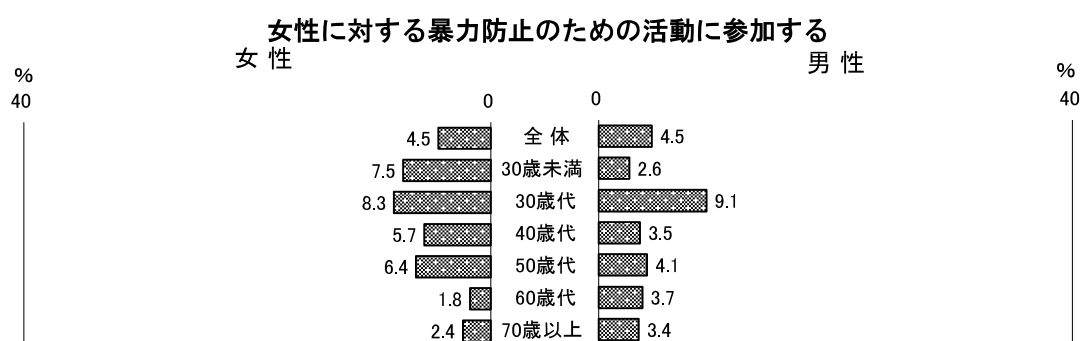
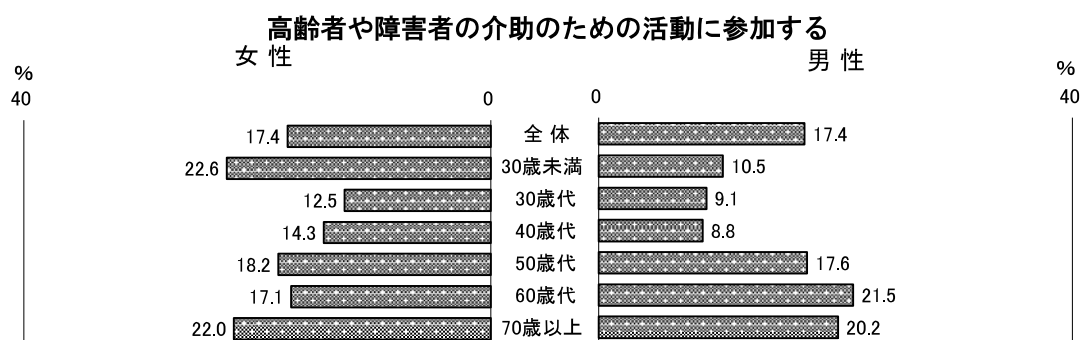


女性の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、教育などの活動に参加する



子育て支援に関する活動に参加する



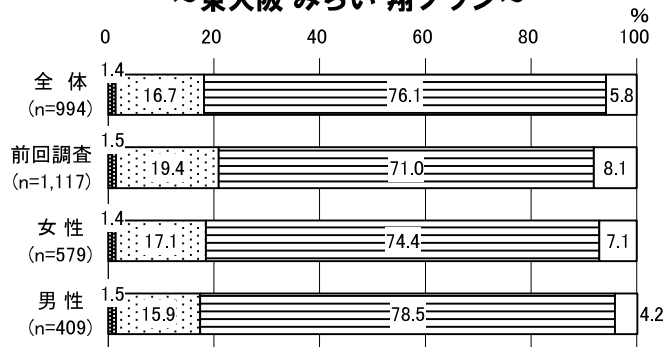


問 42 あなたは、次の法律や言葉、東大阪市の取り組みをご存じですか。

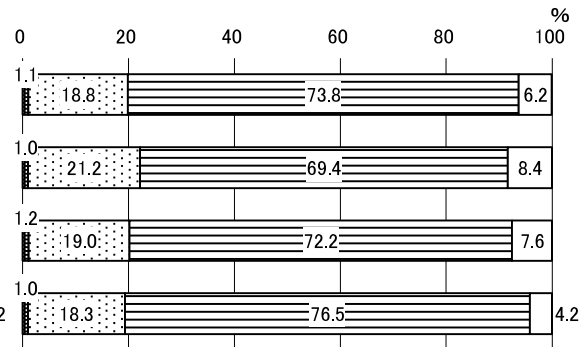
〔(1)～(15)それぞれに○は1つ〕

- 全体では、各種制度や用語の認知度として、「よく知っている」とする割合の高い項目は、『(4)男女雇用機会均等法(19.9%)』『(8)ストーカー行為規制法(16.9%)』『(9)DV 防止法(13.5%)』『(6)育児・介護休業法(12.0%)』『(13)ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)(10.4%)』『(12)ジェンダー（社会的性別）(9.8%)』などです。
- 逆に「知らない」とする割合が高いのは、『(14)リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）(84.9%)』『(11)ポジティブ・アクション（積極的改善措置）(81.2%)』『(1)東大阪市男女共同参画推進計画～東大阪 みらい 翔プラン～(76.1%)』『(2)東大阪市男女共同参画推進条例(73.8%)』などです。
- 前回調査との比較では、「よく知っている」割合が、前回調査から3ポイント以上上昇した項目は、『(12)ジェンダー（社会的性別）』『(13)ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）』です。
- 性別でみると、全体的に男女いずれかに偏るという傾向はみられず、またその差が大きな項目もみられません。
- 性別・年齢別にみると、主な項目について、「よく知っている」「聞いたことがある」の割合の合計値よりも「知らない」割合が高いものとしては、『(4)男女雇用機会均等法』では男性40歳代、『(8)ストーカー行為規制法』では男性40歳代、『(9)DV 防止法』では男性30歳未満と男性40歳代、『(6)育児・介護休業法』では男性30歳未満・40歳代・50歳代、『(13)ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）』では女性30歳代を除くすべての層、『(12)ジェンダー（社会的性別）』は女性30歳未満と女性30歳代を除くすべての層となっています。女性の30歳未満と30歳代の層でよく知られ、男性の30歳代・40歳代で周知度が低い傾向がみられます。

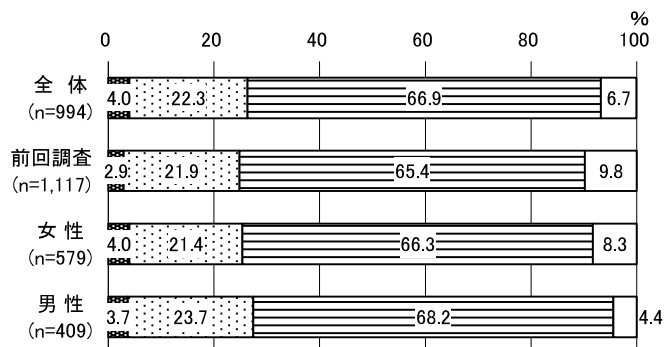
(1) 東大阪市男女共同参画推進計画
～東大阪 みらい 翔プラン～



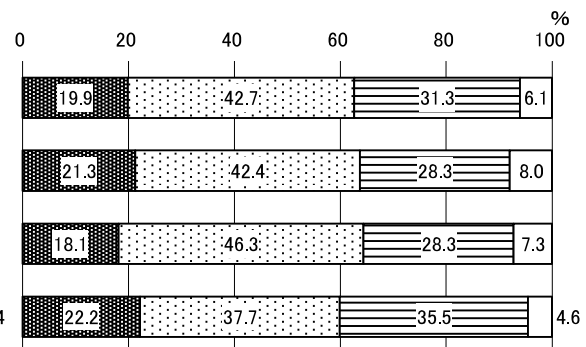
(2) 東大阪市男女共同参画推進条例



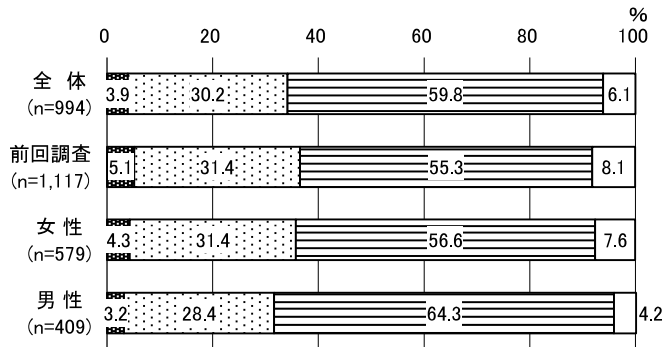
(3) 男女共同参画社会基本法



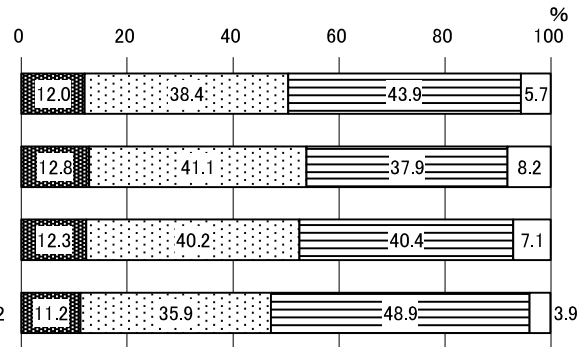
(4) 男女雇用機会均等法



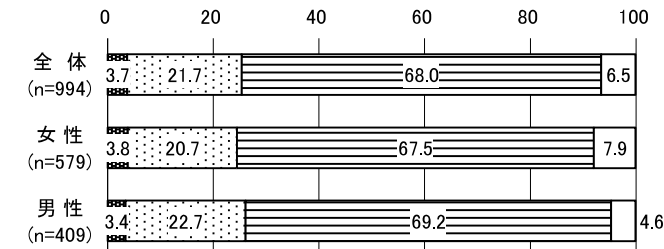
(5) 東大阪市子どもを虐待から守る条例



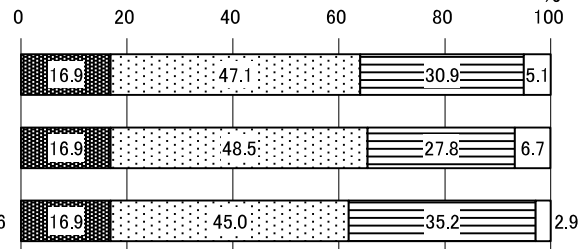
(6) 育児・介護休業法



(7) 女子差別撤廃条約



(8) ストーカー行為規制法

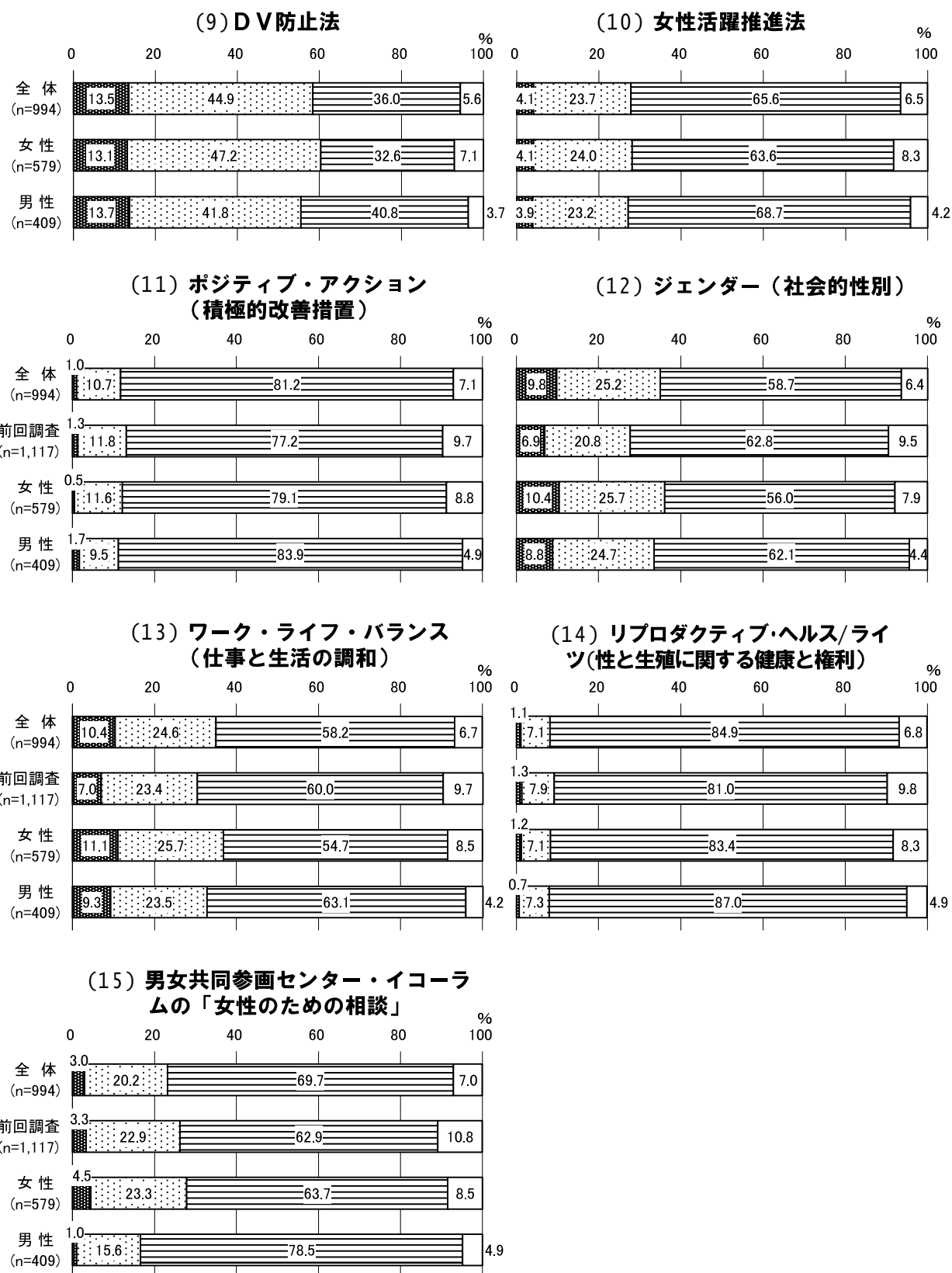


よく知っている

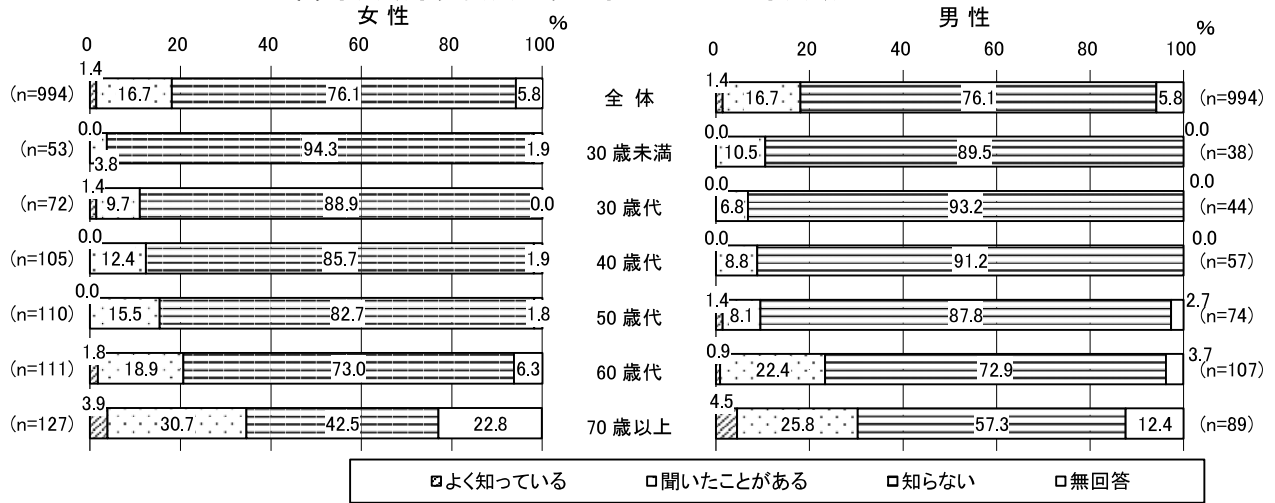
聞いたことがある

知らない

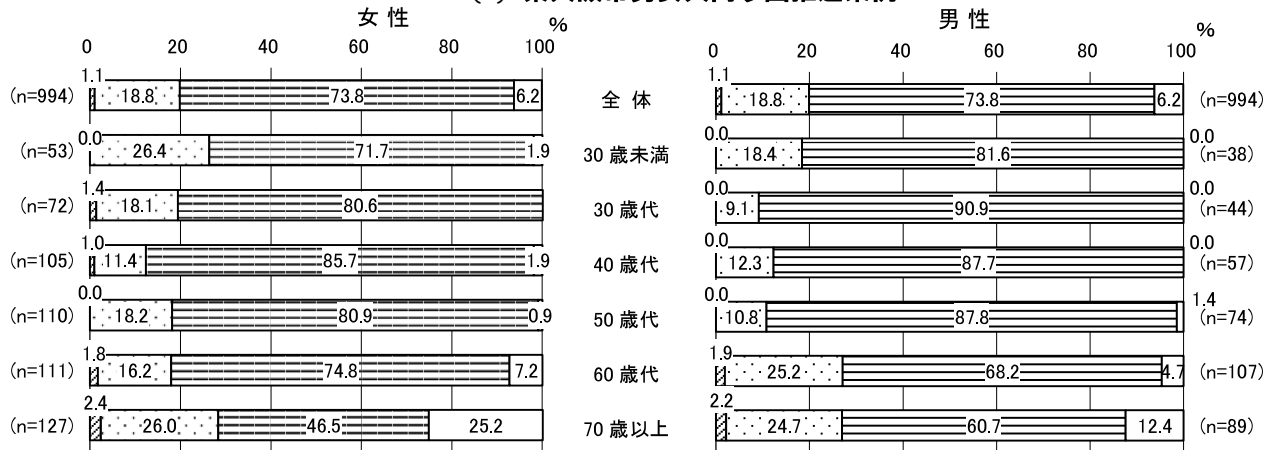
無回答



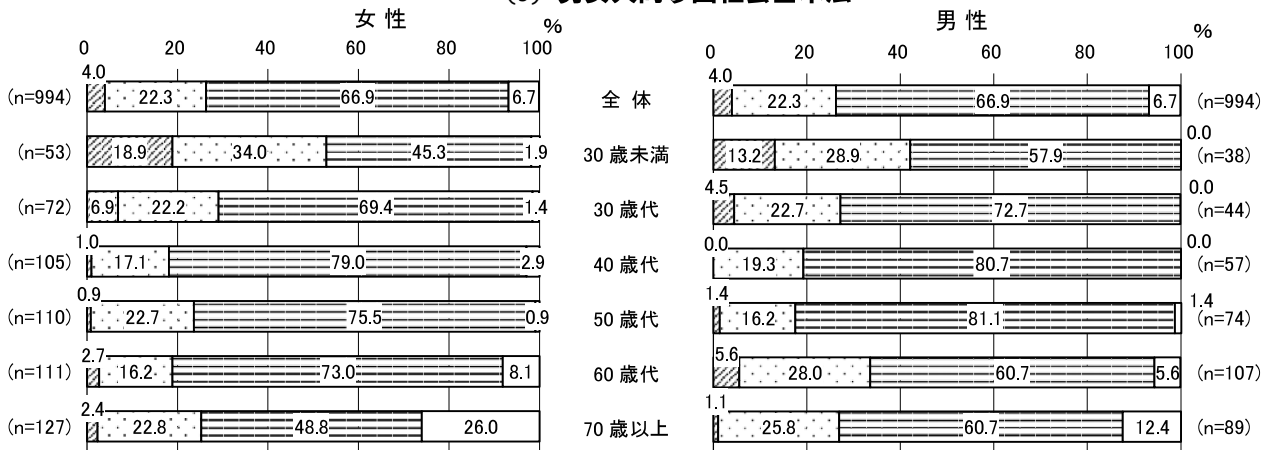
(1) 東大阪市男女共同参画推進計画 ～東大阪 みらい 翔プラン～



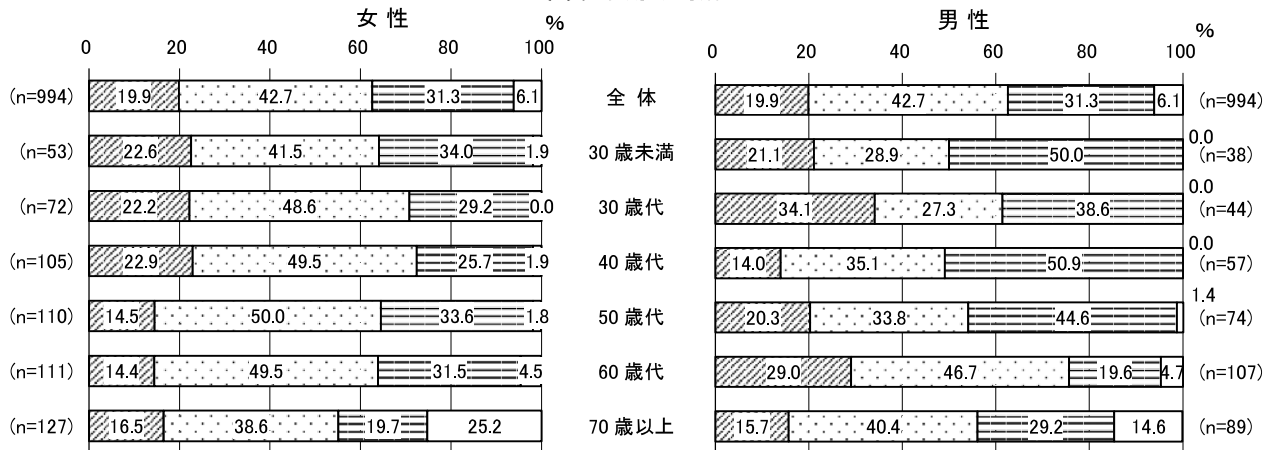
(2) 東大阪市男女共同参画推進条例



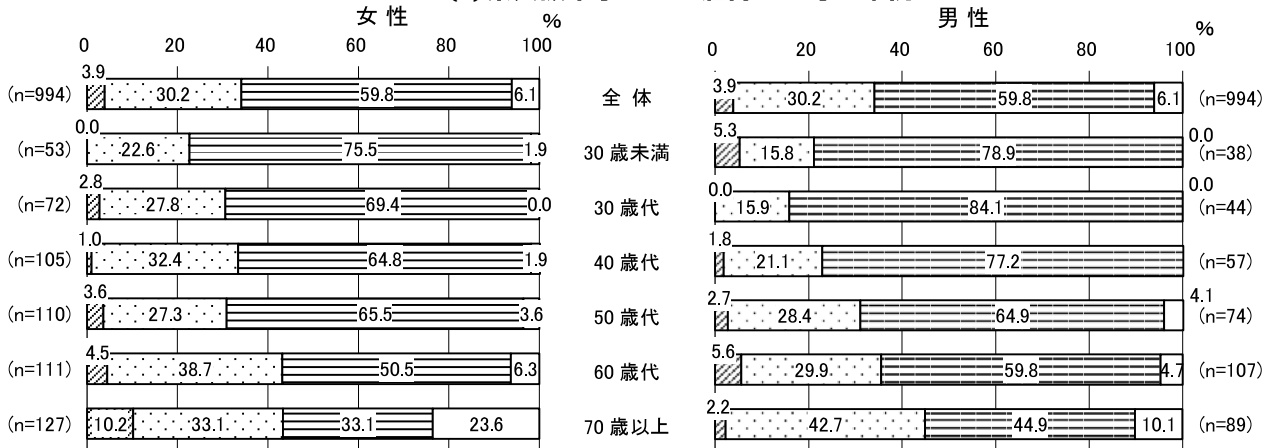
(3) 男女共同参画社会基本法



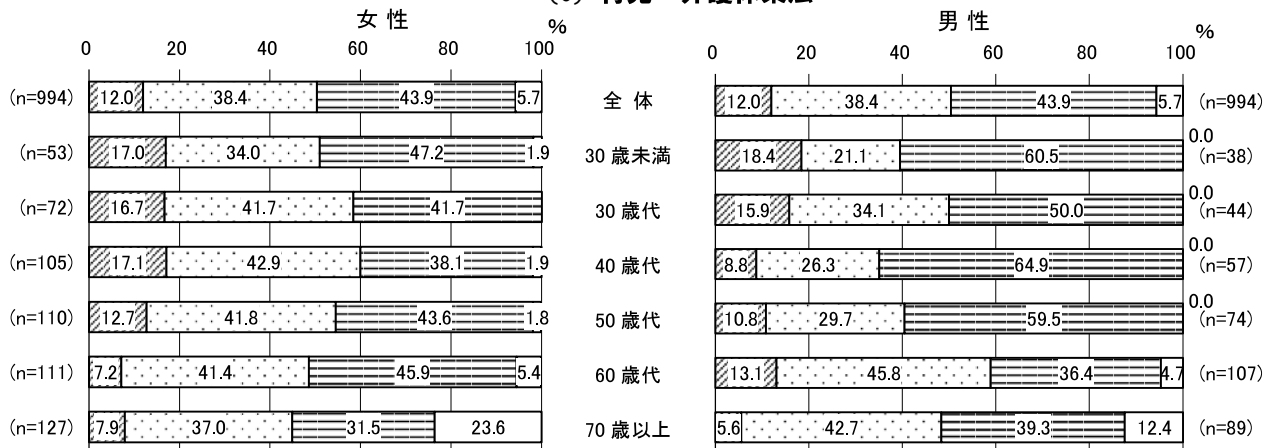
(4) 男女雇用機会均等法



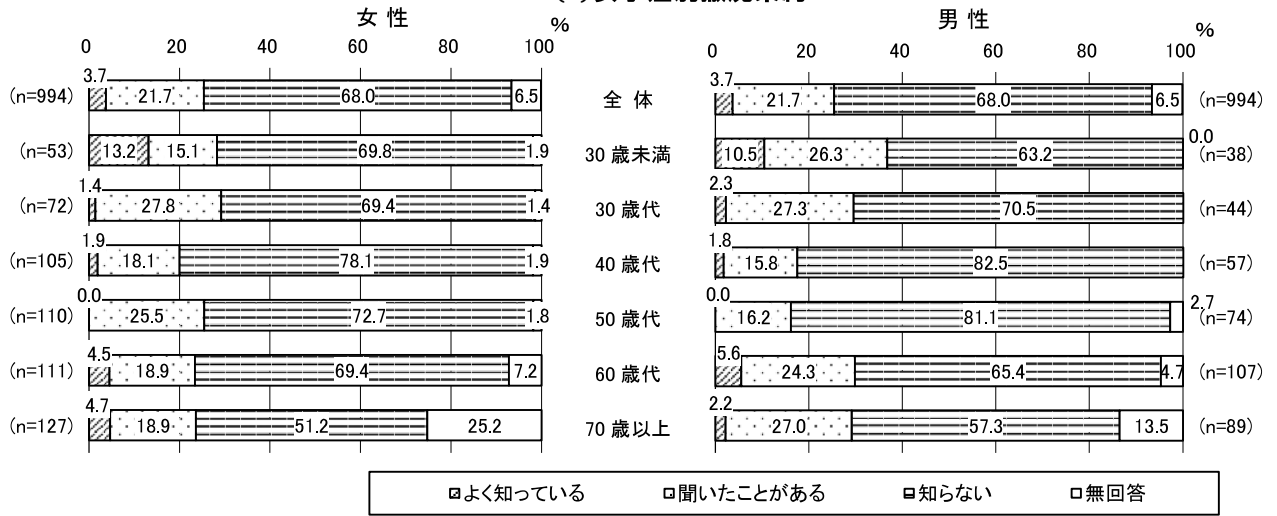
(5) 東大阪市子どもを虐待から守る条例



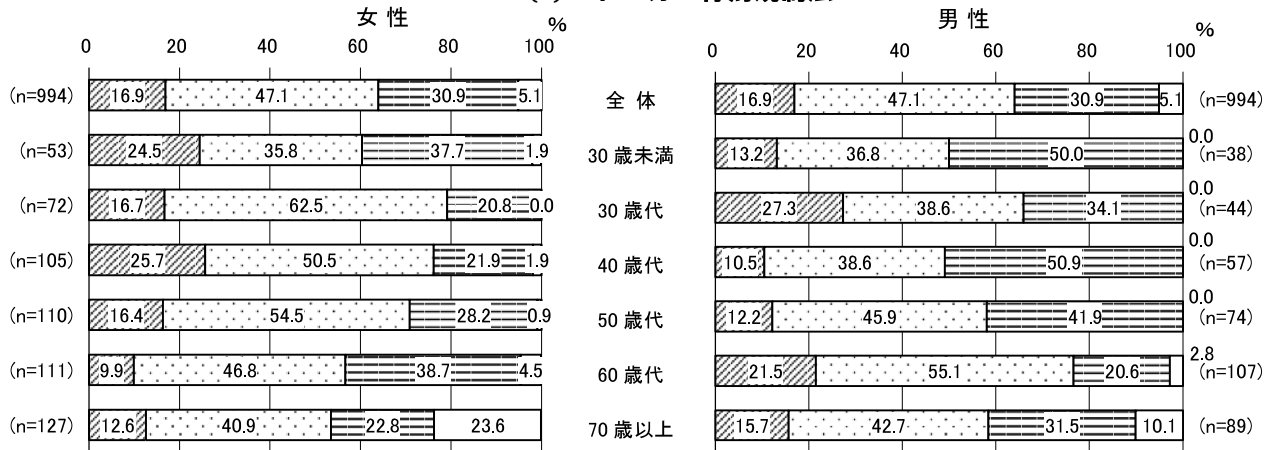
(6) 育児・介護休業法



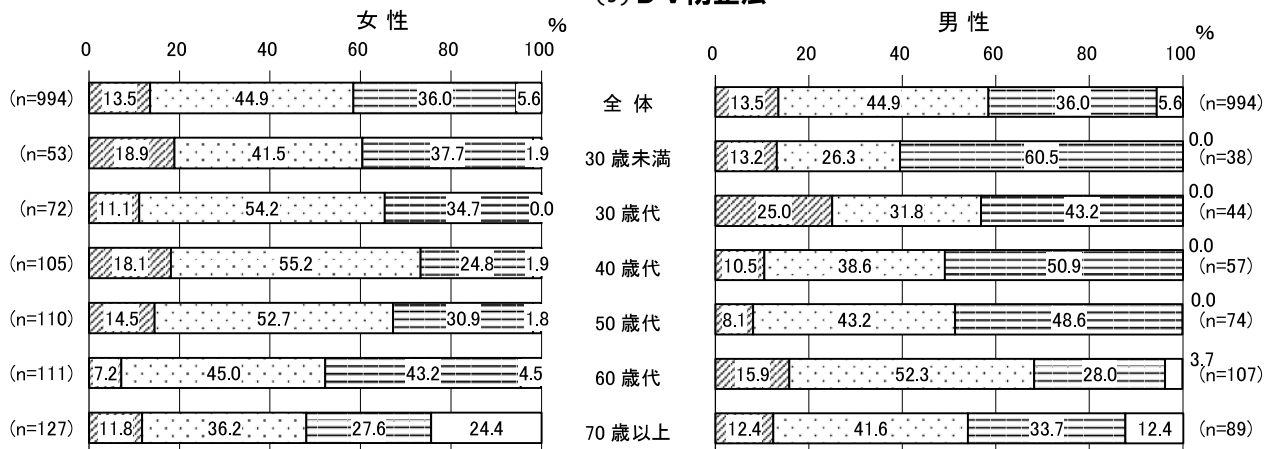
(7) 女子差別撤廃条約



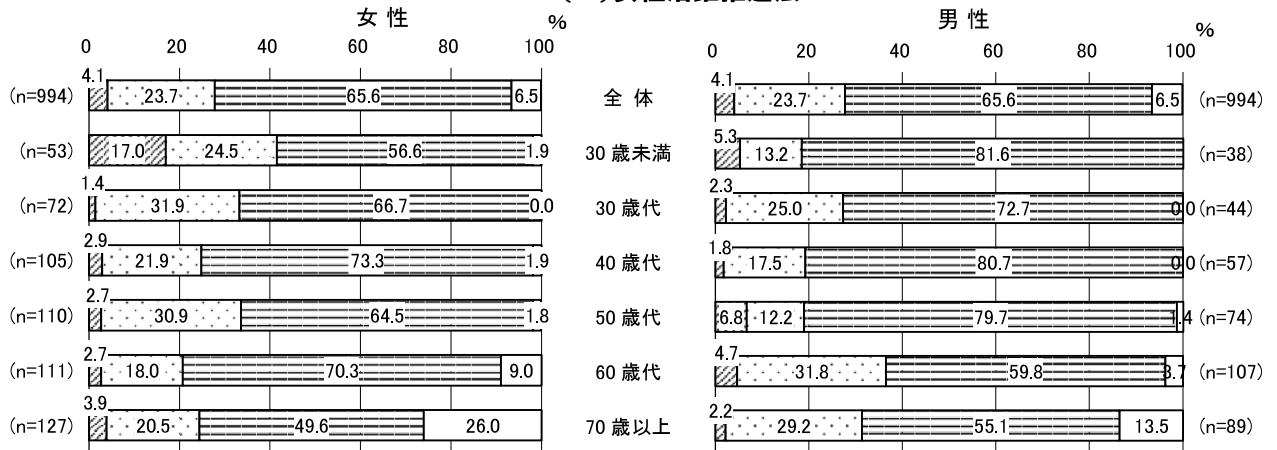
(8) ストーカー行為規制法



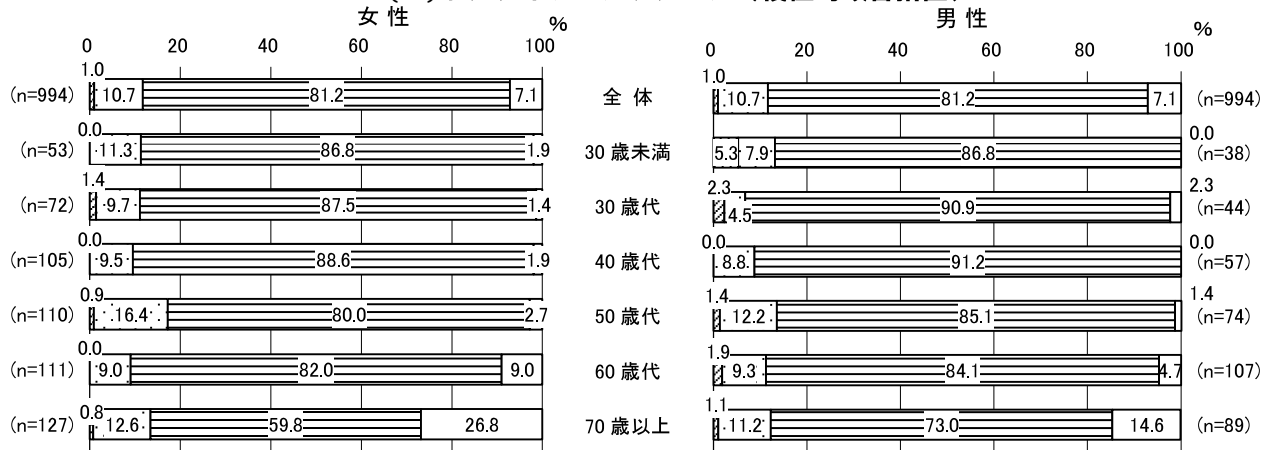
(9) DV防止法



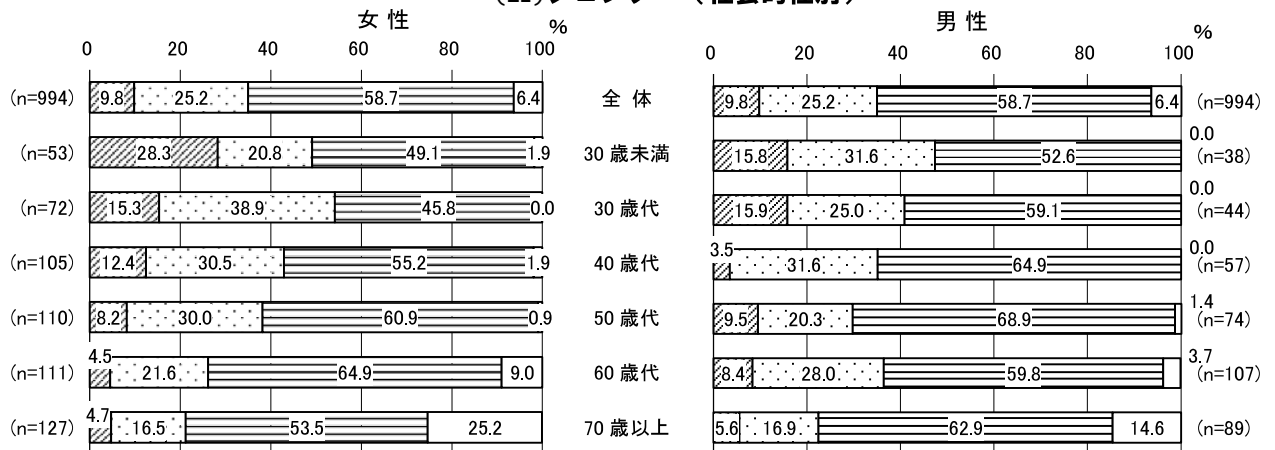
(10)女性活躍推進法



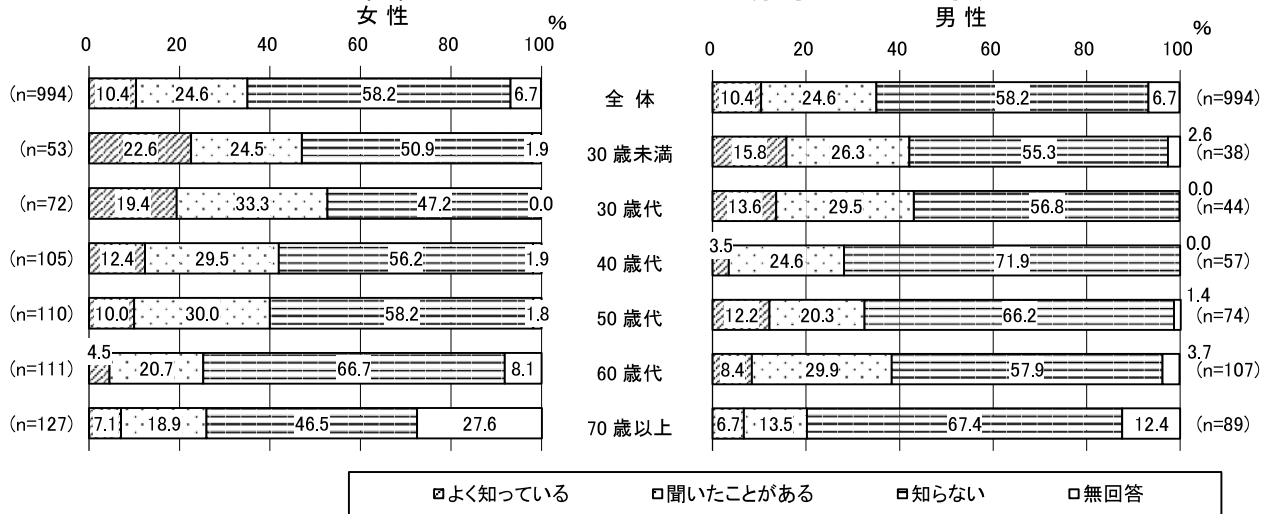
(11)ポジティブ・アクション（積極的改善措置）



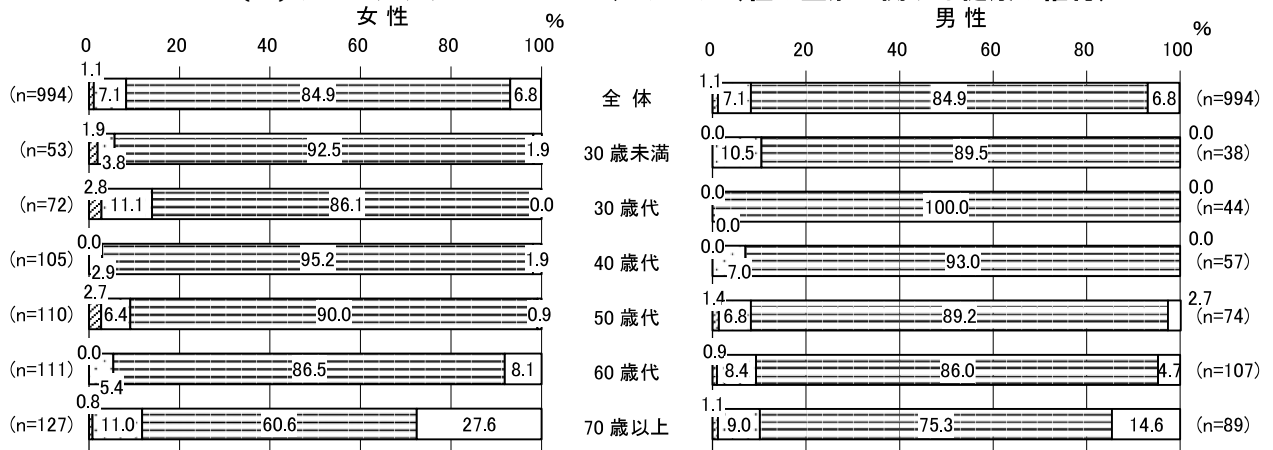
(12)ジェンダー（社会的性別）



(13)ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）



(14)リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）



(15)男女共同参画センター・イコーラムの「女性のための相談」

